

多賀城市市民活動サポートセンター
令和 6 年度運営業務成果報告書

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

令和 7 年 3 月 31 日

令和6年度運営業務成果報告書 目次

数字で見た令和6年度	1
令和6年度の主なトピック／出来事／メディア掲載	2
I 令和6年度運営業務報告	
1 方針	
(1)3ヵ年(令和5～7年度)の施設運営方針	9
(2)令和5～7年度ロードマップ	13
2 令和6年度成果・課題	
(1)令和6年度成果・課題	14
(2)令和6年度実施事業一覧	16
3 運営状況	
(1)利用状況集計	
1)総利用件数・貸室利用率	17
2)利用団体の活動分野	18
3)利用団体の属性	19
参考-1:主な項目の利用状況推移(平成20～令和6年度)	20
参考-2:情報関連業務利用状況推移(平成20～令和6年度)	21
(2)相談対応実績	22
参考-3:相談対応推移(平成20～令和6年度)	30
(3)情報提供	
1)団体情報ファイル・団体紹介シート	31
2)ウェブサイト・ブログ・X(旧ツイッター)	36
3)たがさぼ文庫	37
(4)場の提供	
1)事務用ブース利用状況／事務用ブース入居団体インキュベート相談.....	38
2)フリースペース利用状況	39
(5)他団体・他機関との連携	
1)各会議・実行委員会への参加	43
2)他部署・他機関との連携事例	48
(6)スタッフの研修への参加	54
4 事業実施状況	
(1)まちをともに創る人を増やす事業	
1)TSC運営への市民参画機会創出事業	55
2)多賀城のまちの未来を描くフューチャーセッション事業	59
(2)関わりしるを増やす支援事業	
1)自治会・町内会等の関わりしるを増やす支援事業	65
(3)新たな地域の担い手発掘・育成事業	
1)新しい人材活動支援事業	79
2)市民参画促進事業	96
(4)NPO支援事業	
1)NPOつながり支援事業	113
(5)情報発信事業	
1)フリーペーパー「tag」発行/情報発信事業.....	123
II 令和7年度事業計画	
1 令和5～7年度ロードマップ[修正版]	136
2 令和7年度事業計画	137
III 添付資料	

数字で見た令和 6 年度

1. 総利用者数 のべ 28,157 人

前年度と比較すると、総利用件数は減少したが、総利用者数は約 2,300 人増えた。

→詳細は「3 運営状況（1）利用状況集計」を参照

2. 相談対応件数 のべ 336 件

前年度と比較すると 6 件減少した。

→詳細は「3 運営状況（2）相談対応実績」を参照

3. 配架情報総数 1,530 種類

→詳細は「3 運営状況（1）利用状況集計 参考-2：情報関連業務利用状況推移（平成 20～令和 6 年度）」を参照

4. 66 本の企画を実施し、のべ 2,483 人、386 団体が参加（共催事業も含む）

→詳細は「4 事業実施状況」を参照

5. 4 の団体・個人が、団体・活動の立ち上げや法人化の相談に来館した

→詳細は「3 運営状況（2）相談対応実績 市民活動相談の内訳■ステップ」を参照

6. 団体情報は 30 団体増えて 2,331 団体に 二市三町では 9 団体増えて 361 団体に

→詳細は「3 運営状況（3）情報提供 1）団体情報ファイル」を参照

令和 6 年度の主なトピック

多賀城市市民活動サポートセンター（以下、T S C）は、平成 20 年 6 月の開館以来、地域づくりの拠点として N P O や自治会・町内会、生涯学習団体等市民活動の力づけを行うとともに、市民・企業・行政等による協働の地域づくりをサポートし、開館より 16 年が経過した。

令和 5～7 年度 3 ヶ年の業務委託の 2 年目となる令和 6 年度の主なトピックは下記の 3 点である。

1. 市民発の多賀城のトピックを発信

ランチの時間にゲストの話聞く「多賀城 LUNCH トーク」を SHARE LOUNGE 多賀城と共催で今年度より開催。歴史、文化芸術、まちづくり、教育、共生社会などをテーマに、多賀城ゆかりのゲストを招いた。LUNCH トーク参加をきっかけに活動に参加する人がいるなど、市民活動や社会課題を知る機会を提供した。

また、旭ヶ岡町内会と共催で「多賀城みんなの地域学 旭ヶ岡の今は昔」を実施。地区の変遷をたどることができる資料の展示とトークショーを行い、市内外からの参加者に地域の資源を発信するとともに、魅力の再発見につながった。

2. 次世代の地域の担い手が一步踏み出す

今年度から実施した 10 代・20 代対象に想いを形にする講座「Tagajo Youth Challenge 部」では、中学生から大学生までの参加者のうち 2 人が実践に至った。また、雑貨市のボランティアの 7 割は学生で、「何かやってみたい」という次世代層が一步踏み出す機会を提供した。小学生対象の「きっずボランティア講座」では、前年度までの参加者が中学生になり、サポーターとして小学生の活動を支える役割を担い、人材の循環も生まれた。

3. 地域のさまざまな主体が出会い、連携が生まれるきっかけづくり

自治会・町内会の情報交換会ではテーマに関心のある市民活動団体、雑貨市集会では市民活動団体と事業者など、セクターを超えて「地域のために何かしたい」という人のつながりを生むことができた。幼保施設と地域の避難訓練には、周辺の公共施設、学校などにも参加が広がり、地域の防災力アップにつながるような機会をつくることができた。

令和 6 年度の主な出来事

令和 6 年

4 月

1 日	発行	「tag」109 号発行
1 日	施設管理	新予約システム運用開始
1～23 日	施設管理	事務用ブース新規入居団体募集（6 月）
1～23 日	施設管理	事務用ロッカー・レターケース利用団体募集
4 日	事業	防災人ミーティング
11 日	運営	分析チームを情報チーム・施設管理チームに変更
16 日	参加	多賀城市施設情報交換会

5 月

3～31 日	体制	スタッフ新人研修	
6 日	事業	たがさぼきっず広場	
10 日	施設管理	事務用ブース 6 月入居審査会	
11 日	体制	スタッフ 11 人体制	
25 日	事業	N P O いちから塾	
26 日	協力	多賀城フューチャーセッション喫茶来①	アウトリーチ
5/20～11/18	展示	市民寄贈図書・ニューズレター展示（1 階）	

6 月

1 日	発行	「tag」110 号発行	
1 日	施設管理	休館日スケジュール変更（2・4 水曜）	
11 日	協力	幼保施設と地域の避難訓練情報交換会【八幡地区】	アウトリーチ
22 日	事業	自治会・町内会情報交換会「草刈り」「集会所活用」	
24 日	事業	たがさぼ市民ミーティング「雑貨市」	
28 日	協力	幼保施設と地域の避難訓練【八幡地区】	アウトリーチ

7 月

1～23 日	施設管理	事務用ブース新規入居団体募集（9 月）	
4～23 日	施設管理	利用者アンケート実施	
8 日	参加	多賀城市環境審議会	
18 日	協力	Taga 懇「多賀城未来の懇談会」（大代地区）	アウトリーチ
19 日	参加	多賀城市施設情報交換会	
20 日	事業	たがさぼ交流会	
24 日	施設管理	避難訓練	
25 日	協力	Taga 懇「多賀城未来の懇談会」（西部地区）	アウトリーチ

令和6年度多賀城市市民活動サポートセンター年間事業報告書

25 日 参加 協働教育本部研修

8 月

1 日	事業	「tag」111 号発行	
8 日	協力	Taga 懇「多賀城未来の懇談会」(中央地区)	アウトリーチ
9 日	施設管理	事務用ブース 9 月入居審査会	
9 日	事業	多賀城 LUNCH トーク①「多賀城碑マニア」	アウトリーチ
18 日	事業	Tagajo Youth Challenge 部① オリエンテーション	
23 日	施設管理	インキュベート相談会(旭ヶ岡町内会・傾聴の会多賀城)	
30 日	事業	多賀城みらい自治トーク 子ども会×町内会	
8/1～	展示	豪雨災害(山形・秋田)支援情報(1 階)	
8/6～11/8	展示	ブース・ロッカー・レターケース活動報告書(1 階)	

9 月

1 日	協力	スロウ日和/SEND.	
6 日	事業	多賀城 LUNCH トーク②「ゲバサンバ」	アウトリーチ
8 日	事業	雑貨市きつずボランティア講座①	
9 日	協力	高崎中学校 総合的な学習の時間	アウトリーチ
12 日	協力	幼保施設と地域の情報交換会【鶴ヶ谷地区】	アウトリーチ
19 日	協力	貞山高等学校「国際理解講座」	アウトリーチ
20 日	協力	幼保施設と地域の情報交換会【高橋地区】	アウトリーチ
23 日	事業	Tagajo Youth Challenge 部② フィールドワーク	アウトリーチ
29 日	事業	NPO・市民活動パワーアップ講座① 「多様なメンバーと一緒に活動していくコツ」	
30 日	協力	幼保施設と地域のルート下見【高橋地区】	アウトリーチ
26 日～3/3	展示	能登半島豪雨災害支援情報(1 階)追加情報	
9/5～11/16	展示	船長小屋をのぞいてみよう(2 階)	

10 月

1 日	発行	「tag」112 号発行	
1 日	事業	たがさぼ市民ミーティング ヒアリング(社会福祉協議会)	アウトリーチ
2 日	協力	貞山高等学校 「総合的な探究の時間」地域国際交流活動	アウトリーチ
4 日	事業	多賀城 LUNCH トーク③「つなぐをデザインする」	アウトリーチ
4 日	事業	多賀城みらい自治トーク 子ども会×町内会②	
6 日	事業	雑貨市きつずボランティア講座②	
9 日	協力	出前いちから塾 貞山高等学校「総合的な探究の時間」	アウトリーチ
10 日	協力	高崎中学校総合学習 地域理解講話	アウトリーチ
10 日	協力	幼保施設と地域の避難訓練 【鶴ヶ谷地区】	アウトリーチ
13 日	協力	多賀城フューチャーセッション喫茶来②	アウトリーチ
15 日	協力	幼保施設と地域の避難訓練 【高橋地区】	アウトリーチ

18日	事業	NPOいちから塾～子どもと地域の繋がる想い編～	
27日	事業	NPO・市民活動パワーアップ講座② 「知っておきたい会費・寄付のこと」	

11月

1日	参加	市政功労者表彰式典	
2日	施設管理	利用者アンケート報告書閲覧開始	
8日	事業	多賀城 LUNCH トーク④「LGBTQ ゆるやかトーク」	アウトリーチ
8日	視察	北海道NPOサポートセンター視察	
9日	事業	多賀城市総合防災訓練ヒアリング取材	アウトリーチ
10日	事業	Tagajo Youth Challenge 部③ 「地域でやってみたいこと作戦会議」	
13日	協力	貞山高等学校「総合的な探究の時間」地域国際交流活動	アウトリーチ
14日	協力	高崎中学校「総合的な学習の時間」発表会	アウトリーチ
16日	事業	雑貨市集会	
16日	事業	雑貨市ボランティアいちから塾	
16日	事業	雑貨市きつずボランティア講座③	
19日	参加	多賀城市環境審議会	
24日	事業	NPO・市民活動パワーアップ講座③「効果的な広報のしかた」	
25日	事業	Tagajo Youth Challenge 部④ 伴走支援	
29日	視察	大崎市古川西部コミュニティ推進協議会視察	
29日	事業	たがさぼ市民ミーティング ヒアリング（生涯学習課）	アウトリーチ

12月

1日	発行	「tag」113号発行	
1～24日	施設管理	事務用ブース新規入居団体募集（2月）	アウトリーチ
6日	事業	多賀城 LUNCH トーク⑤ 「変幻自在なスパイスカレーとつながるトーク」	アウトリーチ
7日	事業	雑貨市きつずボランティア講座④	
7日	事業	雑貨市ボランティアいちから塾	
8日	事業	クリスマス雑貨市	
8日	事業	雑貨市きつずボランティア講座⑤	
15日	事業	Tagajo Youth Challenge 部⑤ 伴走支援	
17日	事業	防災人ミーティング「マレーシアと多賀城の情報交換」	
19日	協力	防災についての情報交換 @多賀城高等学校語学研究部・災害科学科	アウトリーチ
26日～	展示	たがさぼ文庫新入荷図書紹介	

令和 7 年

1 月

10 日	事業	多賀城 LUNCH トーク⑥ 「みんなが知らない宮城県ココがすごいよ話」	アウトリーチ
10 日	施設管理	事務用ブース 2 月入居審査会 (多賀城傾聴の会・旭ヶ岡町内会)	
16 日	施設管理	施設巡回訪問点検	
16 日	事業	インキュベート相談会 (多賀城イングリッシュサポーターズ)	
17 日	事業	インキュベート相談会 (高崎こども食堂らっこ広場)	
17 日	事業	防災人ミーティング「おしえてみんなの防災訓練」	
18 日	施設管理	事務用ブース 2 月入居審査会 (ドリーム Jr.)	
24 日	事業	インキュベート相談会 (一般社団法人 Golazo)	
26 日	事業	多賀城フューチャーセッション喫茶来③	アウトリーチ
31 日	参加	学校協働本部会議	
1/20～3/16	展示	多賀城みんなの地域学Ⅳ「旭ヶ岡の今は昔」	

2 月

1 日	発行	「tag」114 号発行	
6 日	事業	たがさぼ市民ミーティング ヒアリング (文化センター・中央公民館)	アウトリーチ
7 日	事業	多賀城 LUNCH トーク⑦ 「不登校の現状、今ここからできること」	アウトリーチ
9 日	事業	多賀城フューチャーセッション vol.2	
9 日	事業	たがさぼ市民ミーティング ヒアリング (子育てサポートセンター)	アウトリーチ
10 日	事業	たがさぼ市民ミーティング ヒアリング(鶴ヶ谷児童館)	アウトリーチ
11 日	事業	多賀城みんなの地域学Ⅳ トークショー「旭ヶ岡の今は昔」 ～海軍工廠・米軍ハウス・東北電力学園・東北学院大学～	
11 日	協力	Tagajo Youth Challenge 部 【実践】まちづくりの本を読んでみよう	
18 日	参加	多賀城市西部児童センター 令和 6 年度地域懇談会	アウトリーチ
18 日	事業	たがさぼ市民ミーティング ヒアリング (西部児童センター)	アウトリーチ
21 日	参加	多賀城市鶴ヶ谷児童館 令和 5 年度地域懇談会	アウトリーチ
27 日	事業	たがさぼ市民ミーティング「持続可能な地域のための人材」	

3 月

4 日	事業	喫茶来 ふりかえり	
4～11 日	展示	3.11 関連展示 (1 階)	
7 日	施設管理	事務用ブース入居団体インキュベート相談 (生涯学習 100 年	

		構想実践委員会)	
10 日	事業	多賀城 LUNCH トーク⑧「震災と俳句」	アウトリーチ
12 日～	展示	大船渡山火事災害支援情報（1 階）	
13 日	施設管理	消防訓練（利用者を交えての訓練）	
14 日	施設管理	事務用ブース入居団体インキュベート相談（宮城県学童保育 連絡協議会）	
20 日	協力	多賀城市長杯交流将棋大会	
21 日		多賀城 LUNCH トーク⑦-2	アウトリーチ
		不登校②「ここからはじまる、つながる場」	
22 日	協力	多賀城市長杯こども交流将棋大会	
23 日	事業	Tagajo Youth Challenge 部 アイデア実践ゼミ	
24 日	事業	喫茶来企画会議	
31 日	事業	YouTube チャンネル「たがさぽチャンネル」 多賀城みんなの地域学「旭ヶ岡の今は昔」	

※アウトリーチ…市民活動やまちづくりなどへの等の興味・関心の促進のために行った T S C 外での活動を示している。（主催、共催、協力を含む）

メディア掲載（関連記事も含む）

令和6年

5月3日	河北新報（朝刊）	黄金週間ガイド「かえっこバザール 2024」
6月28日	民放4局	八幡地区避難訓練関連
7月2日	河北新報（朝刊）	園児避難 住民らと協力 多賀城・3保育施設が訓練
10月15日	KHB東日本放送	高橋地区避難訓練関連
11月1日	情報誌 ARIFT	たがさぼのクリスマス雑貨市 2024
11月15日	石巻日日新聞	たがさぼのクリスマス雑貨市 2024
11月19日	宮城まるごと探訪	たがさぼのクリスマス雑貨市 2024（Web）
11月発行	みやぎ EVENT JOY 2024.12-1月号	たがさぼのクリスマス雑貨市 2024
12月1日	S-style	たがさぼのクリスマス雑貨市 2024
12月2日	河北新報（夕刊）	ふみだす info「雑貨市楽しく買い物 多賀城」
12月6日	河北新報（朝刊）	みやぎ情報コーナー「たがさぼのクリスマス雑貨市 2024」

令和7年

1月24日	読売新聞	イベント情報「多賀城 LIUNCH トーク 不登校」
1月28日	河北新報（朝刊）	みやぎ情報コーナー「多賀城みんなの地域学Ⅳ 旭ヶ岡の今は昔」
1月30日	河北新報（夕刊）	仙台圏イベント情報「多賀城のまちの未来を描く フュー チャーセッション Vol.2」
2月26日	河北新報（朝刊）	旭ヶ岡地区の変遷たどる 多賀城で展示会
3月31日	河北新報（朝刊）	震災の 思い刻々 詠み続け 多賀城在住の俳人・高野ムツオさん講演
3月31日	河北新報（夕刊）	市民の輪「地区の今昔ひもとく 旭ヶ岡町内会だより」
3月31日	河北新報（夕刊）	ふみだす info「ランチ時間にトーク」

I

令和 6 年度運営業務報告

I -1 方針

（１）３ヵ年（令和５～７年度）の施設運営方針

令和 5～7 年度の 3 ヲ年の業務委託に際し、施設運営方針を以下のように定めた。この方針に基づいて事業立案や運営を行っている。

T S Cが目指す多賀城のまちの姿

“ベッドタウンからホームタウンへ”

多賀城は交通の便がよく、仙台市に通勤通学している人が多い。駅前にはカフェが入るおしゃれな図書館もあり、ロードサイドには生活に必要な商業施設等が建ち並んでいる。そんな便利で住みやすいまち多賀城は、若い世代に住むまちとして選ばれる一方で、転出入も多い。このままではまちを利用するだけの消費者としての住民が増え、地域を担う主体としての市民が減ることが予想される。自分が住むまちに自分が関わることで、さらに魅力的なまちにしていける、そんな実感を持てる機会を T S Cが増していくことで、主体としての市民を多賀城のまちに増やしていく。

T S Cの役割と取り組み

（１）まちをともに創る人を増やす

１）T S Cの運営に市民の参画の機会を創出

①現状と振り返り

T S Cの開館は、市民活動実践者や市職員有志が市民活動や協働についてともに学ぶ中で、市民活動支援施設の必要性を見出し、機能や運営について検討し、市に提案したことがきっかけとなっている。

これまでの T S Cの運営では、窓口を事務処理の受付のみにせず、利用者とのコミュニケーションを重視している。また、事業参加者へのアンケート、年 1 回実施する利用者アンケート、地元企業や自治会・町内会へのヒアリング、地域のさまざまな主体が集まる会議への参加などを通して、地域のニーズを探り、課題を設定し、めざすまちの姿を描き、事業案に落とし、取り組みを進めてきた。

平成 29 年度から取り組んでいる T S R（多賀城から、持続可能な関係性を探る）では、地域課題を共有し、解決に必要なことを考え、実践に向けて、地域の活動者が対等な立場で取り組みを重ね、多文化共生や防災に関する課題解決の取り組みが生まれている。

②令和 5～7 年度の取り組み

これまでの市民の意見を聞くことに加えて、市民と一緒に地域の状況を共有し、課題を設定し、めざすまちの姿を描き、事業案に落とししていく場づくりに取り組み始めていく。T S Cは

支援する側とされる側の関係性ではなく、地域のことを考えるフラットな場として機能するような関係性を地域の方と育んでいく。

T S R の場づくりの手法を活かし、T S C の取り組みの中で主体としての市民を増やすことで、多賀城のまちに活かしていく。

例えば、1 年目は T S C で設定した課題について、解決に向けて必要なアイデアを出し合い、実践に移す。2 年目からは課題から市民と一緒に考え、実践まで行うというように段階的に進めていく。決定の場には、市民活動団体、自治会・町内会、事業者、学校等の地域のさまざまな主体に参画してもらう。

前述の T S R から、防災に関わる人・関心のある人を「防災人（ぼうさいびと）」と名付け、情報交換を行う場に、市担当課である危機管理課職員が市民の声を施策に反映する場と捉えて参加し、避難所の L G B T 対応について市民活動団体との情報交換につながった。このように、話し合いの場には市職員も同席してもらい、市民の主体性を発揮する場を体感してもらう。

そのためには、支援者に必要な 7 つの力（相談対応力、調査・情報収集力、編集・発信力、コーディネート・ネットワーキング力、資源提供力、内部の人材育成力、政策提言力）のうち、スタッフのコーディネート・ネットワーキング力を重視する。

2) 多賀城のまちの未来を描くフューチャーセッションの実践

①現状と振り返り

地域の中の支え合いを増やそうとしている地域福祉分野、地域ぐるみで子どもたちを育む体制づくりを進める教育分野、地元の人やコトを活かす観光をめざす観光分野等、第六次総合計画の推進には、地域の力が重要になっている。それぞれ行政が主催し、市民が参加し話し合う場が作られているが、話し合う課題や出た意見を活かす場が最初から決まっていることがほとんどである。T S C もこれまで行政等の主催する会議への参加や、令和 3 年度は地域コミュニティ課が主催する小学校区での地域情報交換会、令和 4 年度は市民と市長の懇談会「Taga 懇」に協力してきた。

②令和 5～7 年度の取り組み

前述の T S R の実践を活かし、市民が主体となり、多賀城のまちについて考え、課題を設定し、実現可能な対応策を考える場（＝フューチャーセッション）を重ねていく。

テーマは「まちの担い手をどのようにつくるか」など多賀城のまちに関することとし、行政への陳情にしないようなグラドルルールを決め、既活動者を中心に参加者を募るが、当事者も非当事者（未来の当事者の可能性がある）も参加できる場とする。アイデアベースではなく実現可能な案にブラッシュアップし、市担当課や市長に市民提案として話し合う場を設ける。市民がまちのことを考え、自分たちが決めたことを行動に移す経験を通して、行政への提案力向上、行政との協働を促進することをねらう。

また各団体が取り組んでいるテーマだけでなく、市全体を見る視点をもつことで、各テーマで活動する既活動者が、他の活動者を支える側にもなっていくこともねらう（例えば、こども

食堂を開催する団体が、新たに活動を始める人のサポートや、地域の子育て支援を担う主体のつなぎ役になり、更なる子育て支援の環境づくりが促進されるなど。

(2) 既存の仕組みの支援から関わりしるを増やす支援の強化

①現状と振り返り

自治会・町内会では、役員や活動の担い手の高齢化やまちを利用するだけの住民が増えていく状況の中で、担い手が不足し、これまで当たり前にやってきた取り組みの継続が困難な状況が出ている、もしくは今後増えることが予想される。コロナ禍においては、夏祭りや敬老会、サロンなど、これまで通りの活動ができない状況になったが、工夫しながら活動を再開する動きも出てきている。活動を再開する際には、活動ができなかったことで発生した困りごとを確認し、本当に必要な活動の見極めややり方を変える好機とも捉えることができる。令和 2～4 年度は、地域のことを地域の人が発信し、新しい住民に土地のことを伝えることを目的とした地域学や自治会・町内会の取り組みを役員以外の人に知ってもらうためのツールとしての町内会新聞の支援や、地区同士のテーマごとの情報交換などを中心に行い、地域や役割を超えた情報共有の場をつくることが出来た。

②令和 5～7 年度の取り組み

コロナ禍から活動を再開する自治会・町内会の支援をきっかけに、既存の取り組みの棚卸の支援、既存の活動の見直しや新たな取り組み開始の支援を行う。その際に、地域住民だけでなく、地区内の事業者や学生など多様な主体との連携の視点を加え、持続可能な地域運営につなげていく。

既存の取り組みへの支援よりも、既存の取り組みを変化させ、新たなかたちをめざす取り組みに対する支援を重点的に行う。

(3) 新たな地域の担い手発掘・育成の継続

1) 高校生以下が活躍する場づくりにチャレンジする

①現状と振り返り

高校生の多くは周辺市町から通学している。また、2022 年度改訂の学習指導要領で導入された総合的な探究の時間では、生徒が主体的に課題を設定し、情報収集・分析や課題解決に取り組むことから、地域に出での調査や活動の機会が増えることが予想される。また、市内の高校はボランティア活動が単位として認められる制度があるが、コロナ禍で地域に関わる機会が減少している。

②令和 5～7 年度の取り組み

コロナ禍後を見据えて、高校生が地域に関わる機会を創出したり、情報提供やコーディネートを行うことで、新たな地域の担い手育成を進めていく。まずは、単位認定制度を見据えてのボランティア活動を通じた関わりを模索する。また、小学生のうちから市民活動へ触れる機会を創出することで、中学生、高校生の活動の礎となるため、未来を担う子どもたちを対象とし

た育成にも力をいれていく。

2) 多様な活動の入口を示す

①現状と振り返り

令和 4 年 2 月多賀城市が実施したまちづくりアンケートでは「市民活動、NPO 活動、ボランティア活動などに参加していますか」という質問に対し「今後参加してみたい」36.9%、「興味や関心がないので参加する気はない」48.5%という結果が出ている。TSC の相談対応や事業の中では、自分の活動が市民活動だと認識せずに活動しているという声や、市民活動は一部の特別な人がやっているという声を聞くことも多い。

前述の防災人（ぼうさいびと）の情報交換会には、資格を持っているが活かす場がない防災士、自分の知識やスキルを地域の防災に活かしたい方、自治会・町内会の防災担当になりアイデアがほしい方など、毎回 20 人ほどが参加し、新たな人材発掘につながった。この場での出会いから、地域の防災力向上につながる事例が生まれている。また、今期初めて実施したボランティア講座は、だれかの役に立ちたいという想いのある層を発掘することができた。

②令和 5～7 年度の取り組み

関わってみたら楽しく、まちがもっと好きになるような多様な取り組みを、TSC だけでなく、既活動団体と一緒に増やしていく。

(2) 令和5～7年度ロードマップ

令和5年度の取り組み実績をふまえ、令和6年度の計画立案時に一部修正。

2024年3月修正

		内容	主な対象	R5(2023)事業	R6(2024)事業	R7(2025)事業	めざす姿	地域コミュニティ課資料との合致
(1)まちをともに創る人を増やす事業	1)TSC運営への市民参画機会創出事業	市民と一緒に地域の状況を共有し、課題を設定し、めざすまちの姿を描き、解決に向けて必要なアイデアを出し合い、TSCの事業案に落としていく場づくりに取り組み始める。	市民活動団体、自治会・町内会、事業者、学校等の地域のさまざまな主体	1)話し合いの場づくり(課題はTSCが設定) 2)TSCの取り組みに活かす	1)話し合いの場づくり(課題はTSCが設定) 2)取り組み実践	1)話し合いの場づくり(課題から一緒に考える)	・TSCが地域のことを考えるフラットな場として機能するような関係性が育まれている。	【地域の担い手育成】 【連携による課題解決】 【情報発信】 ・地域課題の把握に努める
	2)多賀城のまちの未来を描くフューチャーセッション事業	市民が主体となり、多賀城のまちについて考え、課題を設定し、実現可能な対応策を考える場(＝フューチャーセッション)を重ね、市民提案として市と話す場をつくる。	市民活動団体、自治会・町内会、事業者、学校等の地域のさまざまな主体	1)フューチャーセッション	2)実践に向けた伴走 3)発信	4)提案の場	・市民の提案力が向上している。 ・行政との協働による地域づくりが進んでいる。 ・既活動者が他の活動者を支える側になっていく。	【連携による課題解決】 ・市民が主体となり、多賀城のまちについて考え、課題を設定し、実現可能な対応策を考える場(＝フューチャーセッション) 【地域の担い手育成】
(2)関わりしるを増やす支援事業	自治会・町内会等の関わりしるを増やす支援事業	コロナ禍から活動を再開する自治会・町内会の支援をきっかけに、既存の取り組みの棚卸の支援、既存の活動の見直しや新たな取り組み開始の支援を行う。	自治会・町内会＋潜在的活動者 市民活動団体	1)既存の取り組みの棚卸の支援、既存の活動の見直しや新たな取り組み開始の支援 2)テーマ型自治会・町内会情報交換会 3)地域学；市民が自分の住む地域のことを知り、発信することをサポート 4)自治会・町内会の取り組みヒアリング・発信事業			・地域での自主的な取り組みが増えている。 ・既存の取り組みを変化させたり、連携の視点を持つことで、持続可能な地域運営につながっている。	【自治会・町内会】 ・町内会同士の情報交換の機会の提供 ・町内会等に対するアウトリーチ支援の実施 【連携による課題解決】
(3)新たな地域の担い手発掘・育成事業	R5年度 1)次世代活躍事業 R6年度 1)新しい人材活動支援事業	小中高生などの世代が地域に関わる機会を創出したり、情報提供やコーディネートを行うことで、新たな地域の担い手育成を進めていく。	小中高校生など未来を担う世代	1)きつず講座(雑貨市と連携) 2)中学校・高校のボランティアコーディネート支援の模索(町内会支援と連携) 3)中高への市民活動に関する授業提案 4)Tagajo Future Labo部(中高生版TF L)	1)NPOいちから塾(テーマ型含む) 2)中学校・高校のボランティア活動支援(個別相談対応) 3)地域との関わりしるを増やす仕掛け 4)スタートアップ支援・継続支援		・NPOやボランティアについて知り、地域・社会の課題解決に目を向ける小中高生が増えている。 ・身の回りの困りごと、課題を自らの手で解決しようとする中高生が増えている。	【地域の担い手育成】 ・高校生が活躍する場づくりの実施
	2)市民参画促進事業	関わってみたら楽しく、まちがもっと好きになるような多様な取り組みを既活動団体と一緒に増やしていく。	無関心層 潜在的活動者	1)雑貨市 2)NPOいちから塾 3)ボランティア講座(NPO支援と連携) 4)気軽に活動に参加できる仕掛けづくり(多賀城市内のイベントへの出展等)	1)多様な主体で取り組む雑貨市 2)きつず講座 3)市民活動を知る機会の創出		・地域の活動に参加し得る新たな人材が発掘されている。 ・地域活動への関わり方を知り、自分のできるかたちで関わる市民が増えている。	【地域の担い手育成】
(4)NPO支援事業	NPOつながり事業	自団体の弱み強みを知り、団体運営力のアップを図るように支援することで、他の団体やセクターとつながり、団体を理解し支援する人や連携する団体を増やす。また、ボランティア情報の収集・発信を通して市民活動に関わる市民を増やす。	NPO 市民活動団体	1)インキュベート伴走支援 2)運営力、発信力アップ講座 3)NPO等交流会 4)団体とボランティアをしたい市民のコーディネート			・各団体が、自らの活動を見通すことで運営力がアップしている。 ・他の団体や市民と連携して、地域・社会の課題が解決できるようになっている。 ・ボランティアなど地域人材を活用できるようになっている。	【連携による課題解決】 【地域の担い手育成】
(5)情報発信事業	フリーペーパー「tag」発行/情報発信事業	市民活動や連携に関する発信を行うことで、市民が市民活動に触れる機会を増やす。	NPO 市民活動団体	1)フリーペーパー「tag」発行(隔月A4両面) 2)各種ウェブ媒体の活用・連結			・市民が市民活動の情報に触れる機会が増えている。 ・得た情報をもとに、地域での活動や課題の解決に向けたアクションを起こす市民が増えている。	【情報発信】

I-2 令和6年度成果・課題

（１）令和 6 年度成果・課題

施設運営方針に沿った成果・課題

3 ヶ年（令和 5～7 年度）の施設運営方針に沿って、事業実施も含めた令和 6 年度の T S C 運営全体の成果・課題は以下のとおりである。事業実施の詳細は、本報告書「（２）令和 6 年度実施事業一覧」を参照。

1）まちをともに創る人を増やす

【成果】

- テーマに関連する市民活動団体、公共施設、学校などの地域の主体に参加していただき、現状の共有と解決のアイデアを話し合う「たがさぼ市民ミーティング」では、テーマを T S C 事業に関することにとどまらず、地域の共通の課題（人材）を取り上げることができた。「たがさぼ市民ミーティング」を通して、T S C のみで考え実行するのではなく、関係機関と課題を共有し、アイデアを出し、協力しながら課題解決に向けた具体的な動きを作り出すことができた。
- 市民が主体となり、まちの課題やアイデアを話し出す「多賀城フューチャーセッション」参加者有志が企画・運営する「喫茶来」は、今年度 3 回実施することができた。世代を超えてお互いを認め合いながらまちのことを話し合う場を市民が作り出すことにつながることができた。

【課題】

- 主体的に考え、行動する市民を増やしていくためには、既活動者や他機関と協力し、対話の場を継続しながら、新たな主体を発掘する必要がある。

2）既存の仕組みの支援から関わりしるを増やす支援の強化

【成果】

- 自治会・町内会に関わるテーマで実施した情報交換会には、自治会・町内会以外の市民活動団体などの参加を促し、協働の可能性を探ることができた。また、現在自治会・町内会に関わっていない層に、地域の未来を考える場を提供することができた。持続可能な地域運営につながるようなアプローチをすることができた。
- 自分の住む地域のことを知り、自ら発信することをサポートする「地域学」は、町内会と共催で準備から一緒に取り組むことで、市内外に地域の資源を発信するとともに、魅力の再発見の機会を提供することができた。

【課題】

- 持続可能な地域運営のためにも、地域に多様な人や団体、企業などの多セクターが関われるようなサポートを行う。

3) 新たな地域の担い手発掘・育成の継続

【成果】

- 地域を担う次世代層を対象とした取り組みでは、今年度から「Tagajo Youth Challenge 部」を実施し、想いを形にする講座と伴走支援を行った。中学生から大学生までの参加があり、アイデアの実現に取り組み始めたうち 2 人が実践に至った。10 代・20 代の活動してみたい層の発掘・育成につながった。
- 3 年目を迎えた小学生対象の「きっずボランティア講座」では、前年度までの参加者が中学生になり、中学生サポーターとして小学生の活動を支える役割を担った。参加する側から支える側に人材のよい循環が生まれている。
- 今年度から開始したランチの時間を利用し、多賀城ゆかりのゲストの話を聞く「多賀城 LUNCH トーク」では、参加することで市民活動や社会課題を知り、活動に参加する人が生まれた。

【課題】

- 地域活動に自ら参加する若い世代を増やしていくためには、地域で行われている活動や、身の回りにある課題を見つけることができる人材の発掘、育成が課題となる。

(2) 令和6年度実施事業一覧

2025年3月作成

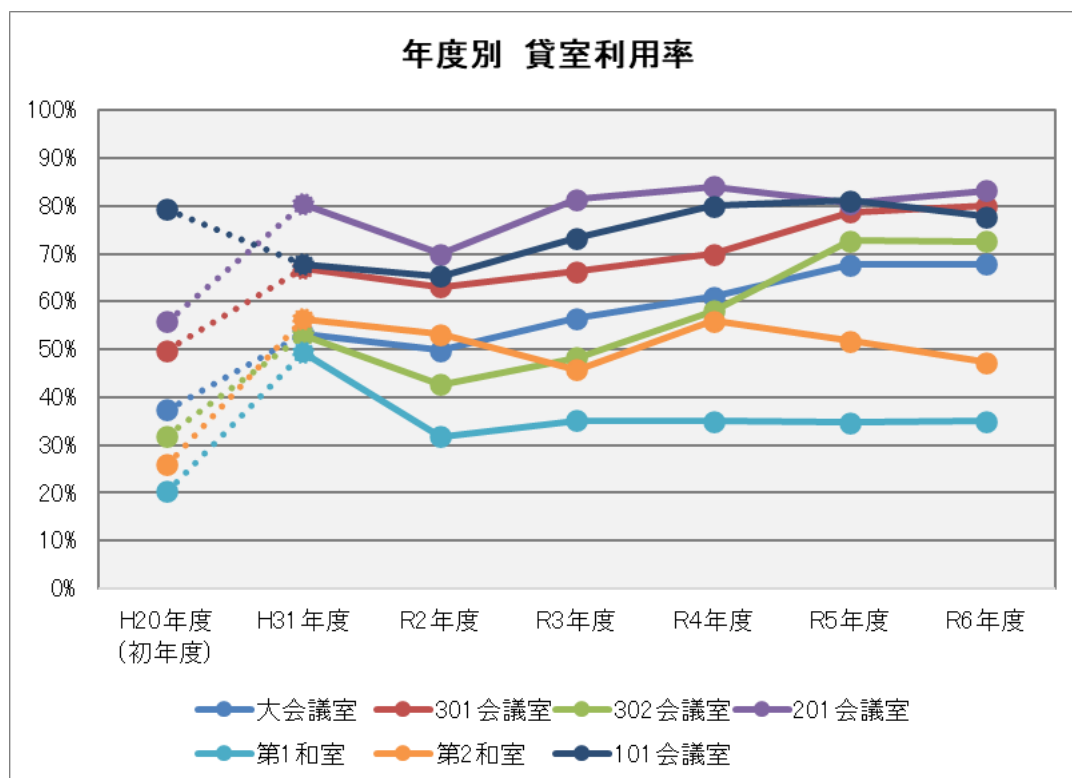
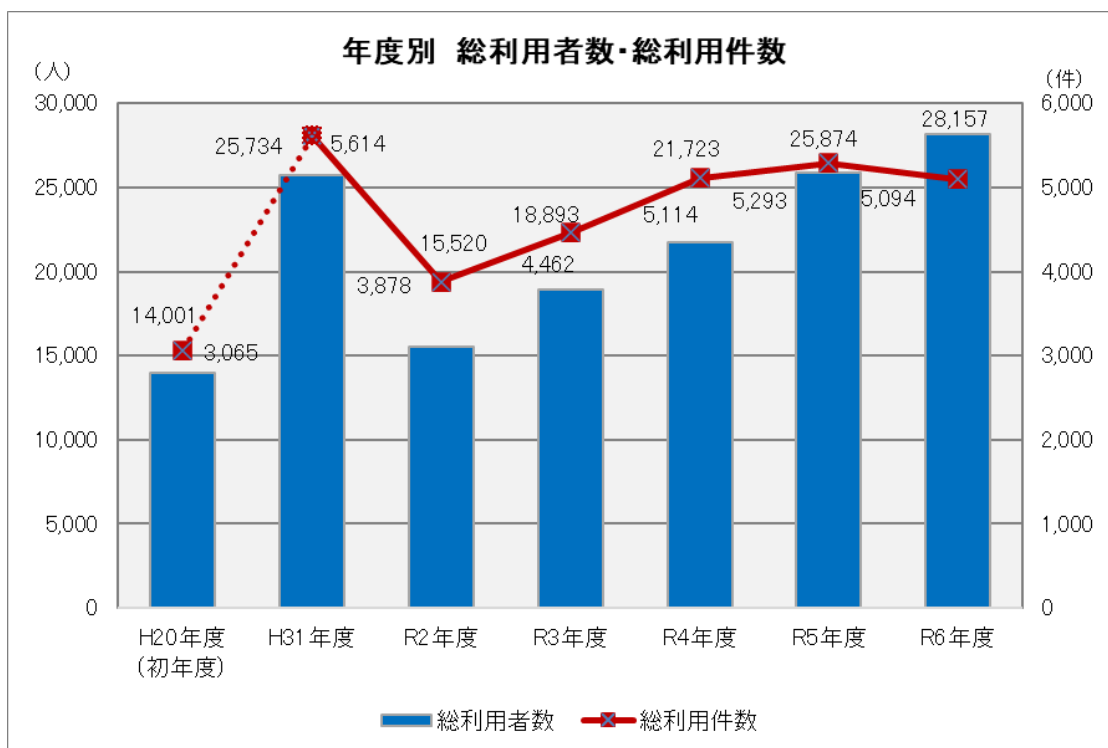
大事業	小事業	主な目的	概要	主な対象	成果目標	実施目標	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3													
(1) まちをとともに創る人を増やす事業	1 TSC運営への市民参画機会創出事業	市民と一緒に地域の状況を共有し、課題を設定し、めざすまちの姿を描き、解決に向けて必要なアイデアを出し合い、TSCの運営に活かす場づくりにより、TSCの運営をひらくことを通して、主体としての市民を増やす。	1)たがさぼ市民ミーティング ・公共施設の見直しに関連し「公共空間」「TSCの役割」を軸としての情報交換。 ・テーマ案①「多賀城ボランティア」②「雑貨市の運営について」※雑貨市と連動 ・主体を限定せず、多様な参加者で意見が集まる場にする。	市民活動団体、自治会・町内会、事業者、学校等の地域のさまざまな主体	所属や役職等にとらわれず、多様な人が地域について考え、意見やアイデアを出し合える場を2件設け、出た意見をもとに、より効果的な取り組みを、関係機関・団体と連携し実践する。	1)たがさぼ市民ミーティング 2テーマで実施			● 24 雑貨市				● ボランティア (ヒアリング)	→	→	→	→	● 27 ボランティア (ミーティング)													
	2 多賀城のまちの未来を描くフューチャーセッション事業	市民が主体となり、多賀城のまちについて考え、課題を設定し、実現可能な対応策を考える場を重ねることで、考え行動する市民を増やす。	1)多賀城フューチャーセッション ・新たなテーマで実施する。ゲストを招く。 2)アイデアを実践する伴走 ・「暮らしやすいまちを考える(R5年度実施分)」 「新たなテーマ」TFS実施後に集まることのできる場づくり。必要に応じて話題提供等のゲストを呼ぶ。	既活動者 潜在的活動者	まちの課題を設定し、解決するために必要なことを考えることを通して、市民主体の活動が生まれる。(3件)	1)多賀城フューチャーセッション 新たなテーマで1回実施 2)アイデアを実践する伴走 ①R5年度実施分:2回程度活動を実践 ②R6年度実施分:1回程度活動を実践	アイデアを実践する伴走												● 23 ミーティング	● 26 喫茶来					● 23 ミーティング	● 13 喫茶来	● 12 ミーティング		● 26 喫茶来	● 4 ミーティング	● 9 フューチャーセッション
(2) 関わりしるを増やす支援事業	3 自治会・町内会等の関わりしるを増やす支援事業	持続可能な地域運営のため、 ○既存の取り組みの棚卸の支援、既存の活動の見直しや新たな取り組み開始の支援を行う。 ○様々な人が関われる地域のあり方を模索していく。	1)テーマ型自治会・町内会情報交換会 2)既存の取り組みの棚卸の支援 3)住民が自分の住む地域のことを知り、発信することをサポート 4)自治会・町内会の取り組みヒアリング・発信事業	自治会・町内会の会長、役員等 + これまで町内会にあまり関わっていなかった人・団体	支援を通じて、自治会・町内会の取り組みに新たな層が関わるができるような取り組みの可能性を検討したいと相談に上がる地区が出るようになる。	1)テーマ型自治会・町内会情報交換会(2テーマ以上) 2)既存の取り組みの棚卸の支援、既存の活動の見直しや新たな取り組みが始まる(1事例以上) 3)住民が自分の住む地域のことを知り、発信することをサポート(新たに1事例以上) 4)自治会・町内会の取り組みヒアリング・発信事業(情報発信:10回以上)	● 4 防災人		● 22 情報交換会 ● 28 八幡訓練		● 30 みらい自治	● 12 鶴ヶ谷訓練/情報交換・下見 ● 20 高橋訓練/情報交換 ● 30 高橋訓練/下見	● 4 みらい自治 ● 10 鶴ヶ谷訓練 ● 15 高橋訓練		● 17 防災人	● 地域学・展示 ● 17 防災人	● 地域学・トークショー	→													
	4 新しい人材活動支援事業	・中高生を中心とした若い世代に地域について考える場を提供し、地域の活動や課題に目を向ける市民を増やす。 ・学びの場や思いの整理の場を提供することで、自ら活動を始める市民を増やす。	1)NPOいちから塾 2)出前いちから塾※市出前講座含む 3)地域・市民活動などスタートアップの支援/継続支援 ・TYC部 4)地域との関りしるを増やす仕掛け ・相談・伴奏支援 5)学生ボランティア活動支援 ・相談・伴奏支援	中高校生、大学など未来を担う世代 + 潜在的活動者	・講座をきっかけに、いちから塾受講者の市民活動やボランティアへの興味・関心が高まる。(8割以上) ・いちから塾講座受講後に、市民活動またはボランティア活動に参加する。(2名以上) ・次世代対象事業に参加後、アクションを起こすこと、市民活動・地域活動への参加に意欲的になり、今後も関わりたいという思うようになる。(3割以上)	・NPOいちから塾を2テーマ以上で実施 ・TYC部として集まる場を3回以上設ける。また参加者に対し、随時相談対応や地域と関わる機会の紹介を行う。	● 相談 伴奏	いちから塾 ● 25				TYC部① ● 18	TYC部② ● 23	→	TYC部③ ● 10	TYC部伴奏 ● 雑貨市ボランティア ● 7・8		→ アイデア実践ゼミ ● 23													
(3) 新たな地域の担い手発掘・育成事業	5 市民参画促進事業	・市民活動に参加する入口をより多く示し、活動に関わる人を増やす。 ・関わってみたら楽しく、まちがもっと好きになるような多様な取り組みを既活動団体と一緒に増やしていく。	1)多様な主体で取り組む雑貨市 ※たがさぼ市民ミーティングと連動 2)きっずボランティア講座 3)市民活動を知る機会の創出(6回程度)	無関心層 潜在的活動者	・市民活動を知り、次のステップ(講座参加や団体へのアプローチ[ボランティアや寄付などの支援])へ進む市民が生まれる。(3件以上) ・はじめて講座や雑貨市に参加する人(3割以上)	・市民活動や地域課題にあまり触れたことのない無関心層が3割参加する ・小学生と保護者が市民活動へ触れる機会をつくる。 ・中学生、高校生以上のボランティアしたい人がプロセスからかわる機会をつくる。 ・団体が主体的に関わる雑貨市を目指す。	● 6 たがさぼきっず広場	● 24 市民mtg				● 9 トーク	● 8 きっず① ● 6 展示	● 16 きっず② ● 6	● 16 きっず③ ● 8	● 8 きっず④ ● 6	● 10 ⑥	● 7 ⑦	● 10 ⑧	● 21 ⑦-2											
	6 NPOつながり支援事業	・自団体の強み弱みを知り、団体運営力のアップを図るよう支援することで、他団体や市民とつながり、団体を理解し支援する人や連携する団体が増える。 ・ボランティア情報の収集と発信を行うことで、市民活動に関わる市民を増やす	1)NPO交流会(団体同士のつながりづくり) 2)運営力、発信力アップ講座(3〜4回) 3)NPO・市民活動ボランティア支援 4)インキュベーター伴奏支援(年3回)	NPO・市民活動団体	・交流会で生まれたつながりからアクションを起こす事例が3件以上生まれる。 ・市民からの協力・共感・賛同などが増えている団体が5団体出ている。 ・ボランティアの新たな情報を3つ以上掘り起こし、情報を発信する。 ・相談会・講座参加団体それぞれの運営課題のうち1つが、改善もしくは解決している。 ・ボランティア情報収集により実際にボランティアにつながる事例が3つ以上生まれる。	・たがさぼ交流会の実施 ・NPO/パワーアップ講座を実施(3テーマ/組織力、資金、広報) ・ボランティア情報収集 ・事務用ブースインキュベーター相談	● 20 NPO交流会			● 23 インキュ	● 29 講座①	● 27 講座②	● 24 講座③		● 16 インキュ ● 17 24	● 7 14 インキュ	→														
(4) NPO支援事業	6 NPOつながり支援事業	・自団体の強み弱みを知り、団体運営力のアップを図るよう支援することで、他団体や市民とつながり、団体を理解し支援する人や連携する団体が増える。 ・ボランティア情報の収集と発信を行うことで、市民活動に関わる市民を増やす	1)NPO交流会(団体同士のつながりづくり) 2)運営力、発信力アップ講座(3〜4回) 3)NPO・市民活動ボランティア支援 4)インキュベーター伴奏支援(年3回)	NPO・市民活動団体	・交流会で生まれたつながりからアクションを起こす事例が3件以上生まれる。 ・市民からの協力・共感・賛同などが増えている団体が5団体出ている。 ・ボランティアの新たな情報を3つ以上掘り起こし、情報を発信する。 ・相談会・講座参加団体それぞれの運営課題のうち1つが、改善もしくは解決している。 ・ボランティア情報収集により実際にボランティアにつながる事例が3つ以上生まれる。	・たがさぼ交流会の実施 ・NPO/パワーアップ講座を実施(3テーマ/組織力、資金、広報) ・ボランティア情報収集 ・事務用ブースインキュベーター相談	● 20 NPO交流会			● 23 インキュ	● 29 講座①	● 27 講座②	● 24 講座③		● 16 インキュ ● 17 24	● 7 14 インキュ	→														
(5) 情報発信事業	7 フリーペーパー「tag」発行/情報発信事業	市民活動や連携に関する発信を行うことで、市民が市民活動に触れる機会を増やす。 地域の活動を価値づけし、発信する。	1)フリーペーパー「tag」発行(隔月A4両面) ・連携に関する記事、市民が参画しやすい活動を取り上げる 2)ウェブでの情報発信 ・動画等による情報発信(団体紹介ショート動画、事業のアーカイブ動画など4本程度) ・ホームページ、ブログ、X(旧Twitter)での情報発信	潜在的活動者 活動者	・tagをきっかけに市民活動に対する意識が変化した市民・団体によるアクションが12件以上起きる。 ・YouTubeの動画コンテンツに関心を示し、定期的に情報を得るためのアクションとして、13人以上が新たにYouTubeチャンネルに登録する。 ・ブログの訪問者数が月平均3,800件以上になる。	1)フリーペーパー「tag」発行(6回) 2)TSCのウェブ媒体による情報発信	● 109号		● 110号		● 111号	● 112号		● 113号	→	→	→	→													

I -3 運営状況

(1) 利用状況集計

1) 総利用件数・貸室利用率

今年度の総利用件数は 5,094 件（前年度比 96.2%）、総利用者数は 28,157 人（前年度比 108.8%）となった。総利用件数は昨年度より約 200 件減少したが、逆に総利用者数は約 2,300 人増加している。昨年度から徐々に通常の社会活動が行われるようになり、総利用者数はコロナ禍以降 4 年連続で増加し、今年度はコロナ禍以前の状態へと回復した。貸室利用率に関しても、ほぼコロナ禍前の平成 31 年度の利用率を上回った。

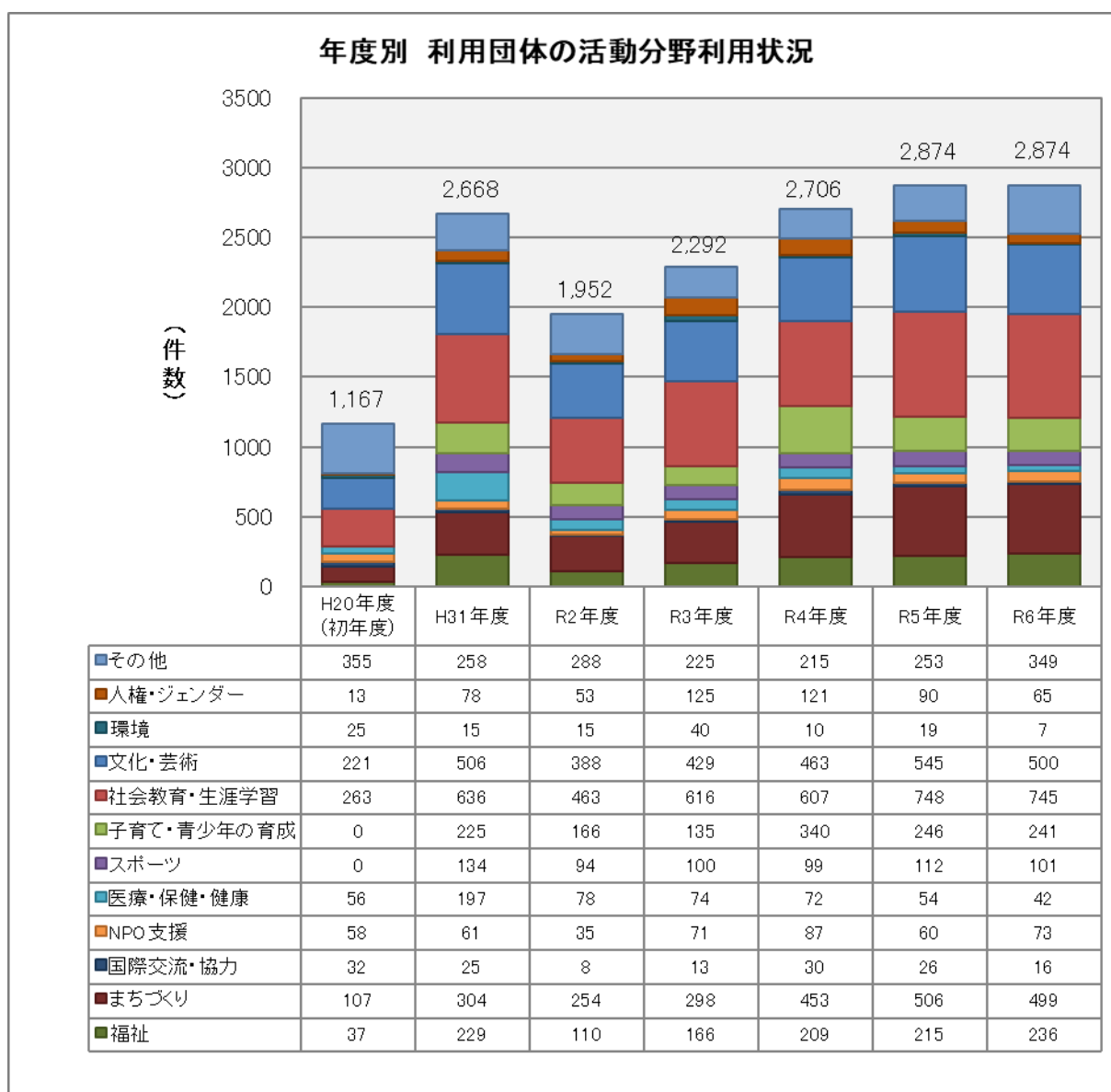


2) 利用団体の活動分野

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー

事務用ブース利用者の利用票提出および印刷機利用に基づく利用団体の活動分野

活動分野別の利用総数は2,874件で、前年度と同数だった。1) 総利用件数・貸室利用率からもわかるように、通常の活動状態に戻った団体が多かったと考えられる。利用の多い分野は順に「社会教育・生涯学習」、「文化・芸術」、「まちづくり」、「子育て・青少年の育成」、「福祉」となっており、この5分野で全体の77.3%を占めている。今年度も最も利用が多かったのは「社会教育・生涯学習」で、全体の25.9%を占めている。それに次いで、「文化・芸術」「まちづくり」がともに17.4%を占めている。多少の増減はあるが、数年来この傾向は変わっていない。「社会教育・生涯学習」、「文化・芸術」には生涯学習活動やサークル活動の多くが含まれており、TSCの分野別利用の中で多くなる傾向がある。また、「まちづくり」については、自治会・町内会の活動も含まれるため、町内会新聞や総会資料などの印刷機利用によるものも多く件数増加につながっている。



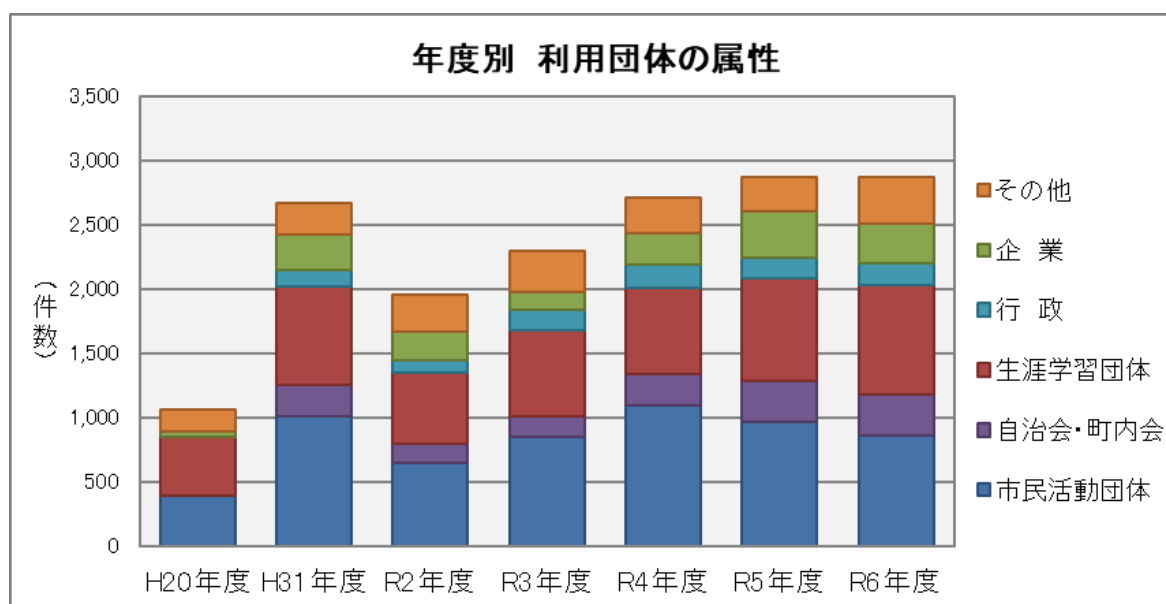
3) 利用団体の属性

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー、共同事務室の利用票及び印刷機利用に基づく利用団体属性

市民活動団体 : 858 件 生涯学習団体 : 852 件 企 業 : 308 件
自治会・町内会 : 322 件 行 政 : 171 件 その他(個人など) : 363 件

属性内訳は、ここ数年同様「市民活動団体」が 858 件と最も多い。次いで「生涯学習団体」が 852 件(前年度比 106.5%)と、市民活動団体とほぼ同様の件数となった。「市民活動団体」と「生涯学習団体」の 2 つの属性で全体の 59.5%を占めている。市民活動団体は減少傾向にあるが、Zoom などの Web 会議ツールの活用が進み、一定の場所に集まらなくても会議・打ち合わせを行うことができるようになったのも要因の一つと考えられる。

自治会・町内会については前年度比 102.2%と微増ではあるが、市民の活動拠点として必要とされていることがうかがえる。「その他」は前年度比 136.0%と大幅に増加しており、個人としての利用が増加したことが要因ではないかと考えられる。



■年度別利用団体の属性 (単位: 件)

	H20 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
市民活動団体	394	1,010	646	844	1,092	966	858
自治会・町内会		243	145	160	250	315	322
生涯学習団体	457	769	553	675	664	800	852
行 政		126	100	154	187	159	171
企 業	42	276	225	148	241	367	308
その他	172	244	283	311	272	267	363
合 計	1,065	2,668	1,952	2,292	2,706	2,874	2,874

参考-1：主な項目の利用状況推移（平成20～令和6年度）

		貸室		フリースペース			レターケース	相談対応		印刷機	パソコン	情報揭示	総利用	
		利用件数	利用人数	利用件数	利用人数	カウント数	取扱数	件数	人数	利用件数	利用件数	受付件数	件数	総数
		件	人	件	人	人	件	件	人	件	件	件	件	人
平成20年度		972	13,170	125	404	959	189	297	346	378	190	878	3,065	14,001
平成21年度		1,366	18,992	90	220	1,337	437	309	374	551	356	1,031	4,162	19,641
平成22年度		1,242	16,229	87	251	1,168	195	354	397	619	168	1,267	3,944	16,951
平成23年度		1,971	26,769	149	539	1,596	260	527	647	801	195	1,186	5,100	28,015
平成24年度		1,889	22,922	229	597	1,646	537	287	375	918	288	1,385	5,543	23,951
平成25年度		1,442	16,488	143	410	1,137	701	226	306	807	114	1,587	5,032	17,236
平成26年度		2,069	24,170	113	591	1,921	363	340	412	814	34	1,861	5,612	26,420
平成27年度		2,213	26,178	228	794	2,273	417	315	364	838	21	1,856	5,903	28,524
平成28年度		2,044	24,209	310	930	2,409	432	320	421	625	40	1,871	5,651	26,507
平成29年度		2,260	28,674	349	1,278	3,293	511	328	401	603	89	2,033	6,182	31,299
平成30年度		2,256	28,583	371	1,368	3,169	594	465	536	626	126	2,070	6,515	31,502
平成31年度		1,849	23,314	291	1,030	2,742	585	414	504	527	147	1,800	5,614	25,734
令和2年度		1,354	13,899	311	685	631	229	363	408	287	104	1,224	3,878	15,520
令和3年度		1,601	16,875	355	856	869	165	358	445	337	226	1,416	4,462	18,893
令和4年度		1,808	19,372	493	1,102	1,459	263	366	426	405	244	1,530	5,114	21,723
令和5年度		1,977	23,602	485	1,036	1,487	206	342	374	418	245	1,616	5,293	25,874
令和6年度	4月	154	1,772	57	116	167	15	19	21	75	15	114	450	2,077
	5月	145	1,843	30	55	75	47	23	24	39	14	140	438	1,984
	6月	150	1,904	37	79	116	32	36	39	37	16	117	426	2,089
	7月	194	2,716	32	53	173	5	33	37	38	10	141	453	2,857
	8月	165	2,332	43	179	130	9	27	31	31	15	159	449	2,603
	9月	167	2,284	54	144	167	12	19	23	40	23	139	454	2,519
	10月	174	2,362	40	76	125	17	33	33	47	14	132	457	2,539
	11月	161	2,138	34	91	116	6	36	52	31	14	126	410	2,347
	12月	119	1,739	44	170	175	10	16	17	21	5	101	316	1,956
	1月	144	2,010	37	95	160	11	36	37	29	9	133	399	2,187
	2月	173	2,353	40	120	181	9	34	37	22	18	105	402	2,555
	3月	178	2,221	46	97	202	3	24	32	52	14	123	440	2,444
令和6年度計		1,924	25,674	494	1,275	1,787	176	336	383	462	167	1,530	5,094	28,157
前年度比		97.3%	108.8%	101.9%	123.1%	120.2%	85.4%	98.2%	102.4%	110.5%	68.2%	94.7%	96.2%	108.8%
平成20年度～令和6年度総計		30,237	369,120	4,623	13,366	29,883	6,260	5,947	7,119	10,016	2,754	26,141	86,164	399,948
各年度の平均		1,779	21,713	272	786	1,758	368	350	419	589	162	1,538	5,068	23,526

※フリースペースの利用件数・人数は利用票提出分

※フリースペースのカウント数はスタッフによる定時見回り時ののべ人数

※平成29年度より、TSC事業分も貸室・フリースペースの利用件数・人数として集計

※平成26年度より、印刷機・パソコンの利用人数も集計

参考-2：情報関連業務利用状況推移（平成20～令和6年度）

		印刷機		コピー機	パソコン	情報揭示					貸出図書		
		利用件数	枚数	利用枚数	利用件数	チラシ	団体パンフレット	ポスター	ニュースレター	計	登録者数	貸出件数	貸出冊数
		件	枚	枚	件	件	件	件	件	件	人	件	冊
平成20年度		378	218,318	4,767	190	496		105	277	878			
平成21年度		551	342,248	5,708	356	544		103	384	1,031	37	100	132
平成22年度		619	361,553	4,689	168	649		140	478	1,267	19	132	109
平成23年度		801	479,306	5,355	195	572		118	496	1,186	24	76	116
平成24年度		918	603,693	7,677	288	549	106	167	563	1,385	29	122	158
平成25年度		807	576,452	4,830	114	697	109	136	645	1,587	18	98	137
平成26年度		814	566,837	5,331	34	843	112	214	692	1,861	20	89	127
平成27年度		838	722,674	7,813	21	857	142	222	635	1,856	13	151	215
平成28年度		625	509,592	7,538	40	869	131	215	656	1,871	7	138	209
平成29年度		602	435,167	9,520	89	953	147	286	647	2,033	11	60	87
平成30年度		626	452,528	9,634	126	1,024	114	281	651	2,070	10	75	102
平成31年度		527	460,836	5,799	147	879	119	226	576	1,800	10	63	95
令和2年度		287	288,941	2,494	104	500	86	103	535	1,224	14	63	94
令和3年度		337	325,919	3,796	226	642	98	148	528	1,416	20	85	121
令和4年度		405	461,192	4,056	244	697	76	169	588	1,530	6	57	77
令和5年度		418	459,879	4,778	245	721	98	176	621	1,616	7	61	87
令和6年度	4月	75	125,338	106	15	54	3	13	44	114	0	1	1
	5月	39	21,962	326	14	73	8	16	43	140	1	4	6
	6月	37	50,918	235	16	54	7	20	36	117	0	2	3
	7月	38	30,001	561	10	67	7	17	50	141	0	3	4
	8月	31	30,478	418	15	85	5	17	52	159	0	2	3
	9月	40	29,376	377	23	58	4	27	50	139	0	2	3
	10月	47	30,858	155	14	67	7	19	39	132	1	2	3
	11月	31	29,477	121	14	55	3	17	51	126	0	2	2
	12月	21	14,707	232	5	36	3	11	51	101	4	6	9
	1月	29	13,682	153	9	54	8	8	63	133	1	5	7
	2月	22	8,683	440	18	47	8	14	36	105	3	6	11
	3月	52	57,999	411	14	49	7	8	59	123	0	1	2
令和6年度計		462	443,479	3,535	167	699	70	187	574	1,530	10	36	54
前年度比		110.5%	96.4%	74.0%	68.2%	96.9%	71.4%	106.3%	92.4%	94.7%	142.9%	59.0%	62.1%
平成20年度～令和6年度総計		10,015	7,708,614	97,320	2,754	12,191	1,408	2,996	9,546	26,141	255	1,406	1,920
各年度の平均		601	452,964	5,829	157	718	111	177	560	1,538	17	90	123

※平成24年度から、パソコンの利用件数は「作業」「インターネット」を分けて集計する。
 ※平成24年度から、情報揭示の利用件数は新たに「団体パンフレット」を加える。

※平成21年6月開設

（２）相談対応実績

相談対応の流れ

●相談対応

市民活動に関する相談は、開館時間中にいつでも対応できるような体制を整備している。

↓

●記録

- ・ 相談対応票に記録
- ・ 相談を分類

支援対象について：主に初めて利用する団体に対して、団体の目的や活動内容を確認し、施設の設置、貸室・備品・スペースの趣旨と照らした上で、支援対象か否かを判断している。

施設利用相談：施設の利用方法等

市民活動相談：ホッブ…ボランティア相談、市民活動団体の情報提供等

ステップ…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談等

ジャンプ…資金調達、広報など団体運営に関する相談等

受益者からの相談：NPOなどのサービスを求めている方からの相談等

その他：TSCの運営についての問い合わせ等

↓

●共有

- ・ 継続対応が必要なものは、1日2回の申し送りの時間にスタッフ間で共有
- ・ 月2回（1回あたり1時間程度）ケースミーティングの開催
すべての相談対応をスタッフで共有し、各相談対応の経過確認を行い、継続事案にあつては以後の対応方針の決定、相談対応研修、業務改善などにつなげている。
- ・ 相談対応記録を担当理事および地域コミュニティ課に報告し、適宜情報提供・助言などをもっている。

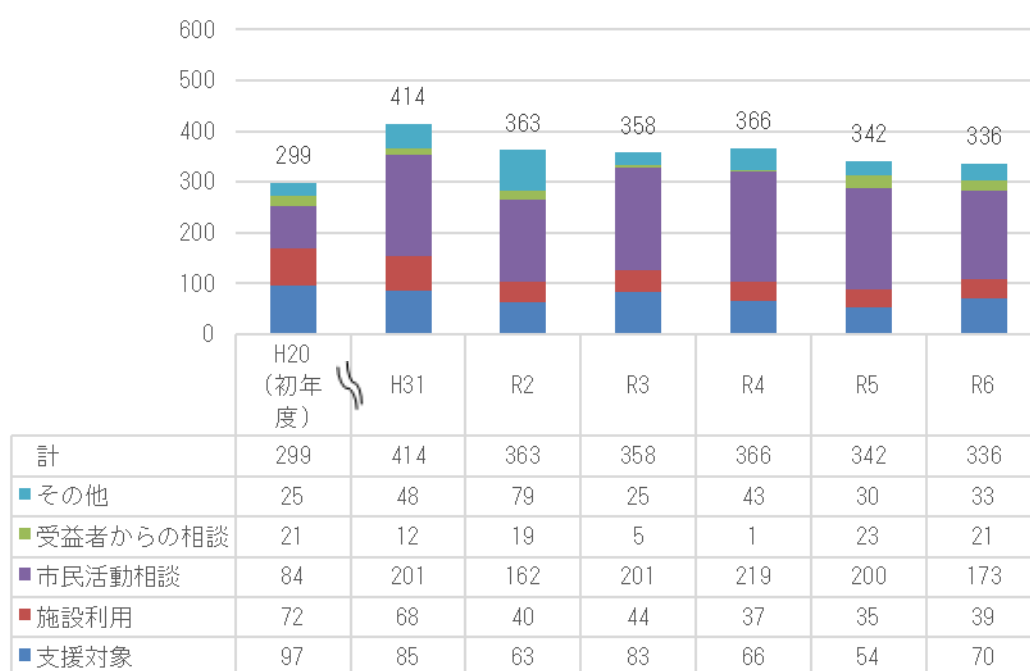
相談件数 令和6年度比較

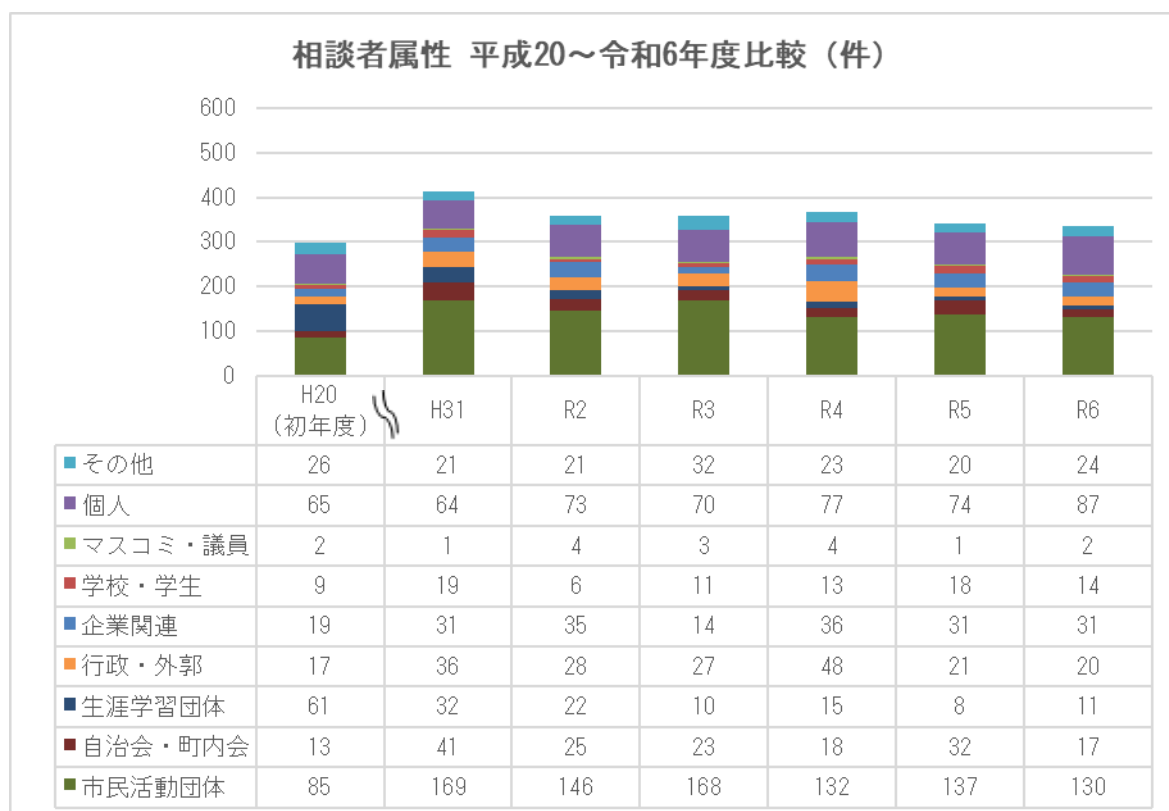
総件数 336件（月平均 28件）

総対応時間 6,127分（1件平均 18.2分）

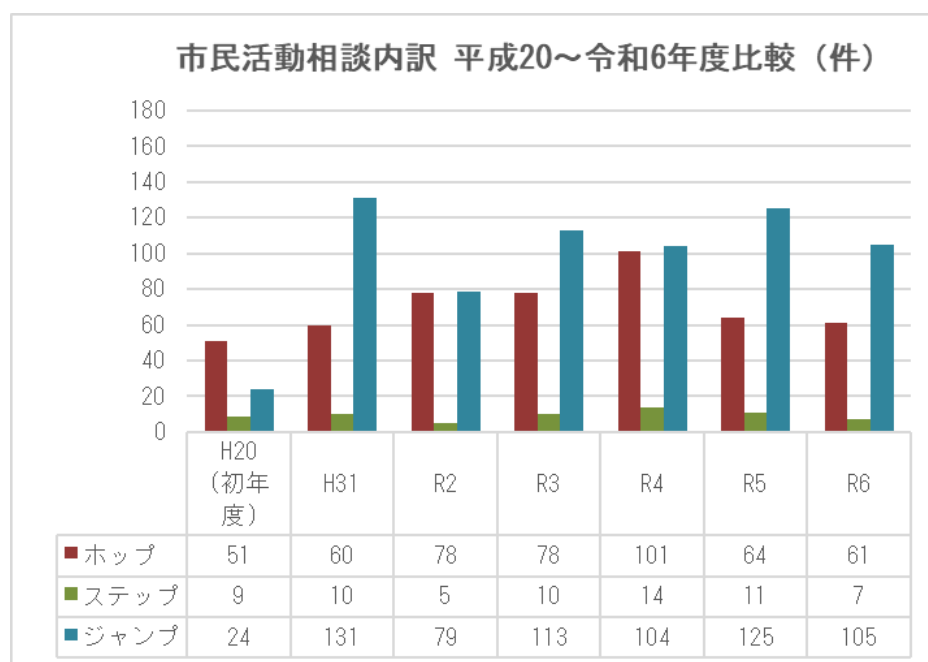
年間の総件数は前年度より6件減少して336件であった。コロナ禍以降の令和2年からの平均は353件であるので、目立った増減は見られない。支援対象相談は16件増加して70件、施設利用相談も4件増加して39件となった。支援対象判断ではチラシの配架についての相談が増加、貸室の利用相談も微増している。受益者からの相談もここ数年の中では21件と多く、団体の情報を求める個人からの相談先としても機能することができた。

相談件数 平成20～令和6年度比較（件）



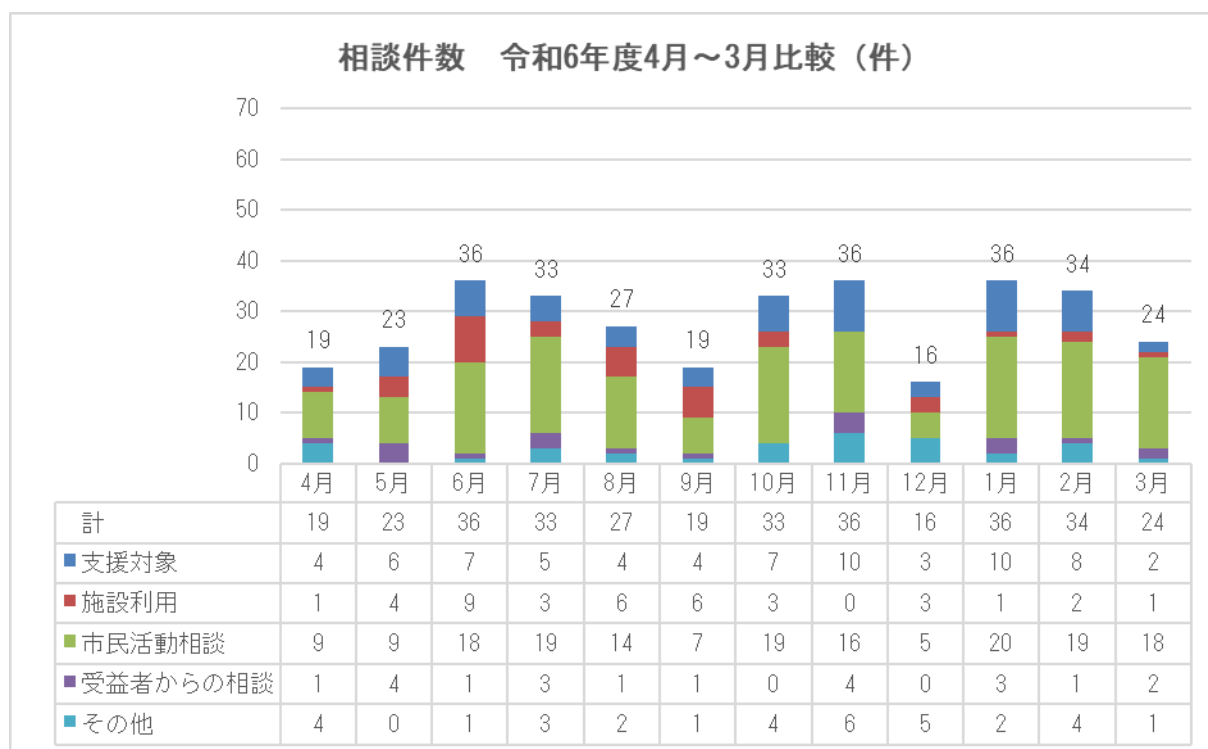


相談者属性は、例年通り市民活動団体が最も多く、ついで個人からの相談が多かった。前年度と比べて 117.6%（13 件増）と増加率が高かったのは個人。ボランティア情報や団体情報を知りたいという個人からの相談が増えたことが要因に挙げられる。

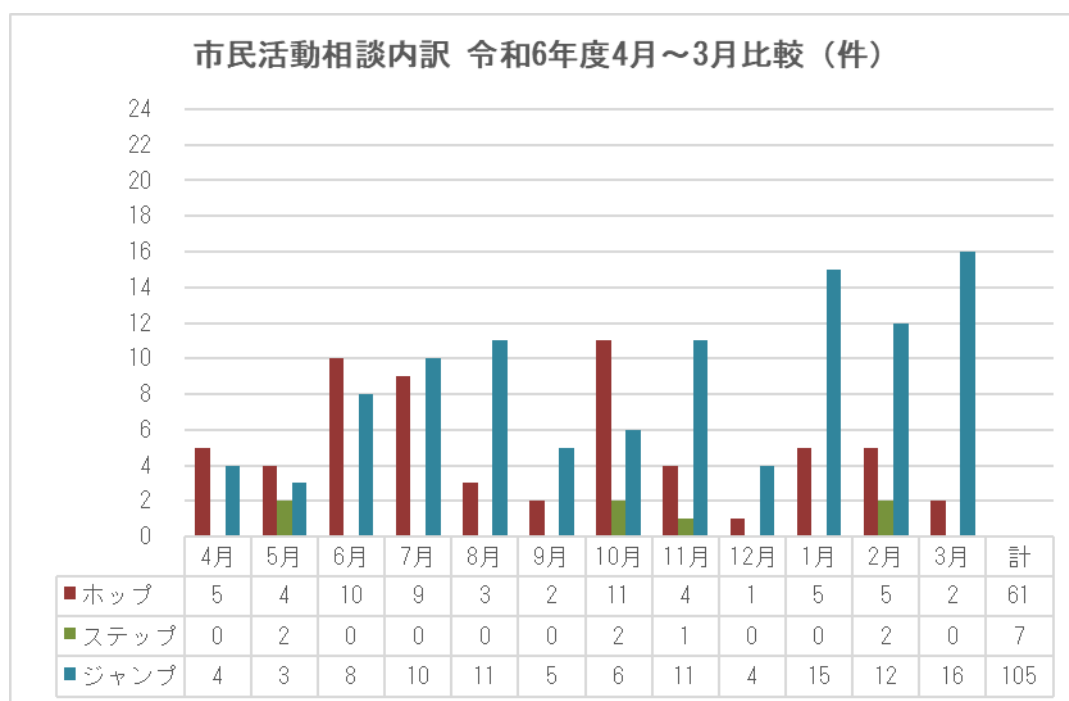


市民活動相談の段階別件数は、ホップが前年度比 95.3%、ステップは前年度比 63.6%、ジャンプは前年度比 84.0%となっている。市民活動相談のうち「ジャンプ」が全体の 60.7%を占めた。相談件数の割合は前年度と比べてほぼ変わらない。

相談件数 月別比較



年度初め、上半期末、年末は相談件数が減る傾向にあったが、逆にその1～2ヵ月前は、夏祭り、クリスマス、年始、年度末といったイベントに向けた団体からの運営相談、団体情報の問い合わせ、施設利用の相談が増えた。



市民活動の相談内訳としては、ホップは10月が11件、ジャンプは3月が16件で最多であった。10月のホップは、イベントのゲストを紹介してほしい、物品の寄贈がしたいという相談が複数あったほか、ボランティア活動をしたい、ボランティア情報が知りたいという相談が多かった。3月のジャンプは、イベントの申込受付や広報についての相談、講座を開催する際のTSCへの協力依頼、以前TSCに相談したことで運営の整理ができたという近況報告などがあった。

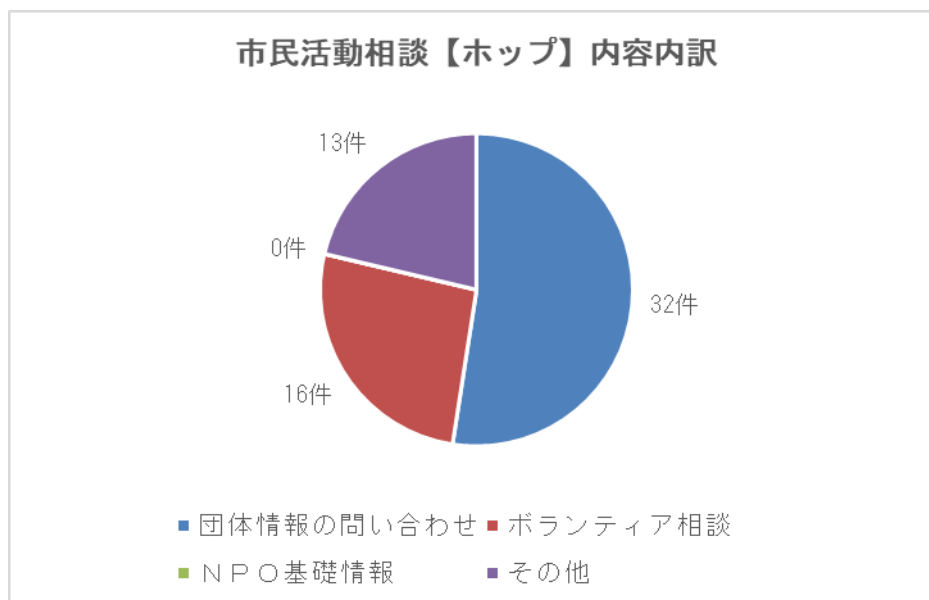
次ページ以降、市民活動相談のホップ・ステップ・ジャンプの各々の相談内容について記載する。

市民活動相談の内訳

■ホップ

…NPO基礎情報、ボランティア相談、市民活動団体の情報提供など

市民活動相談 173 件の内、ホップ 61 件（35.3%）



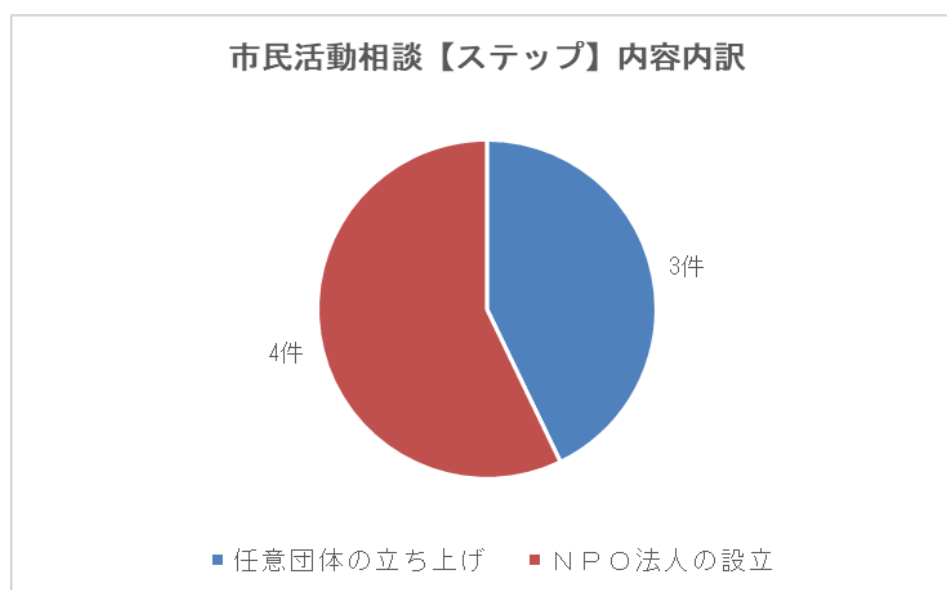
「ホップ」の相談は、61件で前年度と比べると3件減少した。相談内容としては、個人からの団体情報の問い合わせが多く、ついでボランティア相談も多かった。

その他については、地域を活性させるイベントを開催したいという次世代層からの相談のほか、これから活動やボランティアを始めるにあたっての情報収集のための相談が多かった。

■ステップ

…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談

市民活動相談 173 件の内、ステップ 7 件 (4.0%)



「ステップ」の相談内容は、活動を始めたいという企業（店舗）からの相談、団体の法人化についての相談があった。

令和6年度 立ち上げ相談を行った団体・活動（1 団体／活動）

団体・活動名	活動内容	備考
企業（店舗）	こども食堂の運営	電話での相談

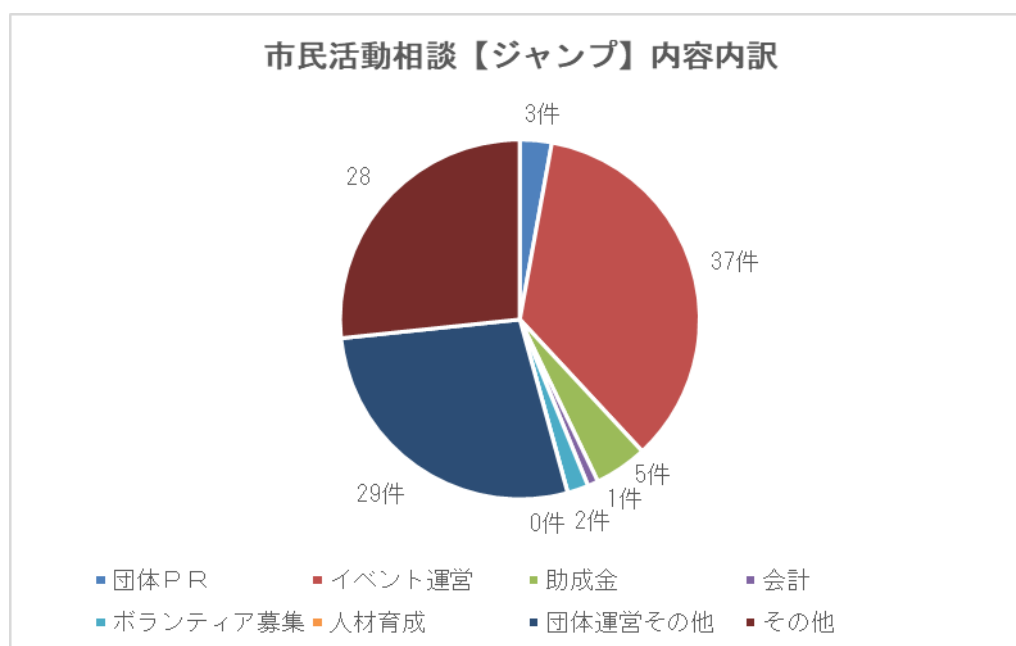
令和6年度 団体の法人化のサポート（3 団体）

団体・活動名	活動内容	備考
ベビーマッサージ教室運営団体	子育て支援	法人化の相談
多目的トイレのデジタルマップ作成団体	バリアフリーに関する情報の調査・提供	NPO法人化の相談
認知症カフェの運営団体	認知症当事者のサポート	法人化の相談

■ジャンプ

…資金調達、広報など団体運営に関する相談

市民活動相談 173 件の内、ジャンプ 105 件（60.7%）



市民活動相談の中でイベント運営に関する相談が37件で占める割合が21.4%と最も多かった。NPOつながり支援事業のアフターフォローや継続しての相談対応、イベントを実施するにあたっての相談やフォーム作成ツールの活用といった運営相談、団体の広報やPR、助成金など、団体運営全般にわたる内容の相談が多く、事務用ブースの入居団体のインキュベート相談を含め、団体の運営課題解決のための伴走支援を行った。

その他の相談の内容としては、フリーペーパー「tag」がきっかけとなり施設とつないだ掲載団体やTSC事業の講座参加者へのヒアリング、団体からの情報共有が多かった。

参考-3:相談対応推移(平成20～令和6年度)

1. 件数、人数、属性など		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6														計	総計
		計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
相談件数(件)		299	310	354	527	287	226	340	315	320	328	465	414	363	358	366	342	19	23	36	33	27	19	33	36	16	36	34	24	336	5,950		
開催日(日)		253	305	289	306	306	304	306	306	307	305	306	307	305	304	307	307	26	26	26	26	27	26	26	26	23	23	24	27	306	5,129		
件数平均(件/日)		1.2	1.0	1.2	1.7	0.9	0.7	1.1	1.0	1.0	1.1	1.5	1.3	1.2	1.2	1.2	1.1	0.7	0.9	1.4	1.3	1.0	0.7	1.3	1.4	0.7	1.6	1.4	0.9	1.1	1.2		
人数(人)		348	374	386	645	375	307	377	357	421	401	536	504	408	445	426	374	21	24	39	37	31	23	33	52	17	37	37	32	383	7,067		
対応時間計(分)		5,558	6,345	7,434	10,476	7,664	5,412	7,593	7,182	8,209	8,499	11,110	9,334	6,513	7,851	8,082	7,332	360	281	675	665	545	360	495	753	190	416	746	641	6,127	130,721		
対応時間平均(分/日)		22.0	20.8	25.7	34.2	25.0	17.8	24.8	23.5	26.7	27.9	36.3	30.4	21.4	25.8	26.3	23.9	13.8	10.8	26.0	25.6	20.2	13.8	19.0	29.0	8.3	18.1	31.1	23.7	20.0	25.5		
対応時間平均(分/件)		18.7	20.5	21.0	19.9	26.7	22.5	22.1	23.1	25.5	25.9	23.9	22.5	17.9	21.9	22.1	21.4	18.9	12.2	18.8	20.2	20.2	18.9	15.0	20.9	11.9	11.6	21.9	26.7	18.2	22.0		
対面	件数(件)	235	235	267	322	187	152	213	224	224	211	303	275	220	221	235	198	10	12	23	13	14	12	17	24	7	19	20	20	191	3,913		
	対応時間計(分)	4,858	5,789	6,572	8,463	6,481	4,585	6,295	6,165	5,984	7,279	9,055	7,535	5,256	6,172	6,743	5,616	285	192	530	345	430	285	385	648	135	252	585	555	4,627	107,475		
	対応時間平均(分/件)	20.7	24.6	24.6	26.3	34.7	30.2	29.6	27.5	26.7	34.5	29.9	27.4	23.9	27.9	28.7	28.4	28.5	16.0	23.0	26.5	30.7	23.8	22.6	27.0	19.3	13.3	29.3	27.8	24.2	27.5		
電話	件数(件)	58	67	81	195	87	72	119	99	88	105	137	115	126	126	110	126	9	10	12	14	12	7	12	12	9	11	11	4	123	1,834		
	対応時間計(分)	605	501	656	1,944	1,008	812	1,262	1,007	2,050	1,076	1,875	1,399	1,096	1,274	1,013	1,503	75	85	140	240	110	75	90	105	55	110	116	86	1,287	20,368		
	対応時間平均(分/件)	10.4	7.5	8.1	10.0	11.6	11.3	10.6	10.2	23.3	10.2	13.7	12.2	8.7	8.7	9.2	11.9	8.3	8.5	11.7	17.1	9.2	10.7	7.5	8.8	6.1	10.0	10.5	21.5	10.5	11.1		
その他	件数(件)	4	7	6	9	13	2	8	2	8	12	25	24	17	10	21	18	0	1	1	6	1	0	4	0	0	6	3	0	22	208		
	対応時間計(分)	95	55	206	39	175	15	36	10	175	133	180	400	161	405	326	213	0	4	5	80	5	0	20	0	0	54	45	0	213	2,837		
	対応時間平均(分/件)	23.8	7.9	34.3	4.3	13.5	7.5	4.5	1.7	21.9	11.3	14.4	16.7	6.7	17.3	15.5	10.6	0	4	10	16	5	0	20	0	0	9	15	0	10.5	13.5		
相談者属性	市民活動団体(件)	85	82	106	155	99	80	93	106	110	110	167	169	146	168	132	137	5	11	15	14	8	5	9	13	8	12	15	15	130	2,075		
	自治会・町内会(件)	13	14	25	18	27	18	31	28	14	21	30	41	25	23	18	32	2	0	2	1	1	1	5	2	0	0	1	2	17	395		
	生涯学習団体(件)	61	31	39	59	11	8	23	23	12	14	25	32	22	10	15	8	1	0	1	2	0	1	0	2	0	3	1	0	11	404		
	行政・外郭(件)	17	16	25	24	23	26	27	32	22	28	44	36	28	27	48	21	1	2	2	1	2	0	2	1	2	3	3	1	20	464		
	企業関連(件)	19	24	30	56	23	13	24	22	44	28	51	31	35	14	36	31	2	1	5	1	2	1	4	2	3	5	5	0	31	512		
	学校・学生(件)	9	7	9	19	11	2	11	5	10	27	18	19	6	11	13	18	0	0	0	3	4	2	3	0	0	1	1	0	14	209		
	マスコミ・議員(件)	2	2	2	7	2	2	2	2	2	2	4	1	4	3	4	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	44	
	個人(件)	65	88	81	127	62	51	90	64	63	60	100	64	73	70	77	74	6	9	6	11	8	5	7	11	3	10	5	6	87	1,296		
	その他(件)	26	45	33	62	30	25	32	33	43	38	26	21	21	32	23	20	1	0	4	0	2	4	3	5	0	2	3	0	24	534		
	初来館	初来館者(人)	126	97	99	165	88	79	96	64	88	70	76	76	43	59	50	45	3	0	5	5	5	2	6	1	3	1	3	0	34	1,355	
		どこで知ったか	公共施設(人)	37	23	34	46	16	23	24	16	12	17	15	13	4	12	7	6	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	307
ロコミ(人)			14	15	8	24	18	14	25	9	18	27	22	20	9	8	6	8	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	3	248	
3Cホームページ(人)			11	15	24	29	21	19	25	16	24	6	9	8	12	18	19	14	1	0	3	1	1	1	1	0	2	0	1	0	11	281	
その他(人)	64	44	33	66	33	23	22	23	34	20	30	35	18	21	18	17	2	0	2	3	4	1	3	0	1	1	1	1	0	18	519		
2. 相談内容の内訳																																	
(1) 支援対象について																																	
相談件数(件)		97	99	94	163	73	57	100	76	105	81	83	85	63	83	66	54	4	6	7	5	4	4	7	10	3	10	8	2	70	1,449		
対応時間(分)		1,217	1,185	1,003	1,857	855	727	1,221	860	1,354	1,113	1,065	1,097	615	905	688	497	40	52	60	55	45	50	105	103	25	72	61	20	688	16,947		
対応時間平均(分/件)		12.5	12.0	10.7	11.4	11.7	12.8	12.2	11.3	12.9	13.7	12.8	12.9	9.8	10.9	10.4	9.2	10.0	8.7	8.6	11.0	11.3	12.5	15.0	10.3	8.3	7.2	7.6	10.0	9.8	11.7		
利用目的	貸室(件)	77	69	62	116	59	37	71	56	81	62	53	58	49	69	51	42	3	6	3	3	1	2	5	6	2	7	5	1	44	1,056		
	印刷室(件)	9	16	27	19	5	10	15	6	9	6	5	3	3	4	4	2	1	0	1	0	0	1	0	2	0	0	1	0	6	149		
	チラシ(件)	6	10	4	9	6	6	10	11	14	5	21	21	11	9	7	8	0	0	3	1	3	1	2	2	0	3	2	1	18	176		
	ポスター(件)	2	0	1	4	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	17		
	その他(件)	3	4	0	5	3	4	2	3	2	8	3	2	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	
	その他(件)	3	4	0	5	3	4	2	3	2	8	3	2	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	
(2) 施設利用相談																																	
施設利用相談(件)		72	25	46	60	13	11	29	42	27	22	43	68	40	44	37	35	1	4	9	3	6	6	3	0	3	1	2	1	39	653		
対応時間(分)		866	270	599	643	136	170	296	655	415	270	545	920	550	525	323	300	10	34	90	80	60	70	15	0	15	5	20	5	404	7,887		
対応時間平均(分/件)		12.0	10.8	13.0	10.7	10.5	15.5	10.2	15.6	15.4	12.3	12.7	13.5	13.8	11.9	8.7	8.6	10.0	8.5	10.0	26.7	10.0	11.7	5.0	0.0	5.0	10.0	5.0	10.4	12.1	12.1		
場の提供	貸室(件)	46	11	19	34	2	3	10	19	16	7	15	13	7	22	11	15	1	1	5	0	3											

(3) 情報提供

1) 団体情報ファイル・団体紹介シート

①団体情報ファイル

団体情報ファイルには、団体ごとに団体紹介シート、パンフレット、チラシ、定款・会則、予算書、決算書、事業計画書、報告書などをファイリングしている。

このファイルは、団体の運営・事業の参考となる情報源であり、新規団体立ち上げの先行事例としても紹介できるものである。また、受益者がサービスを受ける場合や、市民がボランティアとして活動に参加する場合にも活用できる。

団体情報ファイルは、全国の活動団体の情報を「二市三町」「県内」「県外」のジャンルごとに分けてファイリングしており、利用者は館内で自由に閲覧できる。

今年度末現在、ファイリングしている総団体数は 2,331 団体。30 団体の追加があった（前年度の追加は 26 団体。前年比 115.4%）。

「二市三町」の団体数は、361 団体で、今年度は 9 団体の追加があった（前年度の追加は 12 団体。前年比 75.0%）。事業などで関わりを深めた団体や、施設の利用をきっかけに団体紹介シートを提出した団体も見受けられた。

分野別の特徴としては、地域の芸術や文化の継承に取り組む団体、グリーフケアを行う団体や依存症の家族会といった医療・保健・健康関連の団体などの増加が目立った。

次年度以降も、多賀城の新しい団体の情報収集により力を入れるとともに、収集した情報を市民が活用しやすいよう発信していく。

令和 6 年度多賀城市市民活動サポートセンター年間事業報告書

○団体情報ファイル数（単位：団体） ※二市三町：多賀城市・塩竈市・七ヶ浜町・利府町・松島町

	二市三町	県内	県外	合計	キーワード
福祉	29	154	63	242	障がい者支援、高齢者支援、移送サービス、配食サービス、地域福祉
医療・保健・健康	16	62	96	169	健康、医療、難病支援、カウンセリング、自殺予防、保健、依存症
スポーツ	29	23	4	55	スポーツ振興
人権・ジェンダー	11	56	54	118	平和、貧困支援、労働問題、人権、男女共同参画、DV、マイノリティ、ジェンダー、ひきこもり
子どもの育成・支援	54	122	93	266	子育て、青少年健全育成、障がい児支援、学習支援、児童虐待、不登校、母子・父子家庭支援
社会教育	18	18	23	58	生涯学習
環境	14	113	96	222	自然保護、環境保全、リサイクル、農業・林業・漁業・食育、動物・ペット、エネルギー
まちづくり	59	176	126	359	まちづくり、地域づくり、コミュニティ形成、地域おこし、観光
災害救援・地域安全	6	30	30	66	災害救援、被災者支援、地域防災・安全
国際交流・協力	8	37	66	111	国際交流、国際協力、在日外国人支援、フェアトレード
文化・芸術	81	146	56	275	文化振興、文学、音楽、映画、演劇、アート、歴史、伝統文化、ミニコミ出版、芸術、工芸
シニア	3	14	5	22	団塊世代、セカンドライフ
市民活動支援	2	28	201	229	市民活動団体支援、助成活動
その他	2	32	36	70	オンブズマン、政策提案、消費者保護、科学技術、職能開発、コミュニティビジネス、その他
地域組織	29	7	3	39	自治会、町内会、地域自主組織、まちづくり協議会、老人クラブ、子ども会
合計	361	1,018	952	2,331	

○分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

年度 分野	H20 (初年度)	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R5→R6 増減
福祉	52	226	237	237	241	242	246	+4
医療・保健・健康	34	162	162	164	166	169	174	+5
スポーツ		50	51	53	54	55	56	+1
人権・ジェンダー	20	112	112	116	117	118	121	+3
子どもの育成・支援	57	252	255	262	265	266	269	+3
社会教育		55	55	55	55	58	59	+1
環境	32	209	209	214	220	222	223	+1
まちづくり	47	340	342	349	355	359	361	+2
災害救援・地域安全		57	58	63	66	66	66	±0
国際交流・協力	19	106	108	109	110	111	111	±0
文化・芸術	22	265	267	270	274	275	283	+8
シニア	8	20	20	21	22	22	22	±0
市民活動支援	47	225	225	228	228	229	231	+2
その他	19	68	68	70	70	70	70	±0
地域組織		33	33	36	37	39	39	±0
合計	357	2,180	2,192	2,247	2,280	2,301	2,331 前年度比： 101.3%	+30

■分野の変更について

- ・医療・福祉・健康とスポーツは平成 29 年度より分離
- ・子どもの育成支援と社会教育は平成 29 年度より分離
- ・まちづくりと災害救援・地域安全は平成 29 年度より分離
- ・地域組織は平成 22 年度より集計開始

〇二市三町分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

年度 分野	H20 (初年度)	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R5→R6 増減
福祉	4	21	21	26	28	27	29	+2
医療・保健・健康	3	13	13	14	15	15	16	+1
スポーツ		24	25	27	27	28	29	+1
人権・ジェンダー	0	8	8	10	10	11	11	±0
子どもの育成・支援	6	48	49	52	53	54	54	±0
社会教育		16	16	16	16	18	18	±0
環境	6	10	10	11	11	13	14	+1
まちづくり	8	52	53	56	57	59	59	±0
災害救援・地域安全		4	4	5	6	6	6	±0
国際交流・協力	5	8	9	9	9	8	8	±0
文化・芸術	1	73	74	76	77	77	81	+4
シニア	0	2	2	2	3	3	3	±0
市民活動支援	1	2	2	2	2	2	2	±0
その他	0	2	2	2	2	2	2	±0
地域組織		23	28	26	27	29	29	±0
合計	34	306	316	334	343	352	361 前年度比： 102.6%	+9

〇エリア別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

年度 エリア	H20 (初年度)	H31	R2	R3	R4	R5	R6	前年比	R5→R6 増減
二市三町	34	306	316	334	343	352	361	102.6%	+9
県内	188	959	961	980	997	1,002	1,018	101.6%	+16
県外	135	915	915	933	940	947	952	100.5%	+5
合計	357	2,180	2,192	2,247	2,280	2,301	2,331	101.3%	+30

②団体紹介シート

市民活動団体の情報発信を支援する T S C 独自のツール。団体の連絡先、設立経緯、目的、活動内容、アピールポイントなどを記入するもの。提出された団体紹介シートは団体情報ファイルにファイリングしているとともに、T S C のウェブサイト上で公開しており、市民が自由に閲覧できる。今年度末現在、62 団体の団体紹介シートを公開している。

○団体情報シート数（単位：団体） ※二市三町：多賀城市・塩竈市・七ヶ浜町・利府町・松島町

	二市三町	県内	県外	合計	キーワード
福祉	5	5	0	10	障がい者支援、高齢者支援、移送サービス、配食サービス、地域福祉
医療・保健・健康	1	0	0	1	健康、医療、難病支援、カウンセリング、自殺予防、保健、依存症
スポーツ	1	3	0	4	スポーツ振興
人権・ジェンダー	3	0	0	3	平和、貧困支援、労働問題、人権、男女共同参画、DV、マイノリティ、ジェンダー、ひきこもり
子どもの育成・支援	7	4	0	11	子育て、青少年健全育成、障がい児支援、学習支援、児童虐待、不登校、母子・父子家庭支援
社会教育	9	1	0	10	生涯学習
環境	0	0	0	0	自然保護、環境保全、リサイクル、農業・林業・漁業・食育、動物・ペット、エネルギー
まちづくり	6	5	0	11	まちづくり、地域づくり、コミュニティ形成、地域おこし、観光
災害救援・地域安全	0	0	0	0	災害救援、被災者支援、地域防災・安全
国際交流・協力	1	1	0	2	国際交流、国際協力、在日外国人支援、フェアトレード
文化・芸術	7	1	0	8	文化振興、文学、音楽、映画、演劇、アート、歴史、伝統文化、ミニコミ出版、芸術、工芸
シニア	0	0	0	0	団塊世代、セカンドライフ
市民活動支援	0	1	0	1	市民活動団体支援、助成活動
その他	0	0	0	0	オンブズマン、政策提案、消費者保護、科学技術、職能開発、コミュニティビジネス、その他
地域組織	1	0	0	1	自治会、町内会、地域自主組織、まちづくり協議会、老人クラブ、子ども会
合計	41	21	0	62	

2) ウェブサイト・ブログ・X（旧ツイッター）

①ウェブサイト・ブログについて

		ウェブサイト	ブログ	
		訪問者数	訪問者数	記事数
平成 21 年度(初年度)		9,777	15,889	74
平成 30 年度		13,920	35,412	261
平成 31 年度		14,662	45,661	237
令和 2 年度		12,693	38,204	214
令和 3 年度		15,038	46,321	225
令和 4 年度		14,040	41,381	222
令和 5 年度		15,960	44,162	232
令和 6 年度	4 月	1,412	4,470	14
	5 月	1,595	4,394	16
	6 月	1,599	3,606	13
	7 月	1,755	4,009	15
	8 月	1,746	4,218	19
	9 月	1,917	4,009	16
	10 月	1,888	4,132	22
	11 月	1,917	3,589	25
	12 月	1,841	3,863	20
	1 月	1,722	4,129	14
	2 月	1,774	10,463	19
	3 月	1,757	10,068	20
令和 6 年度計		20,923	60,950	213

ウェブサイト：平成 21 年 12 月 25 日開設

ブログ：平成 20 年 7 月 19 日開設

※平成 28 年 5 月にセキュリティ対策としてウェブサイトの訪問者数測定ソフトを変更。同一人が重複してカウントされない方法となった。

※平成 30 年 4 月、ウェブサイトリニューアルに伴い訪問者測定ソフト・方法を変更。これまでは同一人が 1 ヶ月に何度訪問しても 1 件とカウントされていたが、同一人が訪問した回数だけカウントされるようになった。

ウェブサイトは主に T S C の機能や事業を、ブログは主に市内外の市民活動に関わる取り組みやノウハウ、地域イベント等を発信している。

※訪問者数比較

前年度比：ウェブサイト 131.1%

ブログ 138.0%

積極的な情報発信を心がけ、ウェブサイト、ブログともに訪問者を増やすことができた。特にブログでは、曜日ごとに発信内容を変えて定期的に情報を発信した。

ブログ訪問者の 8~9 割はブックマークをしている人であり、T S C 事業に対して関心を持つ市民、ブログを通じて市民活動や地域の情報を得ようとしている市民であると考えられる。

T S C の事業の告知や報告の記事の閲覧数が多い傾向にあり、旭ヶ岡地区の「多賀城みんなの地域学」の展示やトークショー、「多賀城 LUNCH トーク」の不登校の回など、市民から多くの関心を集めたイベントを紹介した 2 月、3 月のアクセスが増加した。

②X（旧ツイッターについて） 平成 23 年 9 月 1 日開設

ブログ更新や T S C 事業の告知で活用し、フォロワーに対して広く T S C の情報を届けることができた。今後も継続して各事業とも連携し、講座やイベントの様子を発信など、多様な地域の情報の発信をしていく。

	フォロワー数
令和 6 年 3 月	2,086 人
令和 7 年 3 月	2,091 人 (+5)

3) たがさぼ文庫

たがさぼ文庫は、情報サロン内にある市民活動、NPO、地域活動などに関する書籍を集めた図書貸出コーナーとして平成21年6月1日より開始した。

広報、会計、労務など団体マネジメントに関する書籍、市民活動の入門となる書籍、各分野（福祉・まちづくり・子ども等）の専門書、活動の参考になるハウツー書籍をそろえている。また、NPOに関する絵本や震災関連の資料なども収集している。

蔵書数 ・1,384冊（令和7年3月末現在）
※令和6年度：46冊増

登録者計 ・255人

概要 ・事前登録により、貸出カードを発行
・1人2冊まで、貸出期間は2週間



令和6年度書籍貸出件数

		貸出図書		
		登録者数	貸出件数	貸出冊数
		人	件	冊
平成21年度（初年度）		37	100	132
平成31年度		10	63	95
令和2年度		14	63	94
令和3年度		20	85	121
令和4年度		6	57	77
令和5年度		7	61	87
令和6年度	4月	0	1	1
	5月	1	4	6
	6月	0	2	3
	7月	0	3	4
	8月	0	2	3
	9月	0	2	3
	10月	1	2	3
	11月	0	2	2
	12月	4	6	9
	1月	1	5	7
	2月	3	6	11
	3月	0	1	2
令和6年度計		10	36	54

登録者数：10人（前年比142.9%）

貸出件数：36件（前年比59.0%）

貸出冊数：54冊（前年比62.1%）

登録者数は前年度を上回ることができた。1階展示スペースで新入荷図書の紹介展示を行い、貸出図書の周知、利用促進の機会を設けたほか、TSC事業の新しい人材活動支援事業参加者に新規登録や利用の呼びかけを行ったことが要因としてあげられる。それ以外のTSC事業の講座・イベントで書籍を展示した際など、利用の促進や機能を周知する機会が少なかった影響で、貸出件数や貸出冊数が減少したと考えられる。

次年度は、ブログでのブックレビューやTSC事業での図書の展示など、機能の周知の機会、利用促進をさらに強化していく。また、地域・社会課題の解決のヒントとなる資料をそろえ、市民にさまざまな情報を提供していく。

(4) 場の提供

1) 事務用ブース利用状況／事務用ブース入居団体インキュベート相談

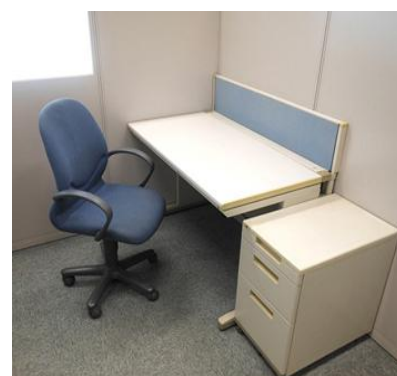
○事務用ブース入居状況（令和 7 年 3 月 31 日現在）

ブース	団体名	入居年月
1	高崎こども食堂らっこ広場	令和 4 年 6 月入居
2	一般社団法人 G o l a z o	令和 5 年 6 月入居
3	旭ヶ岡町内会	令和 5 年 2 月入居
4	多賀城イングリッシュ・サポーターズ	平成 29 年 6 月入居
5	宮城県学童保育連絡協議会	平成 30 年 9 月入居
6	ドリーム J r .	令和 7 年 2 月入居
7	傾聴の会多賀城	令和 3 年 2 月入居
8	生涯学習 100 年構想実践委員会	平成 28 年 9 月入居

○事務用ブース入居団体インキュベート相談会について

事務用ブース入居 6 ヶ月後に、団体の代表者や事務局担当者と T S C スタッフで相談会を実施。1 団体あたり 1 時間程度、団体の活動の現状把握や運営課題の整理、課題解決に向けた情報提供やアドバイスなどを行った。

今年度の相談会では、運営の担い手不足や引継ぎのための業務の棚卸、イベントの運営体制についての課題が多く出た。高齢化やメンバーの脱退、価値観の変容などにより往来通りのやり方に変化が求められる中、ボランティアに部分的に運営を手伝ってもらう団体や入会条件の緩和を検討する団体など、それぞれの団体が活動状況に合った解決方法を模索している。また、相談会では現在の広報をさらに活用するための改善案なども話し合った。活動の充実に向けて、現在の活動内容の見直しや他セクターとの協力、新しい資金調達の方法を考える団体も出てきている。



事務用ブース

○インキュベート相談会実施状況

団体名	日 時	参加者
旭ヶ岡町内会	令和 6 年 8 月 23 日（金）10:30～11:30	1 名
傾聴の会多賀城	令和 6 年 8 月 23 日（金）14:30～15:30	1 名
多賀城イングリッシュ・サポーターズ	令和 7 年 1 月 16 日（木）15:00～16:00	2 名
高崎こども食堂らっこ広場	令和 7 年 1 月 17 日（金）14:00～15:00	1 名
一般社団法人 G o l a z o	令和 7 年 1 月 24 日（金）16:00～16:45	2 名
生涯学習 100 年構想実践委員会	令和 7 年 3 月 7 日（金）14:00～15:00	4 名
宮城県学童保育連絡協議会	令和 7 年 3 月 14 日（金）10:00～11:00	1 名

2) フリースペース利用状況

①フリースペース概要

○通常の利用

地域づくりに関わる方の交流を深めるための場として、予約不要・無料で利用できる。平成 27 年 5 月、2 階ギャラリーに Wi-Fi を設置、令和 2 年度からは全館で Wi-Fi の利用が可能となり、利用者が自身のスマートフォンやノートパソコンなどでインターネット接続ができ、情報収集・発信を行うことができる。

令和 2 年度より、テーブル・イスの数を減らし、利用人数・利用時間に制限を設けるといった新型コロナウイルス感染予防対策を行っていたが、令和 5 年 5 月 8 日より、コロナ禍前の状態に戻しての運営とした。



1 階ロビー

(「参考-1：主な項目の利用状況推移（平成 20～令和 6 年度）」を参照)

○企画の利用

NPO、自治会・町内会、子ども会、生涯学習団体、個人、企業（社会貢献活動での利用）を対象に、展示、ワークショップ、交流会など、下記の目的のもと利用ができる。

【利用目的】

- ・団体の活動を多くの人に知ってもらう
- ・企画づくりを通して団体運営のパワーアップを図る
- ・市民が集い新たなつながりを生む
- ・市民が自分たちの住む社会・地域について知り、考える。
- ・市民が地域・社会のためにアクションを起こす



2 階ギャラリー

○TSCからの情報発信活用

1 階ロビーは、たがさぼ文庫などの TSC の機能や災害時の支援情報、防災・減災関連やボランティア情報など、まちのことを考えるきっかけとなる情報を発信する場として活用している。



3 階交流サロン

②企画の利用内容 5団体計5回の利用があった（前年度は6団体計6団体の利用）

	企画タイトル	利用団体	期間	実施目的	実施内容	フロア	参加人数
1	若者限定対話会	鈴木亜里紗	5/4	まちづくりに関するアイデアを共有するため	主にまちづくり関連の仕事・イベント関係者による対話会	3階 交流サロン	6人
2	令和6年度多賀城中学校美術部作品展	多賀城中学校美術部	7/25～8/4	保護者・地域の人に美術部の作品を見てもらうため	美術部の作品の展示	2階 ギャラリー 3階 交流サロン	142人
3	カモミールの会 ※画像なし	カモミールの会（集い）	11/18	引きこもりの当事者家族の集いの場づくり	引きこもりの親の会	3階 交流サロン	6人
4	さをり織り作品展 &ワークショップ	さをりひろば余暇よか	1/11～ 1/13	さをり織りの普及のため	作品の展示と織機を使ったワークショップ	3階 交流サロン	55人
5	お菓子なわたしたち	ぎやるディーズ	3/30	中高生の交流のため	学生の居場所づくりを目的としたテーブルトーク	3階 交流サロン	10人

③企画利用の様子



1. 若者限定対話会（鈴木亜里紗）



2. 令和6年度多賀城中学校美術部作品展
（多賀城中学校美術部）



4. さをり織り作品展&ワークショップ
（さをりひろば余暇よか）



5. お菓子なわたしたち
（ぎやるディーズ）

④ T S Cからの情報発信活用の内容 10回の企画を開催

	企画タイトル	期間
1	能登半島地震支援情報展示	4/1～4/30 (1/6より継続)
2	「多賀城市民のみなさんよりご寄贈いただきました」展示	5/15～11/8
3	山形・秋田豪雨被害支援情報展示	8/1～3/3
4	事務用ブース・ロッカー・レターケース利用団体活動報告書掲示	8/6～11/8
5	船長小屋展示	9/5～11/16
6	能登半島豪雨災害支援情報展示	9/26～3/3
7	たがさぼ文庫新入荷（上半期購入分）図書展示	12/26～3/31
8	多賀城みんなの地域学Ⅳ旭ヶ岡の今は昔展示	1/20～3/16
9	3・11 東日本大震災追悼行事情報展示	3/4～3/11
10	大船渡山林火災支援展示	3/13～3/31



1. 能登半島地震支援情報展示
(4/1～4/30 1階エントランス)



2. 「多賀城市民のみなさんよりご寄贈いただきました」展示
(5/15～11/8 1階エントランス)



3. 山形・秋田豪雨被害支援情報展示
(8/1～3/3 1階エントランス)



4. 事務用ブース・ロッカー・レターケース
利用団体活動報告書掲示
(8/6～11/8 1階ロビー)



5. 船長小屋展示
(9/5～11/16 2階ギャラリー)



6. 能登半島豪雨災害支援情報展示
(9/26～3/3 1階エントランス)



7. たがさば文庫新入荷図書展示
(12/26～3/31 1階エントランス)



8. 多賀城みんなの地域学Ⅳ旭ヶ岡の今は昔展示
(1/20～3/16 3階交流サロン)



9. 3・11 東日本大震災追悼行事情報展示
(3/4～3/11 1階エントランス)



10. 大船渡山林火災支援展示
(3/13～3/31 1階ロビー)

(5) 他団体・他機関との連携

1) 各会議・実行委員会への参加

地域課題を解決していくためには多様な主体で連携して取り組んでいく必要がある。今年度、T S C では多賀城市の課や施設を横断しての情報交換や取り組みの場に参加した。

①Taga 懇「多賀城未来の懇談会」

テーマを設けて市民と市長が情報共有し、直接対話・意見交換することを通して、一緒に多賀城の未来を考える。令和 4 年度から実施。

令和 6 年度テーマ「日本一暮らしやすいまち」～つなぐ、つなげる。1300 年。～

○主管

多賀城市地域コミュニティ課

○T S C の役割

- ・ファシリテーターとして、参加者全員からの発言の引き出し、陳情・要望が出た際の軌道修正が依頼内容。
- ・市民参画のまちづくりのきっかけになるような場をつくること。

○実施状況

	実施日	会場	協力
第 1 回	7 月 18 日 (木) 18 : 30 ~ 20 : 00	大代地区公民館	中津
第 2 回	7 月 25 日 (木) 18 : 30 ~ 20 : 00	山王地区公民館	中津
第 3 回	8 月 8 日 (木) 18 : 30 ~ 20 : 00	T S C	中津

○成果

- ・市民と市長との懇談として市民が気になっていることを直接市長に聞くことができた。市が伝えたいことの発信だけでなく、市民が知りたいことも発信する場にもなった。
- ・参加者より「他の市民の意見を聞くことができてよかった」との感想があり、多賀城在住歴や世代を超えて、お互いに話を聞き合える場にもなったこと。

○課題

- ・市民が市長と話すことが主目的か、アイデアをふくらませることをめざすのかによって、適した場づくりが必要。

②施設情報交換会

市内の施設が連携して事業を実施し、各種対応について意見交換できるよう情報交換の場を設けている。平成 30 年度より始まった。

○参加団体・機関

- ・文化センター ・中央公民館 ・山王地区公民館 ・大代地区公民館
- ・総合体育館 ・市立図書館 ・地域コミュニティ課 ・市民文化創造課

○T S C の役割

- ・T S C の取り組みや視点を各施設へ共有する。

○実施状況

	実施日	内容	参加
第 1 回	4 月 16 日 (火)	自己紹介/各施設からの報告・情報共有 今年度の事業について	川口 西條
第 2 回	7 月 19 日 (金)	各施設からの報告 施設予約システムについて	川口 西條
第 3 回	10 月 3 日 (木)	健康長寿課から協力依頼について 各施設からの報告・情報共有	川口 西條

○成果

- ・各施設の取り組み、新しく導入された施設予約システムの操作や不明点など共有することができた。
- ・施設間の連携が進み、図書館、文化センターとの 3 館合同での周遊イベントの開催につながった。
- ・T S C 主催の雑貨市集会に施設担当者が参加し、団体とつながるなどの成果も生まれた。
- ・T S C の持つ市民活動や課題解決の視点から情報共有することができた。

○課題

- ・次年度以降も情報交換だけでなく、連携協力できる場を提案しながら課題解決に取り組む場としていく。

③中央地区生活支援体制整備事業第 2 層協議体「ちゅうおう盛り上げ隊 たが和っか」

中央地区における見守り体制やコミュニティ支援について情報共有をしていくための協議体。

○参加団体・機関

- ・中央地域包括支援センター ・社会福祉協議会 ・介護障害福祉課介護支援係
- ・シルバー人材センター
- ・せいふう多賀城駅前 ・アースサポート多賀城 ・デイサービスヒマワリ
- ・みんなで食べよう会 ・八幡下二区町内会 ・向山地区民生委員 ・志引地区住民
- ・多賀城市多賀モリ会 ・伝上山地区住民 ・隅田地区住民

○T S C の役割

- ・市民活動団体等の取り組みの共有。
- ・多様性を持った視点での情報共有。
- ・中央地区の活動者や活動を知り、T S C の事業などに活かす。

○実施状況

	実施日	内容	参加
第 1 回	4 月 15 日 (月)	前年度のまとめ	小笠原
第 2 回	5 月 15 日 (水)	「たが和っか」の役割など	欠席
第 3 回	6 月 14 日 (金)	八幡保育所・鈴の花保育園・コアラ保育園合同避難訓練について 地域カルテについて	小笠原

※	6 月 28 日 (火)	八幡保育所・鈴の花保育園・コアラ保育園合同避難訓練に参加	小笠原
第 4 回	7 月 16 日 (火)	八幡保育所・鈴の花保育園・コアラ保育園合同避難訓練の振り返り	小笠原
第 5 回	8 月 19 日 (月)	防災チーム・居場所チームでの話し合い	小笠原
※	9 月 5 日 (木)	八幡沖区おしゃべりサロン沖に参加	小笠原
第 6 回	9 月 13 日 (金)	防災チーム・居場所チームでの話し合い	欠席
※	9 月 20 日 (金)	八幡下二区お茶っこ会に参加	小笠原
※	10 月 6 日 (日)	みんなで食べよう会に参加	小笠原
※	10 月 16 日 (水)	地域支え合い講座（中央地区会場）に参加	小笠原
第 7 回	10 月 17 日 (木)	防災カードゲーム「クロスロード」研修	小笠原
第 8 回	11 月 18 日 (月)	防災チーム・居場所チームでの話し合い	小笠原
※	11 月 28 日 (木)	多賀城小学校 2 年生まち探検見守りボランティアに参加	小笠原
第 9 回	12 月 17 日 (火)	活動報告会の内容について	小笠原
第 10 回	1 月 15 日 (水)	活動報告会の準備・話し合い	欠席
第 11 回	2 月 18 日 (火)	たが和っか活動報告会	小笠原
第 12 回	3 月 14 日 (金)	活動報告会の振り返り	小笠原

○成果

- ・ T S C の関わる地域の防災の取り組みに協議体メンバーが参加した。
- ・ 地域のサロンや集いに参加し、活動内容や活動者の想いをブログなどで発信することができた。
- ・ T S C の役割や取り組みを協議体メンバーに知ってもらうことができた。

○課題

- ・ さまざまな視点を T S C から協議体メンバーに向けて発信・提案し、地域住民と連携し、課題解決に取り組む機会を創出していく。

④多賀城市環境審議会

「第三次多賀城市環境基本計画」の各年度の振り返りとトピックの報告を行う。T S Cからは、中津センター長が委員に委嘱されている。

(任期：令和5年3月20日～令和7年3月19日)。

○主管

環境施設課

○構成メンバー

・学識経験者 ・関係行政機関 ・市長が必要と認めた者

○T S Cの役割

・市民活動・地域活動支援、協働促進に取り組む立場から、地域の課題、団体の運営課題を伝え、計画進捗管理・評価に反映させる。

○実施状況

実施日	内容	参加
7月8日(月)	「第三次多賀城市環境基本計画」の進捗状況について	中津
11月19日(火)	市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の改訂について	中津

⑤令和6年度 多賀城市地域学校協働本部会議

学校運営に地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えていく。地域と学校が相互にパートナーとして連携協働して行っていく。

○主管

生涯学習課

○構成メンバー

・地域学校協働推進委員 ・各小学校放課後子どもコーディネーター
・小中学校教員 ・公民館職員 等

○T S Cの役割

・地域と学校のつながりのサポート。関係団体や取り組みの紹介。
・地域のキーパーソンとのつながりづくり。

○実施状況

実施日	内容	参加
4月25日(木)	第1回 ・地域学校協働活動事業について ・情報交換	川口
7月25日(木)	多賀城市協働教育研修会 ・研修「多賀城市の地域学校協働活動をよりよくするために」	川口
10月10日(木)	第2回地域学校協働活動推進員会議 ・T S Cの役割について説明	川口
1月31日(金)	第2回 ・地域学校協働活動報告	川口

⑥令和 6 年度地域懇談会

地域に開かれた児童館・児童クラブを目的に、地域との情報交換や児童館・児童クラブの取り組みを報告。地域との関わりを増やしていくための懇談会。

○主管

- ・鶴ヶ谷児童館 ・西部児童センター
(NPO法人 MIYAGI 子どもネットワーク)

○構成メンバー

- ・各小中学校 ・地域の幼保施設 ・自治会・町内会 ・地域の主任児童委員
- ・多賀城市子育てサポートセンター ・ボランティア連絡会 ・市民活動団体等
- ・学校ボランティア ・各公民館 ・敬老会 等

○TSCの役割

- ・児童館の役割を知り、市民活動団体や取り組みを紹介。
- ・地域とのつながりや連携しての取り組みを推進していく。

○実施状況

実施日	内容	参加
2 月 18 日 (火)	西部児童センター ・児童センター・放課後児童クラブ活動報告(山王小学校・城南小学校・八幡小学校) ・意見交換	西條
2 月 21 日 (金)	鶴ヶ谷児童館 ・鶴ヶ谷児童館、放課後児童クラブの活動報告(多賀城小学校・多賀城東小学校・天真小学校) ・意見交換	川口

2) 他部署・他機関との連携事例

他セクターとの協力で課題解決へ向けて実践した事例をまとめた。

①課題解決に向けた多様なセクター連携の取り組み

ア) 地域と連携した幼保施設の避難訓練

○八幡保育所・鈴の花保育園・多賀城コアラ保育園（八幡地区）

【企画について】

日 時：令和6年6月11日（火）13:30～15:00（ルート確認・情報交換）

令和6年6月28日（金）10:00～11:30（避難訓練）

避難ルート：各保育園→国道45号線→末の松山へ避難

内 容：津波想定地域での訓練のため、各園から高台の末の松山に避難を行った。情報交換では、近隣の事業所なども参加し、どこに避難するのがいいか情報交換を行った。

参 加：70人（情報交換19団体29人、避難訓練27団体41人）

【連携について】

概 要：自治会・町内会への声がけ

地域と保育園の情報交換会への参加

連携団体：八幡保育所・鈴の花保育園・多賀城コアラ保育園（主催）

八幡上一町内会、八幡上二区町内会、八幡下一町内会、八幡下二町内会、沖区振興会、多賀城市社会福祉協議会、多賀城市中央地域包括支援センター、有限会社津田工務店、有限会社加藤鉄工所、パチンコひまわり多賀城店、癒志の里、防災人、アースサポート多賀城、みんなで食べよう会、伝上山、地域の郵便局長（多賀城・大代・下馬・明月・大郷・利府）、子ども政策課、地域コミュニティ課、一般社団法人Bird's-eye、危機管理課

成 果：八幡地区の幼保施設の訓練に、自治会・町内会、企業、市民活動団体などが参加の声がけをサポートすることで、地域の連携の一步につながった。避難ビルとして企業から使ってもよいという声があり、危険箇所を一緒に確認することで、地域の防災意識も強くなった。

○認定こども園つむぎ野（鶴ヶ谷地区）

【企画について】

日 時：令和6年9月12日（木）9:30～11:00（ルート確認・情報交換）

令和6年10月10日（木）10:00～11:30（避難訓練）

避難ルート：認定こども園つむぎ野→天真小学校（避難場所）

内 容：園内での地震発生を想定し、避難場所の天真小学校に避難を行った。隣の鶴ヶ谷児童館も一緒に避難する想定で避難行動をした。

参 加：約70人（情報交換15団体20人、訓練16団体約50人 ※園児含まず）

【連携について】

概要：自治会・町内会、近隣学校への声がけ

地域と幼保施設の情報交換会への参加

連携団体：認定こども園つむぎ野（主催）

鶴ヶ谷親和会、天真小学校、多賀城中学校、宮城県貞山高等学校、鶴ヶ谷児童館、NPO法人多賀城市民スポーツクラブ、東北電力ネットワーク株式会社塩釜電力センター、多賀城市家庭教育支援チームあんだんて、カハデルフゲテフオトスタジオ、東部地域包括支援センター、地区の郵便局長（多賀城、下馬、高橋、明月）、一般社団法人Bird's-eye、危機管理課

成果：2年目になる鶴ヶ谷地区では、自治会・町内会、企業、地域の市民団体等の顔の見える関係づくりが進んだ。前年度に課題として挙がっていた鍵の共有も進み、より地域の防災意識が高まった。

○多賀城はるかぜ保育園・もりのなかま保育園多賀城高橋園（高橋地区）

【企画について】

日時：令和6年9月20日（金）13:30～15:00（情報交換）

令和6年9月30日（金）13:30～15:00（ルート確認）

令和6年10月15日（火）9:30～11:30（避難訓練）

避難ルート：各保育園→山王小学校（避難場所）

内容：指定避難場所へ各幼保施設から避難する想定。一時避難場所やルートなどを確認しながら行った。

参加：74人（情報交換会14団体22人、ルート確認8団体13人、避難訓練21団体24人）

【連携について】

概要：自治会・町内会への声がけ

保育所と自治会・町内会の情報交換会への参加

連携団体：多賀城はるかぜ保育園（主催）・もりのなかま保育園多賀城高橋園（主催）

- ・高橋東二区町内会 ・西部児童センター ・西部地域包括支援センター
- ・ツルハドラッグ多賀城店 ・蔵八ラーメン亭多賀城高橋店
- ・平禄寿司多賀城西店 ・フラワーファーム四季彩 ・防災人
- ・てんでん宮城 ・山王小学校 ・多賀城市社会福祉協議会
- ・地域の郵便局長（高橋、下馬、大代、浦戸、汐見台、多賀城、明月、東玉川、松島海岸） ・一般社団法人Bird's-eye ・施設整備課
- ・地域コミュニティ課 ・危機管理課

成果：幼保施設の訓練に、自治会・町内会、企業、地域の市民団体等をつなぎ、顔の見える関係づくりと今後の関係性ができるようサポートした。

イ) 多賀城市内のボランティア人材の情報交換（たがさぼ市民ミーティング）

【企画について】

日 時：令和 7 年 2 月 27 日（木）14:00～16:00

会 場：T S C

内 容：多賀城市内のボランティア人材の活用についての情報交換

参 加：7 団体 8 人

【連携について】

概 要：市内のボランティアを受け入れている施設や担当課に声がけし、人材活用について事前ヒアリングを行い、情報交換の場をつくった。

連携団体：T S C（主催）

- ・大代地区公民館 ・山王地区公民館 ・生涯学習課 ・健康長寿課
- ・西部児童センター ・子育てサポートセンター ・中央公民館
- ・鶴ヶ谷児童館 ・文化センター

成 果：多賀城市内のボランティア人材に関する情報交換を通じて、T S C のボランティア情報を社会福祉協議会でも閲覧できるなどの連携が生まれた。

ウ) 多賀城市長杯交流将棋大会

【企画について】

日 時：令和 7 年 3 月 20 日（木・祝）9:30～16:00（一般の部）

令和 7 年 3 月 22 日（土） 13:30～15:45（こどもの部）

10:00～12:00（こども将棋教室）

会 場：T S C

内 容：・小学生以下を対象の将棋教室と大会の実施

- ・他市、多世代交流を目的とした将棋大会の実施
- ・創建 1300 年記念の市民団体の事業
- ・友好都市の山形県天童市との友好事業の一環

参 加：83 人（小学生以下の部 23 人 一般の部 60 人）

【連携について】

概 要：T S C は主催する市民活動団体、市内の事業所、観光協会、行政をつなぐ役割を担った。

連携団体：多賀城将棋ラボ（主催）

- ・多賀城市市民文化創造課 ・多賀城市観光協会 ・市内事業者
- ・市内小学校 他

成 果：市民活動団体と事業所や行政、観光協会をつなげ、連携して次世代への将棋文化継承のための事業を行うことができた。

エ) ゲバサンバ ～あなたと私とあの人とみんなで作るごちゃまぜの祭り～

【企画について】

日 時：令和7年1月19日（日）10:00～15:00

会 場：西ノ入公園・下馬公民館

内 容：下馬地区での子どもから高齢者まで参加できる祭りを実施。

参 加：約1,000人

【連携について】

概 要：自治会・町内会事業での情報交換会や、NPO交流会、多賀城 LUNCH トークでのプレゼンなどを通じて、ボランティアや支援者を集めるきっかけとなった。

連携団体：KuuU FuUU（主催）

・ソーシャルビレッジ ・下馬南町内会 ・ボランティア（個人・団体）

成 果：つながりのないセクターへアプローチできる機会を創出することで、支援やボランティアを集める一端を担った。

②学校との連携

ア) 高崎中学校 3 学年「総合的な学習の時間」

【企画について】

日 時：令和6年9月9日（月）10:35～12:15

会 場：高崎中学校

内 容：3 学年の総合的な学習の時間での、課題を知り、調べ、発表したり自ら参加するところまでを目指す授業の一環。

参 加：4 団体 4 人 3 学年 158 人

【連携について】

概 要：多賀城市を中心とした課題に取り組む市民活動団体を紹介。講話を実施した。

連携団体：高崎中学校

- ・多賀城視覚障害者福祉協会
- ・NPO法人筋強直性ジストロフィー患者会
- ・高崎こども食堂らっこ広場
- ・セブンビーチ・プロジェクト

成 果：市民活動団体の取り組んでいる社会課題について講話いただき、生徒が自ら考え改善に向けてできることを考え、調べて一人ずつ発表した。市民活動団体にとっては、若い世代に活動を知ってもらうきっかけになった。

イ) 高崎中学校 大宰府の中学生との交流

【企画について】

日 時：令和6年10月10日（木）9:00～10:00

会 場：高崎中学校

内 容：大宰府との交流事業。交流できるものや防災をテーマとしたワークショップと

の相談があった。

参 加：1 団体 4 人 3 学年 158 人＋大宰府からの生徒 4～5 人

【連携について】

概 要：防災のワークショップ「クロスロード」を実施するわしん倶楽部を紹介。

連携団体：高崎中学校/大宰府の生徒

・わしん倶楽部 ・東部地域包括支援センター

成 果：ワークショップ「クロスロード」を通じて、大宰府の中学生との交流と防災の時にどのように考えるかなどをお互い共有した。また、災害時に大切なことや、いろいろな価値観があることを知る機会を創出できた。

ウ) 宮城県貞山高等学校 「総合的な探究の時間」における地域国際交流活動

【企画について】

日 時：①令和6年9月19日（木）10:35～11:30 【3・4年次】

②令和6年10月2日（水）13:00～13:45 【3年次】

③令和6年11月13日（水）13:00～13:45 【4年次】

会 場：宮城県貞山高等学校

内 容：地域で働く外国人技能実習生とのコミュニケーションを通じて、異なる価値観や多角的な視点に気づき、探究的な物の見方や考え方を養う。

① 講話「宮城の『多文化』の現状～外国人労働者のことを中心に～」

②③国際交流活動

参 加：①37 人 ②34 人 ③16 人

【連携について】

概 要：宮城県国際化協会、技能実習生を受け入れている多賀城市内の企業をつないだ。

連携団体：宮城県貞山高等学校（主催）

・公益財団法人宮城県国際化協会 ・株式会社武蔵野（技能実習生 2～3 人）

・株式会社OR J ・公益財団法人国際労務管理財団

成 果：宮城県、多賀城市の多文化共生の現状と、自分の暮らしている地域で働いている外国人技能実習生との交流で文化や価値観を学び、同じ地域の一員として理解することが出来た。

エ) 宮城県貞山高等学校 「総合的な探究の時間」における地域理解講話

【企画について】

日 時：令和6年10月9日（木）13:55～14:45 【2年次】

会 場：宮城県貞山高等学校

内 容：地域課題に取り組む団体の話を聞き、地域が抱える課題に気が付くとともに地域社会に参加する態度を育む。

講話「スポーツで障がいの垣根をなくそう～共生社会の実現を目指して～」

参 加：1団体1人 生徒68人

【連携について】

概 要：共生社会をテーマとして、活動している団体を紹介した。地域課題を知り、社会的視野を広め、探究的な見方・考え方を養うための講話を行った。

連携団体：宮城県貞山高等学校（主催）

・一般社団法人 Golazo

成 果：市民活動や共生社会の実現について、自らできることを考える時間になったなどの感想があった。

オ) 防災についての情報交換会

【企画について】

日 時：①令和6年12月19日（木）16:45～19:00

②令和6年12月20日（金）15:00～16:00

会 場：①宮城県多賀城高等学校

②TSC

内 容：レッドクレセントの資格を持つマレーシア在住のゲストと東日本大震災時の情報を共有した。震災後の復旧にどのようなことが必要だったかなどの意見交換も行った。

参 加：①15人 ②2人

【連携について】

概 要：TSCは、ともだち・カワン・コミュニティからの相談を受けて、防災ワークショップに興味のある学校や施設に声がけを行った。

連携団体：ともだち・カワン・コミュニティ（主催）

・多賀城高等学校語学研究部 ・多賀城高等学校災害科学科有志
・有識者（大学教授等）

成 果：・TSCがコーディネートし、学校と市民活動団体とのつながりができた。
・生徒がマレーシアでボランティア活動をしているゲストから、防災やボランティアについて学ぶことが出来た。

*レッドクレセント…国際赤十字・赤新月運動（「赤十字運動」）によって運営される戦争や天災（自然災害）時における傷病者救護活動を中心とした人道支援団体の総称。
イスラム教国は赤新月が標章。

(6) スタッフの研修への参加

1) 外部研修

各スタッフに外部研修への参加を促し、業務の参考としていくとともに、他スタッフにも共有し、全体の学びとなるように心がけている。

NO	研修等名称	主催	日程	参加
1	行政職員のためのNPO理解講座	宮城県 (みやぎNPOプラザ)	5月28日(火)	阿部
2	新しい中間支援機能に関する研究会公開シンポジウム 地域コミュニティ支援が拓く協働型社会	新しい中間支援機能に関する研究会	6月18日(火)	金子
3	新任コーディネーター基礎研修	NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会	6月25日(火)	伊藤
4	これからの中間支援を考えるシンポジウム ～市民活動・NPO支援やまちづくり、地域自治組織 支援その本質とは?～	中間支援機能に関する研究会	7月9日(火)	中津
5	プロボノコーディネーター入門セミナー	仙台市市民協働推進課	7月25日(木)	金子
6	ともしび・NPOスクール いろいろな人の市民社会 論「続・ケアの観点からNPOのあり方を考える」	NPO法人日本NPOセンター	7月30日(火)	金子
7	みやぎ地域コーディネーター研修会	復興庁被災者支援コーディネート事業	9月5日(木)	小笠原
8	ともしび・NPOスクール NPO支援者コース 「課題を社会化する」	NPO法人日本NPOセンター	9月13日(金)	中津
9	宮城県NPO・市民活動支援施設情報交換会	みやぎNPOプラザ	10月10日(木)	中津
10	ともしび・NPOスクール 連携・協働コース 最先端の課題を通して考える協働「孤独・孤立対策」	NPO法人日本NPOセンター	10月15日(火)	小笠原
11	多賀城創建1300年記念歴史シンポジウム2024 三古碑、それぞれの碑に学ぶ古代日本	歴史シンポジウム実行委員会	10月19日(土)	阿部
12	ともしび・NPOスクール NPO支援者の仕事と姿勢 事業の評価に伴走する	NPO法人日本NPOセンター	10月22日(木)	小林
13	ともしび・NPOスクール 連携・協働コース 協働の先にある社会像「市民自治社会」とは	NPO法人日本NPOセンター	10月29日(火)	中津
14	NPO支援センター研修「NPO支援施設による伴奏 支援のあり方を考える」	みやぎNPOプラザ	12月5日(木)	西條
15	ボランティアコーディネーター研修 コーディネーションの基本～「つなぐ」を実践するために～	宮城県社会福祉協議会	12月10日(火)	京極
16	東北6県会議「協働のコーディネートと今後の中間支援組織の在り方を考える」	福島県(ふくしま地域活動団体サポートセンター)	12月13日(金) ～14日(土)	中津
17	NPO支援施設フォローアップ事業人材育成研修 「令和時代のNPO・市民活動支援を考える」	みやぎNPOプラザ	1月30日(木) ～31日(金)	小笠原
18	プロボノコーディネーター養成講座	せんだい・みやぎソーシャルハブ	2月20日(木)	西條
19	みやぎNPO情報ネット説明会	みやぎNPOプラザ	3月13日(木)	伊藤
20	第2回宮城県NPO・市民活動支援施設情報交換会	みやぎNPOプラザ	3月28日(金)	小林

(1) まちをともに創る人を増やす事業 1) TSC 運営への市民参画機会創出事業

目 的	○市民と一緒に地域の状況を共有し、課題を設定し、めざすまちの姿を描き、解決に向けて必要なアイデアを出し合い、TSCの運営に活かす場づくりにより、TSCの運営をひらくことを通して、主体としての市民を増やす。
背 景	○多賀城市の市民活動促進の方針策定に当たっては、市民活動実践者と、課を横断した市職員有志が、ともに市民活動について学び、検討し、市に提案した内容がもとになっている。TSCについても、市民活動実践者の声が機能や運営に反映されている。TSCの運営にも関わる「多賀城市市民活動促進指針（平成 18 年 6 月策定）」「多賀城市地域づくり基本方針（平成 26 年 11 月策定）」の策定から時間が経過し、地域状況の変化に応じた検証を市が進めている。合わせて市全体では、公共施設のあり方も検討されており、今後、市民活動、地域活動をどのように促進していくのかの転換期ともいえる。 このようなプロセスから、TSCでは、市民の声をTSCの運営に活かす場として、令和5年度から「たがさぼ市民ミーティング」を実施している。令和5年度はセクターごとのキーパーソンと、地域状況を共有し、今後の地域づくりについて意見を聞く機会となった。出た意見の中から、令和6年度は、地域で活躍する人材や市民活動に触れる機会の創出について、関係する団体・機関と課題を共有し、より効果的な取り組みにつなげていく。
対 象	○市民活動団体、自治会・町内会、事業者、学校等の地域のさまざまな主体
成果目標	○所属や役職等にとらわれず、多様な人が地域について考え、意見やアイデアを出し合えるテーマを2件設け、出た意見をもとに、より効果的な取り組みを、関係機関・団体と連携し実践する。
成 果	○たがさぼ市民ミーティング「雑貨市」では、参加者とともに、共生社会推進に向けた地域の取り組み状況や学生のボランティア参加の意義などを共有。雑貨市への参加の形を検討し、今年度実施の運営に反映することができた。 ○たがさぼ市民ミーティング「ボランティア」では、ボランティア受入やマッチングを行っている施設や機関にヒアリングを行い、市内の人材に関わる状況を確認することができた。また、各機関の取り組みに関する情報交換、アイデアを話し合い、より人材を活かすアクションを生み出すきっかけとなった。
次年度に向けた課題	○これまでの市民ミーティングでは、TSC運営に関わるテーマから実施を重ねてきたが、今年度実施した「ボランティア」のように市全体で共通する課題や、他機関と協力しながら取り組んでいけるようなテーマを設定する。

実施概況（１）まちをともに創る人を増やす事業 １）TSC 運営への市民参画機会創出事業

１．たがさぼ市民ミーティング

地域の活動における課題と支援の取り組みを地域のさまざまな主体と共有し、今後の市民活動促進について一緒に考え、将来像を描き、TSCの取り組みやまちづくりに活かす。

（１）テーマ： 雑貨市

目 的：今後雑貨市がこれまでよりも一歩前進した場となるように、地域全体でみてどのような場が必要か、雑貨市はどのような場であるべきか、どのような場であれば参加できるかなど、雑貨市の運営方法等を地域のさまざまな主体と共に考える。

１）市民ミーティング

日 時：令和 6 年 7 月 10 日（土）15:00～16:00

会 場：TSC 301 会議室

内 容：話題提供

○今回のテーマについて

- ・たがさぼのクリスマス雑貨市とは
- ・現在の状況

○たがさぼの雑貨市のこれまで

○市内の共生社会をテーマにしたイベント開催状況についての情報交換

- ・インクルーシブスポーツキャラバン
- ・スロウ日和

意見交換

○市民活動や地域課題を知る機会、共生社会を実現するために、地域全体でみてどのような場が必要か

○雑貨市がどのような場であるべきか（役割、運営方法、場所、開催時期、頻度など）

参 加：7 人

相澤 直さん（一般社団法人 Golazo）

羽生裕二さん（SEND.）

飯嶋 茂さん（特定非営利活動法人麦の会）

鎌田千賀さん（ボランティア参加者）

佐藤夏色さん（てんでん宮城）

佐藤若苗さん（宮城県多賀城高等学校教諭）

山田周吾さん（多賀城市立多賀城中学校教諭）

成 果：現状で目的が十分果たされているのではないかとの意見や、生徒が安心してボランティア活動に参加できる場になっているとの意見が出た。一方で、当日だけでなくプ



1. (1) 出店団体、ボランティア、学校関係者等に参加いただいた

ロセスに関わる機会があるとよいという意見もあった。
インクルーシブなイベントを実施している団体と連携してTSC以外の場所でボランティアに参加できる場を増やしていけるとよい。

⇒今年度実施のたがさぼのクリスマス雑貨市の運営に市民ミーティングで出たアイデアの要素を取り入れ、さまざまな人が主体的に関われる雑貨市を実施した。

(2) テーマ：持続可能な地域のための人材

目的：市民活動団体、自治会・町内会から担い手不足の声も上がっている一方で、何か活動してみたいという声がある。市内でボランティアマッチング、受け入れ等を行っている関係機関の皆さんと一緒に考え、より多くの人が地域に関われる状態をめざす。

1) 各機関へのヒアリング

令和 6 年

10 月 1 日	(火)	社会福祉協議会
11 月 29 日	(金)	教育委員会生涯学習課

令和 7 年

2 月 6 日	(木)	中央公民館
		文化センター
2 月 9 日	(日)	子育てサポートセンター
2 月 10 日	(火)	鶴ヶ谷児童館
2 月 18 日	(火)	西部児童センター
		大代地区公民館
		山王地区公民館

内 容：・人材に関わる取り組み

- ・成果・課題
- ・より多くの人に地域に関わってもらうために必要なこと

成 果：持続可能な地域のための人材に関して、下記の課題が明らかになったこと。

- ・他機関の取り組みの情報を持っておらず、各機関が独自で取り組んでいる状況が見えてきた。お互いの取り組みを知る機会が必要。
- ・各機関がそれぞれボランティア情報を発信しているので、何か活動したいという市民が情報を得にくい現状があり、情報発信の工夫が必要。

2) 市民ミーティング

日 時：令和 7 年 2 月 27 日（木）14:00～16:00

会 場：T S C 301 会議室

内 容：○各機関から人材に関する取り組み状況の共有

- ・市民からの問い合わせ状況
- ・取り組み状況
- ・課題に思っていること

○より多くの人に地域に関わってもらうためには

- ・ボランティアしたい市民が情報を得やすくするには
- ・人材がより活かされるには

参 加：7 団体 8 人

大代地区公民館

教育委員会生涯学習課

子育てサポートセンター

山王地区公民館

社会福祉協議会

西部児童センター

保健福祉部健康長寿課

成 果：・各機関の人材に関する取り組みを共有することができた。各機関で関わっている人材や情報を掛け合わせることで、市民の新たな活動の場につながるような情報交換ができた。

- ・合同ボランティア説明会や情報が 1 ヵ所で見られるような仕組みづくりなど、協力して取り組めそうなアイデアが出た。



1. (2) ボランティア受入やマッチングを行う施設や機関に参加いただいた

(1) まちをともに創る人を増やす事業

2) 多賀城のまちの未来を描くフューチャーセッション事業

目 的	○市民が主体となり、多賀城のまちについて考え、課題を設定し、実現可能な対応策を考える場を重ねることで、考え行動する市民を増やす。
背 景	○令和 5 年度は、「日本一暮らしやすいまち」をテーマに市が開催した、市民と市長の懇談会「Taga 懇～多賀城未来の懇談会～」で出た「暮らしやすいまちの要素」をもとに、参加者同士で実現したいまちの姿を共有し、アイデアを出し合うことで、実現に向けた動きを生み出すことができた。 令和 6 年度は、前年度の参加者のアイデアである、気軽に参加できる対話の場づくりへの伴走支援に取り組みながら、新たなテーマでフューチャーセッションを実施する。既活動者に加え、潜在的活動者や多セクターが参加できる場をつくることで、まちのことを主体的に考え、行動する市民を増やすことにつなげる。
対 象	○既活動者 ○潜在的活動者
成果目標	○まちの課題を設定し、解決するために必要なことを考えることを通して、市民主体の活動が生まれる。(3 件)
成 果	○まちのことを考えるための場づくり、参画する市民を増やすために行動する市民の伴走支援を行うことができた。令和 5 年度実施の多賀城フューチャーセッションで出た、世代を超えて話す機会が少ないという課題を解決しようと、参加者有志で始まった企画の喫茶来は、今年度 3 回実施された。 ○「コミュニティの未来を描く」をテーマに実施した多賀城フューチャーセッションでは、高齢者福祉、障がい者福祉などに関心を持つ新たな参加者の発掘につながった。ゲストのトークやディスカッションから、未来のコミュニティの姿を参加者同士で共有することができた。 ○喫茶来や多賀城フューチャーセッションでは、幅広い年代の参加があり、世代を超えてお互いの意見を認め合いながら話し合う機会となった。
次年度に 向けた課題	○主体的に考え、行動する市民を増やしていくためには、既活動者とも協力し、新たな参加者を発掘しながら、対話の場を継続していく。

実施概況（１）まちをと共に創る人を増やす事業 2）多賀城のまちの未来を描くフューチャーセッション事業

1. 多賀城のまちの未来を描くフューチャーセッション vol.2

○多賀城フューチャーセッションとは

多賀城のまちのよいところや気になるところ、気になるキーワードを持ち寄り、「こうなったらいいな」という未来の姿を描きながら、実現に向けたアイデアを出し合う。参加者同士、多様な意見を聴きあうことで、新たな気づき、アイデア、関係性、取り組みなどを生み出していこうという場。

○テーマ：「コミュニティの未来を描く」

分野や世代を超え地域に開いたコミュニティづくりに取り組むゲストの話聞き、いろいろな人が混ざり合う中で、地域への多様な関わり方を見出し、担い手を増やしていく未来のまちの姿を描きながら、参加者同士で思いをふくらませていく。

日 時：令和 7 年 2 月 9 日（日）14:00～16:00

会 場：T S C 大会議室

ゲスト：福井大輔さん（NPO法人まちあす代表理事）

内 容：①ゲストによるトーク

「荒井まちのわ図書館」「アンダンチ」の取り組みについて紹介

②参加者同士のディスカッション

4～5 人のグループごとに

- ・自己紹介
- ・それぞれの活動に対して「Good（よいところ）」
「Motto（もっとこうしたい方がよいというアドバイス）」を伝え合う。

参 加：17 人/定 員：30 人

成 果：・高齢者福祉、障がい者福祉などに関心のある人の参加が多く、T S C 事業に初めて参加する人もいた。
・ゲストの分野や世代を超えたつながりを作りながら進めている活動の話から、自分たちの団体や自治会等の活動に活かせるポイントを得る機会になった。

2. アイデアを実践する伴走

○駅前に対話の場づくり

令和 5 年度に実施した多賀城フューチャーセッションにおいて、参加者の中から「世代を超えて気軽に話ができる場があったらいいな」という声があがった。参加者から提案があり、他



1. ゲストによるトーク。地域とのつながりづくりで大切にしていることは？などの質問が出た



1. 参加者それぞれの活動に対してテーブルごとにアドバイスを伝え合った

の参加者および、令和5年度に実施した「きっかけのきっかけトーク」参加者の5人で「喫茶来（きっさこ）」を企画・実施した。企画メンバーは、チラシ作成、広報、当日の進行等を担った。必要な備品、飲み物などは持ち寄り、TSCは企画メンバーへの連絡、TSCのウェブ媒体での広報、当日の記録などをサポートした。

（1）喫茶来1回目

1）実施に向けたミーティング

日 時：令和6年4月23日（火）19:00～20:00

会 場：TSC 2階ギャラリー・Zoom

参 加：5人

2）実施

日 時：令和6年5月26日（日）14:00～16:00

会 場：多賀城駅前公園

内 容：・多賀城の未来こうなったらいいな、気になるところをふせんに書き共有

・それぞれの活動の情報交換など

参 加：11人（参加者6人、企画メンバー5人）

成 果：駅前公園を使ってイベントを実施することができた。市民が公園を借りて活動ができることを、通行する人たちにみせることができた。

何をやっているのか気になって声をかけてくれた人がいた。また企画メンバーが知人に声をかけ、それぞれの取り組みの共有の場にもなった。

（2）喫茶来2回目

1）実施に向けたミーティング

日 時：令和6年9月23日（月・祝）10:00～11:00

会 場：TSC 1階情報サロン・Zoom

参 加：4人

2）実施

日 時：令和6年10月13日（日）14:00～16:00

会 場：多賀城駅前公園東屋

内 容：・「防災って何？」を各自ふせんに書く→貼り出す→発表

・防災について話す。備え、共助、情報、復興とは



2. (1)1 企画メンバーと実施に向けてミーティングを実施し、詳細を決めていった



2. (1)2 喫茶来の様子。イスなどはメンバーで持ち寄って実施



2. (1)2 こうなったらいいなを書き出す



2. (1)2 通りかかった人の中には、声をかけてくれた人もいた

など

参 加：9人（参加4人、企画メンバー5人）

成 果：10代～70代までの幅広い年代が参加し、参加者同士が尊重し合う対話の場となった。

仙台市で屋外での対話の場づくりに取り組んでいる人の参加があり、会場づくりのアドバイスをいただいた。

（3）喫茶来3回目

1）実施に向けたミーティング

日 時：令和6年11月12日（火）19:00～20:00

会 場：TSC 情報サロン・Zoom

参 加：2人

2）実施

日 時：令和7年1月26日（日）14:00～16:00

会 場：TSC 第1和室

テーマ：写真でトーク

内 容：参加者が撮影した写真を発表し合うことで、まちの魅力や課題を共有した。

参 加：10人（参加者6人、企画メンバー4人）

成 果：市内のほかに、仙台市、名取市からの参加があった。食品添加物、物の値段、史跡の活用、歴史の伝承、大規模な施設跡地の今後の活用などのテーマで、意見交換や情報交換を行った。参加者からは、「発見があった」「自分とちがう年代の人の話を聞くことができたのがよかった」などの感想があった。

（4）企画メンバーと今年度のふりかえり

日 時：令和7年3月4日（火）19:00～20:00

会 場：TSC 301会議室・Zoom

内 容：・今年度の喫茶来のふりかえり
・今後の実施について

参 加：4人

成 果：年代を超えて対等に話せるおもしろさやお互いに話を聞き合い、安心して話せる場、議論ではなく対話の場をつくることができた。テーマを絞らず幅広い話題を話す場と、テーマを絞って話す場を交互に行



2. (2)2 第2回は会場を東屋に変更して実施



2. (2)2 防災をテーマに話し合ったあとに、防災グッズの紹介も行った



2. (3)2 写真を紹介し、この写真を選んだ理由を共有した



2. (3)2 写真を見て気づいたことを話し合った

うことによって、自分に何ができるのかを考えたり、集まった人で何ができるのかを考える場にもなるのではないかと、との意見から次年度も継続して開催していくことになった。

アンケート集計結果

1. 多賀城のまちの未来を描くフューチャーセッション vol.2 (17件回収/17人参加)

①年代 (人)

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0	4	2	4	2	3	2	0

②住まい (人)

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
12	0	0	0	0	5	0

③講座を何で知ったか ※複数回答可 (人)

T S C P・SNS	チラシ	市広報	市SNS	T S C スタッフ	知人・ 友人	新聞	その他
1	2	2	2	6	2	0	2

※その他 (SNS、ゲストのSNS)

④満足度 (人)

5 (満足)	4	3	2	1 (不満)
10	7	0	0	0

[5]の理由

- ・アンダンチの話が聞けたので。
- ・福井さんのお話は知識になり、グループワークはつながりになりました。
- ・自分の興味のある内容だったから。
- ・とても有意義な時間になりました！

[4]の理由

- ・他テーブルのアイデアも知りたかった。
- ・良かったです。多賀城の事、話出来て良かったです。(皆さんと)
- ・色々な話が聞けて良かった。

⑤イベントに参加して得られたことや感想など (抜粋)

- ・地域に根ざした福祉のあり方について学びました。
- ・他の参加者さんのお話が聞けて嬉しかったです。さらにゆっくり話す時間があれば尚良かったかなと思います。

- ・分野にとらわれない広い視点 分野のかけ合わせに改めて、いい〜〜！と思いました。
- ・多世代のコミュニティのつくり方や事例がとても参考になりました。
- ・何かをしようと思ったら行動を！！
- ・良いメンバーと話せた。
- ・色々な人の話が聞けて楽しかったです。
- ・コミュニケーションの方法（Good・Motto や自己紹介等）を知ることができたのでとても良い学びとなりました。
- ・何かしたいと思っている人がたくさんいること。
- ・色々な方々と話すきっかけになったので良かったです。
- ・すてきなご縁や気づきなど。

⑥今後のフューチャーセッションについて、取り上げてほしいテーマや開催方法など

- ・老人達の集まりを自分達でつくる事。
- ・年寄りを元気にしたい。自分も年寄りだけど。
- ・市内の企業や団体と交流ができる機会があれば良いなと思います。
- ・「喫茶来」の場所とテーマのヒント→地域に足りないことは何？
- ・不登校などについて。

(2) 関わりしるを増やす支援事業 1) 自治会・町内会等の関わりしるを増やす支援事業

目 的	持続可能な地域運営のため、 ○既存の取り組みの棚卸の支援、既存の活動の見直しや新たな取り組み開始の支援を行う。 ○様々な人が関われる地域のあり方を模索していく。
背 景	○令和 4 年度から地域の人が自分の地域の魅力を発信する「地域学」を継続してきた。今年度は市の出前講座にも加えて、地域に愛着をもつ人や地域の活動に関わる人が増えることを目指していく。 ○「防災人ミーティング」や「地域と幼保施設の連携による避難訓練」等、防災をテーマに多セクターのつながりをつくってきた。今年度は、これまでのつながりを整理し、地区の防災機能の強化（＝地域力の強化）を進めていく。 ○活動の休止や縮小などを行っている既存の取り組みの棚卸や既存の活動の見直しを行い、取り組みや活動の実施概要のみに捉われず「目的」を軸に、今後の取り組み開始の支援を行っていく。 ○前年度は、10 年先の未来について考える「みらい自治トーク」を実施した。今年度はさらにテーマを絞って、「未来」のために、実践につながるアイデア出しを行っていく。
対 象	○自治会・町内会の会長、役員等 ○これまで町内会にあまり関わっていなかった人・団体
成果目標	○自治会・町内会、また地区の取り組みに関心のある人たちが情報交換やアイデアを出し合う場を持つ（2 テーマ以上） ○既存の取り組みの棚卸の支援、既存の活動の見直しや新たな取り組みが始まる（1 事例以上） ○住民が自らの地域の魅力を発信する（新たに 1 事例以上） ○自治会・町内会の活動のヒアリングを通して事例の蓄積と情報発信を T S C が行う（情報発信：10 回以上）
成 果	○情報交換やアイデア出しの場 4 テーマ実施。既存活動の見直しについては、1 テーマで実施しているが、取り組みの開始には至っていない。住民が自らの地域の魅力の発信は 1 地区で実施。ブログを通じての情報発信は 13 回実施した。 ○情報交換会では、自治会・町内会以外の市民活動団体などの参加も促し、町内会と団体が知り合う場、協働の可能性を探ることができた。 ○地域学は、町内会と共催で準備から一緒に取り組むことで、地域の人が自ら地域の魅力を発信することのサポートができた。 ○現在、町内会に関わっていない層にアプローチをシフトして実践できた。みらい自治トークでは 30～40 代の子育て層を中心に参加し、地域の未来を考える場を提供した。
次年度に向けた課題	○持続可能な地域運営のためにも、地域を開いていくこと、多様な人や団体、企業などの多セクターが関われる取り組みが必要となってくる。 ○既存の取り組みを継続している中、どのように新しい取り組みを始めたり、新しい人材を発掘していくかが課題となる。

実施概況（2）関わりしるを増やす支援事業 1）自治会・町内会等の関わりしるを増やす支援事業

1. 自治会・町内会の情報交換会・アイデア出しの場

（1）自治会・町内会情報交換会

日 時：令和6年6月22日（日）13:30～15:00

会 場：T S C 301・302 会議室

内 容：テーマごとの情報交換会（テーマ：「集会所って使っているの？」「地域の草刈りどうしてる？」）

参 加：11 地区 17 人（城南・桜木北・高崎・下馬東・八幡沖・下馬南・桜木中・浮島・向山・志引・仙台）

成 果：自治会・町内会以外の人に関わりしるがあるテーマに設定したこともあり、町内会では活動していない人や団体も参加した。草刈りに協力したいという話や外部団体の集会所の活用など踏み込んだ話をすることができた。



1. (1) 自治会・町内会情報交換会

（2）防災人（ぼうさいびと）ミーティング

1）1 回目

日 時：令和6年4月4日（木）18:00～19:30

会 場：T S C 301 会議室

内 容：防災ゲーム「クロスロード」を体験して防災や多様な考えについての理解を深める。

ゲスト：大山真由美さん（わしん倶楽部）

参 加：10 人

成 果：個々の体験談等も交えながら、多様な意見を共有することができた。実際にクロスロードを体験することで、自分の町内会でも開催したいとの話も出た。



1. (2) 1) 防災人ミーティング 1 回目

2）2 回目

日 時：令和7年1月17日（金）18:30～19:30

会 場：T S C 301 会議室

内 容：令和6年度多賀城市総合防災訓練の振り返りと他地区の防災についての情報交換

参 加：9 人

成 果：地区ごとに計画して実施している訓練のため、複数の地区の人が集まって情報交換することで、互いの課題や参考になること、また多賀城の防災についてやってみたいアイデアを共有することができた。



1. (2) 2) 防災人ミーティング 2 回目

3）特別編 マレーシアの防災についての情報交換

日 時：令和6年12月17日（金）18:00～19:00

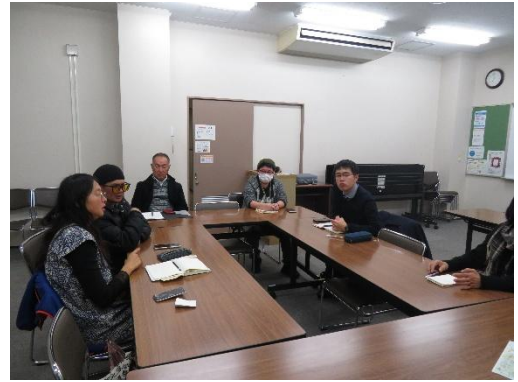
会 場：T S C 301 会議室

内 容：来日しているマレーシア人のハムザさんを交えて東日本大震災当時から復興していくまでの各参加者の経験やマレーシアの防災について情報交換をした。

ゲスト：中鉢典子さん（ともだち・カワン・コミュニティ）
ハムザさん（マレーシアで災害救助活動をしている）

参 加：7人

成 果：マレーシアと多賀城で災害や防災の状況は異なることも多いが、自身の経験を聞かれたり、マレーシアの状況を聞くことで、地域に必要なことを考える場となった。



1. (2)3) 特別編 マレーシアの防災についての情報交換

2. 既存の取り組みの見直しからの新しい取り組みの実践

(1) 多賀城みらい自治トーク「子ども会×地域」

1) 1回目

日 時：令和6年8月30日（金）19:00～20:00

会 場：T S C 101 会議室

内 容：10年後の子ども会についてのアイデアを出し

参 加：8地区9人（黒石崎、下馬南、桜木中、桜木北、八幡下一、八幡沖、志引、他市外）
見学者6人

成 果：各地区の子ども会の現状と課題を共有した。2回目以降、子ども会の課題の解決のアイデア出しを行う土台となった。



2. (1)1) 多賀城みらい自治トーク「子ども会×地域」1回目

2) 2回目

日 時：令和6年10月4日（金）19:00～20:00

会 場：T S C 3階交流サロン

内 容：1回目の子どもの会の現状と課題から、これからの子ども会や子どもと地域の関わり方について考えた。

参 加：7地区8人（黒石崎、下馬南、桜木中、桜木北、八幡下一、八幡沖、他市外）
見学者3人

成 果：自分の思いや立ち位置を整理するためのワークを通して、自分たちが目指す地域と子どもの関わりを実現するためにはどうしたらいいか考える場となった。



2. (1)2) 多賀城みらい自治トーク「子ども会×地域」2回目

3. 住民が自らの地域の魅力を発信する場

(1) 多賀城みんなの地域学 旭ヶ岡の今は昔～海軍工廠・米軍ハウス・東北電力学園・東北学院大学～

1) 展示

日 時：令和 7 年 1 月 20 日(月)～3 月 16 日 (土)

会 場：T S C 3 階交流サロン

対 象：昔の旭ヶ岡や学院大学の跡地に関心のある人など

内 容：米倉末吉さんの絵や昔の写真・資料などの展示

共 催：旭ヶ岡町内会・T S C

2) トークショー

日 時：令和 7 年 2 月 11 日(火・祝)14:00～15:30

会 場：T S C 3 階交流サロン・301・302 会議室

対 象：昔の旭ヶ岡や学院大学の跡地に関心のある人など

内 容：1) の展示に関する解説、昔の旭ヶ岡を知っている
4 人のインタビュー動画の鑑賞、参加者同士のテーブルトーク

参 加：50 人

共 催：旭ヶ岡町内会・T S C

成 果：多賀城の人を中心に大勢の人が参加した。トークショーを通じて、あらためて自分の地域の良さを認識したり、また市外の人も自分の地域に目を向けるきっかけとなった。

3) インタビュー動画撮影

昔の旭ヶ岡の様子を知る人のインタビュー動画を撮影し、トークショーの当日に鑑賞した。完成版は T S C の YouTube で公開した。(動画の作成は情報発信事業と共同で実施。)

①米倉末吉さん

日 時：令和 6 年 12 月 12 日(木)13:30～15:30

聞き手：奥村志都佳さん (N P O 法人 20 世紀アーカイブ仙台)

内 容：戦前～戦後の旭ヶ岡や多賀城の様子について

②武田亨さん

日 時：令和 7 年 1 月 14(火) 13:30～14:30

内 容：東北電力学園の教員として働いていた様子について

③富田貞則さん

日 時：令和 7 年 1 月 14(火) 14:30～15:00



3. (1)1)多賀城みんなの地域学 展示



3. (1)2)多賀城みんなの地域学 展示の解説トーク (3 階交流サロン)



3. (1)2)多賀城みんなの地域学 テーブルトーク (301・302 会議室)

内 容：昔の旭ヶ岡を調べて町内会新聞で発信を続けている
ことについて

④畑中和利さん

日 時：令和 7 年 1 月 28 日(火) 13:00～14:00

聞き手：奥村志都佳さん（NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙
台）

内 容：中学生の頃、接収された元米軍ハウスに住んでい
た様子について

⑤早坂良一郎さん

日 時：令和 7 年 1 月 28 日(火) 15:00～15:30

内 容：父親が海軍工廠で働いた後、米軍のコックとして働
いていた様子について

⑥ナレーション録音

日 時：令和 7 年 3 月 8 日(土) 10:00～11:00

ナレーション：阿部登代子さん（多賀城民話の会）

内 容：YouTube で公開にするにあたり、トークショーに参
加していない人にも、内容が伝わるように、ナレー
ションの録音をした。

4. 町内会活動のヒアリング、情報の蓄積と情報発信事業

（1）自治会・町内会ヒアリング/相談対応

日 時：通年

内 容：地域の防災訓練を主テーマに町内会にヒアリングを行
った。

取 材：新田一・二区、南宮、城南、山王、西能ヶ田、多賀城
小学校、他

成 果：地域の防災訓練を中心に取材した内容をブログで発信
することで、地域の特徴や他地域が参考になることな
ど伝えることができた。

（2）自治会・町内会の取り組み発信（ブログ）

1）ブログ発信

1	令和 6 年 4/15（月）	こんなときどうする？防災ゲーム「ク ロスロード」
2	6/25（火）	町内会の「草刈り」「集会所活用」どう していますか？
3	9/3（火）	みらい自治トーク「子ども会×町内 会」の作戦会議を開催！

4	10/11（金）	多賀城みらい自治トーク「子ども会×町内会②」開催レポート
5	11/14（木）	高橋地区初、保育園 2 園の合同避難訓練レポート
6	11/18（月）	市の総合防災訓練取材レポート①「新田一区二区町内会・南宮自治会」
7	11/27（水）	【鶴ヶ谷地区】認定こども園つむぎ野の地域連携 訓練レポート
8	12/13（金）	多賀城市防災訓練レポート 城南自治会 垂直避難を想定した訓練
9	12/14（土）	市の総合防災訓練取材レポート「多賀城小学校・西能ヶ田町内会」
10	12/23（月）	山王自治会 子どもたちとつくる避難所訓練レポート
11	令和 7 年 2/7（金）	未来へとつなぐ・つなげる忘災フェア
12	2/16（日）	防災人ミーティング「おしえてみんなの防災訓練」レポート
13	2/24（月）	多賀城みんなの地域学 旭ヶ岡の今は昔～見て、聞いて、話して。トークショーレポート

5. 幼保施設と地域の避難訓練

○（１）～（３）共通

◇進め方

①ルートの確認・地域との情報交換：

- ・地域の人と東日本大震災時の状況や浸水地域などの情報の共有や避難ルートの相談などの情報交換

※ＴＳＣは地域とのつなぎの部分为重点的に協力

↓

②避難訓練本番：地域や企業と連携した避難訓練を実施

◇主 催：避難訓練実施の各幼保施設

◇協 力：一般社団法人 Bird’ s-eye、地域の郵便局長、多賀城市危機管理課、ＴＳＣ

（１）八幡保育所・鈴の花保育園・多賀城コアラ保育園

①ルートの確認・地域との情報交換

日 時：令和 6 年 6 月 11 日（火）13:30～15:00

会 場：八幡公民館

参 加：19 団体 29 人（T S C 2 人含む）

八幡保育所、鈴の花保育園、多賀城コアラ保育園、
八幡上一町内会、八幡上二区町内会、八幡下一町
内会、八幡下二町内会、多賀城市社会福祉協議会、
多賀城市中央地域包括支援センター、有限会社津
田工務店、有限会社加藤鉄工所、パチンコひまわ
り多賀城店、癒志の里、防災人、地域の郵便局長
（多賀城・明月）、一般社団法人 Bird' s-eye、危
機管理課、T S C

②避難訓練当日

日 時：令和 6 年 6 月 28 日（金）10:00～11:30

ルート：各保育園～国道 45 号線～末の松山へ避難

参 加：27 団体 41 人（T S C 2 人含む）

八幡上一町内会、八幡上二町内会、八幡下一町内
会、八幡下二町内会、沖区振興会、多賀城市社会
福祉協議会、アースサポート株式会社、多賀城市
中央地域包括支援センター、パチンコひまわり多
賀城店、癒志の里、みんなで食べよう会、伝上山、
防災人、地域の郵便局長（多賀城・大代・下馬・
明月・大郷・利府）、子ども政策課、地域コミュニ
ティ課、一般社団法人 Bird' s-eye、危機管理課、
T S C

（幼保施設関係者除く）

（2） 認定こども園つむぎ野（鶴ヶ谷）

①ルートの確認・地域との情報交換

日 時：令和 6 年 9 月 12 日（木）9:30～11:00

会 場：認定こども園つむぎ野

参 加：15 団体 20 人（T S C 2 人含む）

認定こども園つむぎ野、鶴ヶ谷親和会、天真小学
校、多賀城中学校、宮城県貞山高等学校、鶴ヶ谷
児童館、N P O 法人多賀城市民スポーツクラブ、
東北電力ネットワーク株式会社塩釜電力センタ
ー、多賀城市家庭教育支援チームあんだんて、カ
ハデルフゲテフォトスタジオ、地区の郵便局長（下
馬）、一般社団法人 Bird' s-eye、危機管理課、T
S C



5. (1)①八幡保育所・鈴の花保育園・多賀城コ
アラ保育園 ルートの確認・地域との情報交
換



5. (1)②八幡保育所・鈴の花保育園・多賀城コ
アラ保育園 避難訓練当日



5. (2)①認定こども園つむぎ野（鶴ヶ谷）ルー
トの確認・地域との情報交換

②避難訓練当日

日 時：令和6年10月10日（木）10:00～11:30

ルート：つむぎ野・各施設～天真小学校へ避難

参 加：16団体 約50人（TSC2人含む）

鶴ヶ谷親和会、多賀城中学校、宮城県貞山高等学校、鶴ヶ谷児童館、NPO法人多賀城市民スポーツクラブ、東北電力ネットワーク塩釜電力センター、多賀城市家庭教育支援チームあんだんて、カハデルフゲテフォトスタジオ、東部地域包括支援センター、地区の郵便局長（多賀城、下馬、高橋、明月）、一般社団法人Bird's-eye、危機管理課、TSC

（3）多賀城はるかぜ保育園・もりのなかま保育園多賀城高橋園

①地域との情報交換

日 時：令和6年9月20日（金）13:30～15:00

会 場：高橋生活センター

参 加：14団体 22人（TSC2人含む）

多賀城はるかぜ保育園、もりのなかま保育園多賀城高橋園、高橋東二区町内会、西部児童センター、西部地域包括支援センター、ツルハドラッグ多賀城店、蔵八ラーメン亭多賀城高橋店、フラワーファーム四季彩、防災人、山王小学校、地域の郵便局長（多賀城）、一般社団法人Bird's-eye、危機管理課、TSC

②ルートの確認

日 時：令和6年9月30日（金）13:30～15:00

参 加：8団体 13人（TSC1人含む）

多賀城はるかぜ保育園、もりのなかま保育園多賀城高橋園、地域の郵便局長（多賀城、下馬、高橋）、施設整備課、一般社団法人Bird's-eye、危機管理課、TSC

③避難訓練当日

日 時：令和6年10月15日（火）9:30～11:30

ルート：各保育園～山王小学校へ避難

参 加：21団体 24人（TSC2人含む）

西部児童センター、平禄寿司多賀城西店、蔵八ラーメン亭多賀城高橋店、防災人、てんでん宮城、多賀城市社会福祉協議会、地域の郵便局長（高橋、



5. (2)②認定こども園つむぎ野（鶴ヶ谷）避難訓練当日



5. (3)①多賀城はるかぜ保育園・もりのなかま保育園多賀城高橋園 地域との情報交換



5. (3)③多賀城はるかぜ保育園・もりのなかま保育園多賀城高橋園 避難訓練当日

下馬、大代、浦戸、汐見台、多賀城、明月、東玉川、松島海岸)、地域コミュニティ課、一般社団法人 Bird's-eye、危機管理課、T S C (幼保施設関係者除く) 成 果：地域の協力者と共に訓練をすることでこれまでの避難ルートを見直すきっかけとなった園もある。 また、今年度 2 年目の認定こども園つむぎ野では地域との協力関係が整理され防災力の強化が進んだ。	
---	--

アンケート集計結果

1 (1) 「自治会・町内会情報交換会」(17 件回収／17 人参加)

①年代 (人)

20 代以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
1	0	4	2	5	4	1

②住まい (人)

浮島	城南	高崎	志引	向山	下馬東	下馬南	桜木中	桜木北
1	1	2	1	1	1	3	1	2
八幡沖	仙台							
2	2							

③何で知ったか (複数回答可) (人)

チラシ	多賀城NOW	T S C スタッフ	知人・友人	その他
4	2	8	3	2

・ Facebook

・ S N S

④満足度 (人)

5 (満足)	4	3	2	1 (不満)
10	6	1	0	0

(抜粋)

「5」を選んだ理由

- ・他地区での話が参考になった。
- ・各町内会の詳しい事例、現状を知ることができた。
- ・地域によって様々な課題があることを知ることができた。

⑤他の参加者の話から参考になったこと (抜粋)

- ・集会所の利用活用方法 利用促進策。

- ・草刈り、公園、花壇の清掃はどのようにやっているか。集会所の使用目的を知ることができた。
- ・町内会の清掃活動の参加者が多かったことが大変興味深かった。
- ・公園の管理の在り方を考えさせられた。
- ・草刈り→高齢化問題や住民の意識の変化の共有。
- ・子どもの利用が増えるように、他活動や団体とつなげてきっかけを作れるかなど。
- ・集会所の使用度の多いこと 草刈りはどこも困っている。
- ・地区ごとに違う問題が多々あるものだと認識した。

⑥感想や今後情報交換したいテーマなど（抜粋）

- ・防災訓練
- ・セキュリティ対策 情報共有の方法 子ども食堂
- ・地区住民参加型のイベント（祭り等）開催方法等

1（2）1）防災人ミーティング 1 回目（10 件回収／10 人参加）

1. クロスロードや本日の感想など（抜粋）

- ・判断基準が違う場面を取り入れることで、色々と考え、また他人の意見を聴くことができてよかった。
- ・ゲームという手法で、深い問題を争いにならず、議論することが出来ました。
- ・防災に限らず、応用できると思いました。
- ・次回は対策を考えるとところまでやりたい、と思うくらい奥深いゲームでした。
- ・どんなゲームなのか期待していたのですが、期待以上に面白く、場の盛り上がりがあったと思う！
- ・多種多様な考え方や気づきがありました。

2. 自身のまわりで、クロスロードを実施する場合、誰を対象に実施してみたいか？（抜粋）

- ・町内会・子ども会
- ・女性の視線で
- ・実施してみたいと思う！まずは良く理解してから身近な人へ！
- ・地域、学校 対象者は子どもから高齢者まで

3. 今後、防災に関することで、防災人ミーティングや多賀城で実践してみたいことなど（抜粋）

- ・防災訓練の一部に取り入れ、市民の防災意識を高めてみたらどうか。
- ・もっと若い人たちが参加できるようになると更に良いと思う。
- ・防災メシ調査
- ・またクロスロードを行ってみたい。
- ・避難所の運営の方法について。
- ・避難所 ワークショップ

1（2）2）防災人ミーティング 2 回目（9 件回収／9 人参加）

①年代（人）

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上	未記入
0	2	0	1	1	2	3	0	0

②住まい（人）

山王	城南	東田中南	新田中	旭ヶ岡	笠神	桜木北	その他
1	2	1	1	1	1	1	1

③何で知ったか（複数回答可）（人）

HP・ブログ・X	市SNS	TSCスタッフ	お誘い	その他
3	0	4	1	2

④満足度（人）

5（満足）	4	3	2	1（不満）
4	5	0	0	0

「5」を選んだ理由

- ・ 今後に活かせる貴重な意見がたくさん出たため。

「4」を選んだ理由

- ・ 日頃聞けない地区の方の正直な声を聞くことができた。

⑤参考になったこと、アイデアなど（抜粋）

- ・ もっと他の地区の訓練、学校の連携情報を知りたい。
- ・ 10～20 人程度の少人数のミーティングが良い。
- ・ 情報伝達（LINE）をすでに実施している自治会のお話が参考になった。
- ・ 学校と地域の連携。
- ・ 地域と学校と市役所の連携が思ったよりも取れていないことにびっくり。
- ・ 訓練への参加率を上げる工夫が必要ですね。
- ・ 防災人参加者からの意見は役立つことばかりでとても実践的だと思いました。
- ・ 防災展示会が必要と思う。

⑥今後防災人ミーティングや多賀城でやってみたいこと、話したいテーマなど

- ・ 自分の地区での実践
- ・ 防災意識向上策
- ・ 地域における防災教育のあり方
- ・ 3.11 の語り部活動
- ・ 防災展の開催
- ・ 防災人参加者と学校、自治会とで交流して、意見交流して、意見交流するのもおもしろいと思います。

2（1）1）多賀城みらい自治トーク①（10 件回収／15 人参加）

①年代（人）

30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
1	6	1	1	1

②住まい（人）

多賀城	塩竈	仙台	利府
6	1	1	1

③何で知ったか（人）

チラシ	T S C スタッフ	知人・友人	ネット	SNS
1	4	1	1	1

④満足度（人）

5（満足）	4	3	2	1（不満）
6	4	0	0	0

（抜粋）

「5」を選んだ理由

- ・他の子ども会の話を知ったから。
- ・リアルな現状と課題が見えた。

「4」を選んだ理由

- ・沢山の意見が伺えて良かったです。みなさんもっとしゃべりたかったかも。

⑤感想や意見（抜粋）

- ・子ども会がなくなって、「子ども部会」を町内会で活動するというご意見役に立たせて頂けそうです。
- ・コロナがあってさらに問題が加速したように感じました。
- ・難しい課題ですが、子どもたちのためにスタイル（型）を変えながら話し合って“ヒント”になる“気づき”を得ていきたいと思いました。
- ・機能（趣旨・目的）と制度を切り分けて考えれば活路が開けると感じました。

2（1）2）多賀城みらい自治トーク②（8件回収／8人参加）

①何で知ったか（人）

HP・ブログ・X	市SNS	T S C スタッフ	お誘い	その他
1	1	4	0	2

②満足度（人）

5（満足）	4	3	2	1（不満）
5	2	1	0	0

③今回の話し合いの感想や意見など

- ・子ども会、町内会反対派と話したい。
- ・こどものための話をもう少しできたらいいと思いました。
- ・この話し合いから子どもたちに様々な経験ができるようなモノが形になったらいいなと感じます。
- ・停滞地域でもやり方はあるように思いました。

④次回のみらい自治トークで、「〇〇の課題についての深掘りをしたい」「こんな取り組みをしている地区の事例を知りたい」など。

- ・他のこども会でやっているたのしい行事。
- ・SNS（ICT）などを活用し運営に活用している事例。

3. (1) 「多賀城みんなの地域学Ⅳ 旭ヶ岡の今は昔」(29 件回収／50 人参加)

①年代 (人)

20 代以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
0	2	0	5	8	10	4

②住まい (人)

新田	山王	城南	高崎	東田中	旭ヶ岡	中央	大代
1	1	1	2	2	5	5	1
桜木	八幡	塩竈	利府	七ヶ浜	仙台		
2	1	3	1	1	3		

③何で知ったか(複数回答可) (人)

多賀城NOW	T S C スタッフ	チラシ	知人・友人	新聞
8	6	6	4	4
HP	SNS			
3	1			

④満足度 (人)

5 (満足)	4	3	2	1 (不満)
20	8	1	0	0

(抜粋)

「5」を選んだ理由

- ・大変貴重なお話を様々な方からうかがえて充実した時間でした。
- ・みなさんと共有できるお話ができ、自分自身にフィードバックして感じ考えられた。
- ・知らないことをたくさん知れ、思い出もたくさんあり楽しかったです。
- ・昔語りとお話と動画鑑賞と短い時間でいろいろしていただいて全くあきませんでした。
- ・旭ヶ岡地区の事が初めてわかりました。

「4」を選んだ理由

- ・なかなか日常に聞けない事が聞くことができて良かったです。
- ・本ではわからない地元の人の話が聞けたから。

⑤旭ヶ岡地区、多賀城の昔で知っていることや思い出など (抜粋)

- ・学院大多賀城キャンパスの中の植え込み、雑木林が懐かしいです。
- ・初めて多賀城に来た 35 年前は、人が少ないなと思った。
- ・幼少期の遊び場であり、道路を渡り旭ヶ岡に行くと外国に行った気分になりました。
- ・昭和 31 年頃、仙台市の中学生の頃、1 日だけ米軍アメリカンスクールの女子生徒とソフトボール試合をした。私は選手ではなく応援団だった。フェンスに囲まれた芝生の中の道をゆるゆる登りグラウンドに着き応援しました。途中水着を着た男子、女子の子供が来たので「海に行ったのか?」と聞くと「プールだ」との答え。70 年

以上前の明るい夏のたった 1 日の思い出です。

- ・ 白い住宅、レストラン館
- ・ 官舎に住んでいました。ボロでしたが今となっては思い出です。
- ・ セツ浜の笠石（笠岩堂）の昔話と同じ話が多賀城にあることを紹介してもらってよかった。
- ・ S57 年頃東北電力科学技術高校に剣道の練習試合に来ました。
- ・ 多賀城に住んでいた時、お友達がたくさん出来て楽しく過ごさせていただきました。
- ・ 主人の仕事の関係で引っ越しましたが今も友好関係は続いています。
- ・ 亡くなった母も蒲生から歩いて海軍工廠で働いていたと聞いています。

⑥感想や意見（抜粋）

- ・ こうして集まった話題が記録されアーカイブされていく企画、素晴らしいです！
- ・ 語り継がれる昔話がただの伝承ではなく、当時の生活感とマッチしていて興味深かった。
- ・ 米倉さんの記憶力すごい。
- ・ 初めて多賀城のこのようなイベントに参加しました。勉強になりました。面白かったです。
- ・ 50 年近く住んでいるがわからないことがたくさん、おもしろかった。
- ・ 実際に地域のお住まいの方からお話をうかがえて、当時の暮らしや現在との違いを具体的にイメージすることができました。
- ・ ご町内の方が多く、とてもアットホームで、地元愛、思い出の一体感があり、とても面白く拝聴させていただきました。
- ・ 今回いろいろなお話を聞き、自分なりに他の事も調べて知りたくなりました。
- ・ ルーツをたどる旅も楽しくなりそうです、ありがとうございました。
- ・ テーブルトークの時間がもっとあった方が良かった。
- ・ 地元力を感じる方がいてうらやましく感じました。
- ・ 写真がなくても、記憶の思い出の絵があるんですね。
- ・ グループトークは初対面の人は苦手なので迷いましたが、思いがけず楽しく参加できました。
- ・ 住んで 30 年くらいになりますが、知らないことが多く皆さんの昔のお話大変興味深く良かったです。
- ・ たいへん興味深くおもしろかった ずっと多賀城だけど知らないことがたくさんあると思いました。
- ・ 素晴らしい絵等々 4 人のトークも良かったです。

■全体の事業を通じて参加いただいた市内の自治会・町内会（24 カ所／全 46 カ所） ※個人、他事業との連携も含む

【東部】	1. 鶴ヶ谷親和会 2. 黒石崎町内会 3. 下馬東自治会 4. 下馬南自治会 5. 桜木北区町内会 6. 桜木中区町内会
【中央】	7. 八幡上一町内会 8. 八幡上二町内会 9. 八幡下一町内会 10. 八幡下二町内会 11. 沖区振興会 12. 東田中南自治会 13. 志引町内会 14. 旭ヶ岡町内会 15. 高崎自治会 16. 西能ヶ田町内会 17. 向山町内会
【西部】	18. 高橋東二区町内会 19. 城南自治会 20. 浮島地区自治会 21. 新田一区町内会 22. 新田二区町内会 23. 南宮自治会 24. 山王自治会

(3) 新たな地域の担い手発掘・育成事業 1) 新しい人材活動支援事業

目 的	○学生を中心に活動に触れる機会を提供し、課題に目を向ける市民を増やす。 ○意欲ある若い世代が思いを話し合う場を設けアクションを起こす新しい人を増やす。
背 景	○直近の市まちづくりアンケートから、市内には一定数の潜在的活動者がいると考えられる。潜在的活動者を中心に、活動を応援する市民、参加する市民の増加を目指す。 ○令和5年度は、中高生に団体やボランティアに関する情報の提供、コーディネートを行った。今後アクションを起こす意欲のある人材の発掘や、参加者のNPOや団体への理解を深めアクションを起こすきっかけを作ることができた。今年度は、学生や発掘した人材を中心に、自ら考えアクションを起こす場の創出を目指す。
対 象	○中高大学生を中心とした未来を担う世代。 ○市民活動やボランティア活動に関心があり「地域で何か活動したい」と考える市民。 ○市民活動に触れたことがない方、何かしたい、役に立ちたいと思っている市民。
成果目標	○いちから塾後、受講者8割以上の、市民活動やボランティアへの興味・関心が高まる。 ○いちから塾後、受講者2人以上が市民活動またはボランティア活動に参加する。 ○次世代を対象にした事業の参加者3割以上が、アクションを起こすことや市民活動・地域活動への参加に意欲的になり、今後も関わりたいと思う。
成 果	○いちから塾後のアンケートでは「講座を通して市民活動等への関心が高まったか」という質問（5段階評価）に32人中30人（9割以上）が「5」または「4」と回答。講座後のヒアリングではボランティアに参加した、新しい市民活動に取り組み始めた、取り組んでいた活動がさらに発展した人が3人いた。 ○Tagajo Youth Challenge 部実施後のアンケートでは「講座を通して市民活動等への関心が高まったか」という質問（5段階評価）に10人中10人が「5」または「4」と回答。第3回終了後には6人がアイデアの実現に向けて取り組み始め、内2人が実践に至った。 ○アイデア実践ゼミ後のアンケートでは「講座を通して企画の実現は近づいたか」という質問（自由記述）に5人中4人が近づいたと回答。残り1人から企画の目的が明確になったと回答があった。 ○雑貨市に合計で33人のボランティアが参加。うち14人は学生ボランティア（全体の7割）。雑貨市ボランティアに参加する前にいちから塾を開催し、例年以上に学びのある活動になったことでボランティア全体の満足度が非常に高く、今後もボランティアに参加したいというきっかけをつくることができた。
次年度に 向けた課題	○地域への興味や愛着、実践意欲を持つ若い世代の発掘が進み、自らの力で企画を実現させる段階までもう一步のところに来ている。地域活動に自ら参加する若い世代を増やしていくためには、地域で行われている活動や、身の回りにある課題を見つけることができる人材の発掘、育成が課題となる。

実施概況（3）新たな地域の担い手発掘・育成事業 1）新しい人材活動支援事業

1. NPOいちから塾

（1）NPOいちから塾

日 時：令和6年5月25日（土）14:00～15:30

会 場：TSC 301 会議室

対 象：NPOに関心のある人

これから市民活動を始めようと思っている人

講 師：スタッフ小林

ガイド：スタッフ伊藤

内 容：NPO基礎講座とTSC館内ガイドツアー、市民活動のチラシを探してみるワーク。

参 加：6人

成 果：市民活動や地域活動に関心を抱く機会、TSCの機能を知ってもらった機会となった。講座後、ボランティアをしたい参加者から相談もあった。

（2）NPOいちから塾 ～子ども×地域 つながる想い編～

日 時：令和6年10月18日（金）18:45～20:00

会 場：TSC 301 会議室

対 象：NPOやテーマの活動に関心のある人

テーマの活動にこれから参加しようと思っている人

ゲスト：遠藤康浩さん（シンフォニーダイニング花立）

講 師：スタッフ金子

内 容：NPO基礎講座と、「子ども×地域 つながる想い」をテーマにしたゲスト講話。

参 加：9人

成 果：ゲストの活動、活動を始めたいきっかけや想いを知った参加者の中から、講座後ゲストに話を聞きにいく人やボランティアとして活動に参加しようとする人、講座テーマの分野で活動を始める参加者など、新たに動き出すきっかけをつくることができた。

2. Tagajo Youth Challenge 部（TYC部）

日 時：令和6年8月～11月の期間中に3回開催

（詳細の日時は下記参照）

会 場：TSC、塩竈市

対 象：「地域で何か活動したい」と思う10代～20代

講座アドバイザー：鈴木亜里紗さん



1. (1) 講座の様子



1. (1) ワークの様子



1. (2) ゲストから活動や想いについて聞いた



1. (2) 参加者からの質問も多数あがった

内 容：活動を始めるきっかけとなるよう、活動者の話やフィールドワークを通して、同世代の参加者と一緒に地域でやってみたいことを考える3回連続講座。講座内で考えた実践したいアイデアの実現も支援する。

(1) 第1回

日 時：令和6年8月18日（日）13:00～16:00

会 場：T S C 302 会議室

内 容：アドバイザーの鈴木さんから学生時代の活動について話を聞き、マインドマップを使ったワークと、地域でやってみたいアイデアを自由に話し合うワークを実施。

参 加：6人

成 果：マインドマップや自由なアイデア出しを通して、参加者の、多賀城やそれぞれつながりのあるまちへの想いを深掘りすることができた。

(2) 第2回

日 時：令和6年9月23日（月・祝）13:30～16:00

会 場：スプリングワークス（塩竈）

ゲスト：釣舟富貴子さん（スプリングワークス）

内 容：自分の好きなことと地域での活動がつながっているゲストから活動と地域愛についての話を聞き、ゲストが実施しているまちあるきを体験。

参 加：3人

成 果：ゲストの視点や地域への想いを知り、参加者が自分の好きなことと地域との関わりを考える機会になった。
また、まちの特徴の捉え方をゲストから学んだことで、一見他のまちと似ていると思っていた場所の面白さに気付く視点を獲得することができた。

(3) 第3回

日 時：令和6年11月10日（日）13:30～16:00

会 場：T S C 301 会議室

内 容：興味のあるテーマが近い人で3つのグループに分かれて、グループごとに実践してみたいアイデアについて話し合い、それぞれのアイデアについて参加者全体で意見交換を実施。



2. (1) 全員でアイデアを話し合い



2. (2) 立ち止まりゲストの解説を聞く参加者



2. (3) 参加者全員での話し合い



2. (3) グループに分かれての話し合い

参 加：6 人

成 果：実践を意識することでより具体的にアイデアを考える
ことができた。異なる年齢、興味の参加者が集まり交
流することで新たな発想も生まれ、各グループの挑戦
してみたいことが少しずつ形になってきた。

(4) 実践に向けた話し合い

日 時：1) 令和 6 年 11 月 25 日 (月) 14:00~17:00

2) 令和 6 年 12 月 15 日 (日) 13:00~15:30

会 場：T S C 3 階フリースペース

内 容：第 3 回で考えたアイデアを元にどんなことをしたいか
グループごとに企画内容を整理。

参 加：1) 2 人

2) 4 人

成 果：各グループ、3 回の講座内で話しきれなかった部分を丁
寧に考えることができた。企画の内容や具体的な進め
方など、講座終了時点よりもそれぞれ内容が具体にな
り実践への意欲が高まった。

(5) 【実践】まちづくりの本を読んでみよう

日 時：令和 7 年 2 月 11 日 (火・祝) 14:00~16:00

会 場：T S C 第 1 和室

対 象：中学生、高校生

内 容：たがさば文庫から自由に選書しその場で読む読書会。
選書理由や読んだ感想の共有も行う。

主 催：T Y C 部受講者

参 加：3 人

成 果：アイデアの段階から本や本を通した交流に興味を持っ
ていたグループの企画の実践。企画を実践に移すこと
で、やりたいことがさらに明確になり、今後のやりた
いこと等も見えてきた。

(6) アイデア実践ゼミ

日 時：令和 7 年 3 月 23 日 (日) 13:00~16:00

会 場：T S C 302 会議室

対 象：T Y C 部受講者または T S C に相談に来ている学生の
うち企画案や構想を持っている人 (中学生~大学生)

ゲスト：大宮紗妃さん (一般社団法人 larugo)



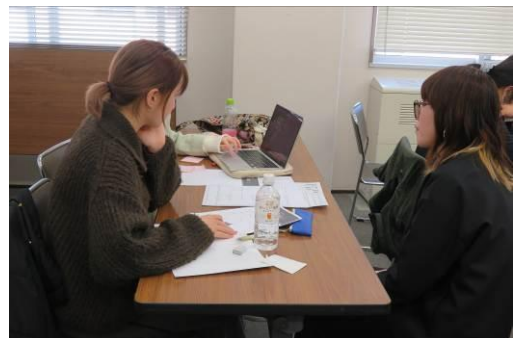
2. (4)1 参加者が集まりアイデアを出し合う



2. (4)2 グループが集まり、意見交換を交えながらそれぞれ内容を具体にした



2. (5) 互いの選書理由を発表



2. (6) 企画についてゲストに相談する様子

内 容：ゲストの活動とゲストが過去に実施した企画の具体的な流れについてのゲスト講話と、参加者それぞれの企画についてゲストに相談しながら企画をより実現可能な内容に高めるためのワークを実施。

参 加：5 人

成 果：ゲスト講話は参加者が企画の組み立て方を知る機会となった。また、工夫するとよくなる点や進める上で注意が必要な点などゲストから参加者それぞれにアドバイスがあり、参加者の企画がより実現に近づいた。



2. (6)参加者同士で企画の目的や内容をプレゼンし合った

3. 学校からの依頼

(1) 宮城県貞山高等学校

1) 総合的な探究の時間「国際交流活動」第 1 回

日 時：令和 6 年 9 月 19 日（木）10:35～11:30

会 場：宮城県貞山高等学校 多目的室

対 象：宮城県貞山高等学校 3・4 年次

ゲスト：大泉貴広さん（公益財団法人宮城県国際交流協会）

内 容：宮城の「多文化」の現状を外国人労働者のことを中心にゲストから話を聞き、理解を深める。

参 加：37 人

2) 総合的な探究の時間「国際交流活動」第 2 回

日 時：令和 6 年 10 月 2 日（水）13:00～13:45

会 場：宮城県貞山高等学校 多目的室

対 象：宮城県貞山高等学校 3 年次

ゲスト：株式会社武蔵野のベトナム人技能実習生 3 人

内 容：3 グループに分かれて生徒と技能実習生が交流を通して、国際理解を体験する。

参 加：32 人

3) 総合的な探究の時間「国際交流活動」第 3 回

日 時：令和 6 年 11 月 13 日（水）13:00～13:45

会 場：宮城県貞山高等学校 多目的室

対 象：宮城県貞山高等学校 4 年次

ゲスト：株式会社武蔵野のベトナム人技能実習生 3 人

内 容：3 グループに分かれて生徒と技能実習生が交流を通して、国際理解を体験する。

参 加：16 人

4) 総合的な探究の時間「地域理解講話」

日 時：令和6年10月9日（水）13:55～14:45

会 場：宮城県貞山高等学校 多目的室

対 象：宮城県貞山高等学校2年次

ゲスト：相澤直さん（一般社団法人Golazo）

講 師：スタッフ金子

内 容：NPO基礎講座と「スポーツで障がいの垣根をなくそう～共生社会の実現を目指して～」をテーマにしたゲスト講話。

参 加：68人

(2) 多賀城市立高崎中学校 総合的な学習の時間

日 時：令和6年9月9日（月）13:15～14:55

会 場：多賀城市立高崎中学校 3学年教室

対 象：3学年4クラス

ゲスト：1) 佐藤広一さん（多賀城視覚障害者福祉協会）

2) 佐藤美奈子さん（NPO法人筋強直性ジストロフィー患者会）

3) 郡司宏貴さん（高崎子ども食堂らっこ広場）

4) 久保田靖朗さん（セブンビーチプロジェクト）

内 容：共生社会・インクルーシブをテーマに、視覚障害・ユニバーサル・フードロス・環境保護の4つの社会課題についてゲストが各クラス10分ずつ話題提供したうえで生徒が探究課題を設定した。

参 加：158人

(3) 宮城県多賀城高等学校 語学研究部 防災についての情報交換（団体からの依頼）

日 時：令和6年12月19日（木）16:40～19:00

会 場：宮城県多賀城高等学校 講義室

対 象：語学研究部、TSUNAMI サミット発表者、災害科学科有志

講 師：中鉢典子さん（ともだち・カワン・コミュニティ）

ハムザさん（マレーシア災害救助プロフェッショナル）

内 容：宮城県多賀城高等学校の生徒がTSUNAMI サミットで発表したプレゼン、災害の授業で学んでいる個人のまとめの発表や防災についての情報交換を実施。

参 加：9人



3. (1)4) ゲストの講和の様子



3. (3) 講師が高校生に説明する様子

成 果：学校からの依頼やつながりで地域に暮らす外国人との交流の機会や市民活動団体から直接話を聞き、地域課題を知る機会を提供することができた。また、団体と学校がつながる機会にもなった。

4.「たがさぼのクリスマス雑貨市」ボランティア

※たがさぼのクリスマス雑貨市、雑貨市集会の詳細については、「市民参画促進事業」の報告書を参照。

(1) 雑貨市ボランティア説明会

日 時：令和6年11月16日（土）13:00～15:00

会 場：T S C 302 会議室

内 容：雑貨市当日の活動についての説明と雑貨市集会への参加。また、雑貨市の趣旨やボランティア活動、市民活動について説明するNPOいちから塾を実施。

参 加：15 人

成 果：NPOいちから塾を通して、ボランティアや市民活動の基礎について知ること、T S Cが雑貨市で目指すところをボランティアと共有することができた。

(2) 雑貨市ボランティア前日準備

日 時：1) 令和6年12月7日（土）10:00～12:00

2) 令和6年12月7日（土）13:30～15:30

会 場：T S C 101 会議室

内 容：全館の会場準備や装飾、パンフレットの準備。また、雑貨市の趣旨やボランティア活動、市民活動について説明するNPOいちから塾を実施。

参 加：22 人

成 果：NPOいちから塾を実施したことで、ボランティアも目的を共有しながら活動に取り組んでもらうことができた。

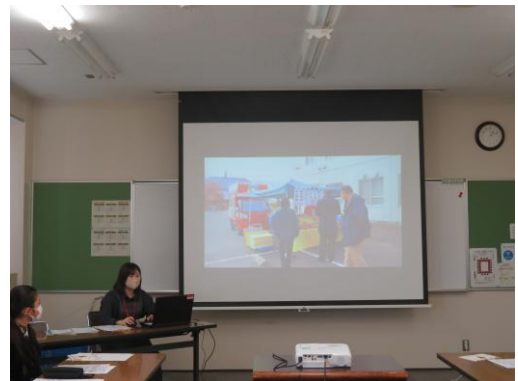
(3) 雑貨市ボランティア当日

日 時：令和6年12月8日（日）8:30～16:00

会 場：T S C 全館

内 容：出店団体のサポートや来場者誘導、駐車場案内担当のボランティア活動を行う。雑貨市終了後にはボランティア全体で活動の振り返りを実施。

参 加：20 人



4. (1) 前年度の様子を写真で紹介



4. (2) ボランティア活動前の講座の様子



4. (2) ボランティアのアイデアで飾り付け



4. (3) ワークショップを手伝うボランティア

成 果：ボランティアが団体や地域の人と交流し、ボランティア活動を通して市民活動や地域活動について知る機会を提供することができた。また、参加者の 7 割が学生ボランティアだったため、学生の地域での活動の機会提供にもなった。



4. (3) 振り返りでは、各自感想を共有

アンケート集計結果

1. NPO いちから塾

(1) NPO いちから塾 (6 件回収/6 人参加)

1) 年代 (人)

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
0	1	0	2	2	0	1	0

2) 住まい (人)

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
4	1	0	0	0	1	0

○仙台市 (青葉区)

3) 講座をどこで知ったか (複数回答可) (人)

T S C の H P ブログ・X	チラシ	市 S N S	T S C スタッフ	友人・知人	その他
0	3	0	3	0	0

○チラシ (open village ノキシタ)

4) 満足度 (5 段階評価) (人)

5 (満足)	4	3	2	1 (不満)
3	4	0	0	0

○「5」を選んだ理由

・たがさぼの知らないことをたくさん知れました！NPO について調べたりしても不安でしたので知れて良かったです。

○「4」を選んだ理由

・NPO の事を知れて、様々な活動に興味のある方に出会えたこと。

5) 市民活動への思いに良い変化はあったか(5段階評価)(人)

5(あった)	4	3	2	1(なかった)
2	3	0	0	0

6) 始めてみたい活動やもっと詳しく知りたいこと(抜粋)

- ・地域猫活動
- ・NPOを始めるときに必要なことや準備など詳しく知りたいです。

7) 講座で学んだことや質問・感想(抜粋)

- ・たがさぼをととても利用しやすいと思い驚きました。
- ・NPOの事をとてもわかりやすく教えて頂き感謝です。
- ・1人で考えているよりも、このような会があると視野が広がり参加して良かったです。

(2) NPOいちから塾〜子ども×地域 つながる想い編〜(9件回収/9人参加)

1) 年代(人)

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0	0	2	4	0	2	1	0

2) 住まい(人)

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
4	4	1	0	0	0	0

3) 講座をどこで知ったか(複数回答可)(人)

TSCのHP ブログ・X	チラシ	市SNS	TSC スタッフ	友人・知人	その他
0	4	0	5	1	0

○チラシ:NPOプラザ(2人)

4) 満足度(5段階評価)(人)

5(満足)	4	3	2	1(不満)
6	2	1	0	0

○「5」を選んだ理由(抜粋)

- ・とても考えさせられましたし、自分自身も始める一歩を踏み出したいと思いました。
- ・たがさぼのスタッフがゲストへの理解度が高く、補足なども良かった。
- ・実際に活動されている内容がわかり、自分の課題や悩み等、共通することがあり良かった。

○「4」を選んだ理由

- ・子どもに対するみんなの熱意に共感できたので良かったです。

○「3」を選んだ理由

- ・もう少し具体的な話が聞きたいと思いました。スタッフ同士のコミュニケーションや子どもたちとどんな会話

をするかなど。

5) 市民活動への思いに良い変化はあったか (5 段階評価) (人)

5 (あった)	4	3	2	1 (なかった)
5	3	0	0	0

○無記入 1 人

6) 始めてみたい活動やもっと詳しく知りたいこと

- ・カウンセラーを始めます。詳しく知りたいことは子どもの心のケアについて。
- ・子どもが日常的に自由に遊べる環境づくり
- ・地域の食材を知る、活動、食について

7) 講座で学んだことや質問・感想

- ・NPOの意味から、活動の現実的なノウハウまで、勉強になりました。
- ・「ここ」でやることに意味があるという活動なのだ、というのを強く感じました。モチベーションの高さもそこにあるのだなあと。「やる理由」大事です。
- ・子どもが体験出来るところ、自分も何か出来ることからやってみようと思えました。

2. Tagajo Youth Challenge 部

(1) 第 1 回 (6 件回収/6 人参加)

1) 年代 (人)

10 代以下	20 代
1	5

2) 住まい (人)

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
2	0	0	0	0	3	1

○仙台市 (太白区 2 人、青葉区)

○その他 (富谷市)

3) 講座をどこで知ったか (複数回答可) (人)

TSC の HP ブログ・X	チラシ	市 SNS	TSC スタッフ	友人・知人	その他
0	0	0	2	3	1

○その他 (Taga 懇でのお願い)

4) 満足度 (5 段階評価) (人)

5 (満足)	4	3	2	1 (不満)
6	0	0	0	0

○「5」を選んだ理由（抜粋）

- ・自分が思いつかなかった考え、意見、視点を手に入れることができたため。
- ・実現可能性を考えないブレストが新鮮で楽しかった。
- ・お話の中での価値観が非常に面白かった。

5) 市民活動への思いに良い変化はあったか（5段階評価）（人）

5（あった）	4	3	2	1（なかった）
5	1	0	0	0

6) 始めてみたい活動やもっと詳しく知りたいこと（抜粋）

- ・1300年の歴史を活かした活動。今回出てきた意見の活動。
- ・まちをミクロな視点で見ることがないため、まち歩きをしてみたい。
- ・まちあるき、食べ歩き、多賀城の歴史

7) 講座で学んだことや質問・感想（抜粋）

- ・他の参加者の方とお話でき、多賀城のことをしることができて楽しかったです。ありがとうございました。
- ・課題点を探す話し合いが苦手だったため、より素直に思ったことを口にする重要性を学んだ。
- ・自分の中のマインドマップを通して、言語化できたのがとてもよかった。

(2) 第2回（3件回収/3人参加）

1) 年代（人）

10代以下	20代
2	1

2) 住まい（人）

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
2	0	0	0	0	1	0

○仙台市（太白区1人）

3) 講座をどこで知ったか（複数回答可）（人）

TSCのHP ブログ・X	チラシ	市SNS	TSC スタッフ	友人・知人	その他
0	0	0	0	3	0

4) 満足度（5段階評価）（人）

5（満足）	4	3	2	1（不満）
3	0	0	0	0

○「5」を選んだ理由

- ・実際に塩釜のまちを歩いて、まちの雰囲気を体感できたため。
- ・“まちあるき”だけではなく、どんな視点を持ってみればいいのか話し合えたから。

- ・自分の知らないことがたくさん知れた。

5) 市民活動への思いに良い変化はあったか(5段階評価)(人)

5(あった)	4	3	2	1(なかった)
3	0	0	0	0

6) 始めてみたい活動やもっと詳しく知りたいこと

- ・まち歩きイベントをやってみたい。参加してみたいです。地層をみること。
- ・RPG ボードゲームをつくってみたいと思いました。ジオラマみたいな美術作品も、まずは部単位でやってみたいと思いました。
- ・地域×観光のイベント

7) 講座で学んだことや質問・感想

- ・写真を見たりするよりも実際に体感することの楽しさ、面白さを感じました。釣舟さんのお話や虫の知識を聞くこともでき、今回出会えて良かったです。ありがとうございました。
- ・まち歩きのいろいろな視点を知ることができて楽しかったです。自分の住んでいる地域を見直したいと思いました。
- ・釣舟さんの地元愛がとても伝わってきた。

(3) 第3回(6人回収/6人参加) ※1)~3)は初参加のみ、4)~8)は全員回答

1) 年代(人)

10代以下	20代
3	0

2) 住まい(人)

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
2	0	0	0	0	1	0

○仙台市(宮城野区1人)

3) 講座をどこで知ったか(複数回答可)(人)

TSCのHP ブログ・X	チラシ	市SNS	TSC スタッフ	友人・知人	その他
0	0	0	1	2	0

4) 満足度(5段階評価)(人)

5(満足)	4	3	2	1(不満)
6	0	0	0	0

○「5」を選んだ理由(抜粋)

- ・地域創生に興味のある人、経験のある人が集まって話し合うのが楽しかった。
- ・実現できそうでワクワクした。

- ・普段話さない人、テーマで話せて楽しかったから。

5) 市民活動への思いに良い変化はあったか (5段階評価) (人)

5 (あった)	4	3	2	1 (なかった)
5	1	0	0	0

6) 始めてみたい活動やもっと詳しく知りたいこと (抜粋)

- ・私が高校で学んだアートを活かしつつ、地域のために活動したい。
- ・地元の発信、異文化交流
- ・絵本をつくるイベントをして、多賀城のことを親子に知ってもらおう。

7) 講座で学んだことや質問・感想 (抜粋)

- ・自分の考えやアイデアを表現するのがみんなうまいと思った。
- ・実現性にクローズアップして、アイデアを考えるのがとても楽しかった。
- ・他の人の考えや意見を聞いて、自分の視野がさらに広がりました。ありがとうございました！

(6) アイデア実践ゼミ (4件回収/4人参加)

1) 満足度 (5段階評価) (人)

5 (満足)	4	3	2	1 (不満)
4	1	0	0	0

○「5」を選んだ理由 (抜粋)

- ・他のイベントがどのように企画されていて、どういう思いがあるのかを知ることで違う視点で自分の企画を見られたため。
- ・広報や規模感について深掘りできたのでよかった。他の人の話をきいたらめっちゃやる気になる。
- ・大宮さんのお話を聞く、アドバイスをもらえたから。ワークシートがとてもアイデア整理に役立ったから。

○「4」を選んだ理由

- ・最後アウトプットがあるのがよかった。

2) 講座を通して、企画は実現に近づいたか

- ・より現実的なアドバイスを聞けたり、新しいアイデアも聞けて実現に近づけました。
- ・近づいた (スタッフさん、ゲストさんが話をたくさん聞いてくださった)
- ・めっちゃワクワクしてすごくやる気がでて実現に近づいた気がした。
- ・ワークシートや話しをきく、アドバイスをもらう、みんなの企画をきくことを通して自分たちの企画も形がはっきりし始めたと思う。
- ・目的が明確になった。

3) 質問・感想 (抜粋)

- ・詳しいアドバイスをありがとうございました。参考にしようと思います。
- ・ワーク (書き途中) の段階で他のグループの意見も聞けると楽しい、参考になると思った。
- ・とても楽しかった。

4. 「たがさばのクリスマス雑貨市」ボランティア

(1) 雑貨市ボランティア説明会 (4 件回収/15 人参加)

1) 雑貨市ボランティアへの参加経験 (人)

初めての参加	参加したことがある
3	1

○参加理由

- ・少しでもお役に立ちたいと思ったから。
- ・楽しそうなボランティアだと思ったからです。
- ・クリスマス雑貨市に興味があったから。

○参加回数

- ・4 回目 (1 人)

2) 募集をどこで知ったか (複数回答可) (人)

T S C の H P ・ S N S	市広報	市 S N S	T S C スタ ッフ	学校紹介	知人	その他
0	2	0	0	2	0	0

3) ボランティア活動経験 (人)

活動したことがある	活動したことがない
4	0

○活動したボランティア (抜粋)

- ・ベンチ作りボランティア
- ・ケアフレンド、どんと祭、万葉まつりなど
- ・中学校の学習支援、子ども園での行事の準備、運営

4) 雑貨市の趣旨理解度 (人)

理解できた	理解できなかった	わからない
3	0	1

5) 4) の理由、または雑貨市集会の感想など (抜粋)

- ・普段、関わらない人達と交流ができ、いい経験になりました。
- ・団体紹介プリントと発表の順番が同じだと聞きやすかったかなと思います。
- ・テーマを通してこの雑貨市での目的が分かったから。たくさんの企業さんや人たちが地域を盛り上げるためにいろいろな活動をしていると分かり、地域愛などが伝わってきてすてきだなと思いました。

6) 雑貨市で経験したいことや意気込み (抜粋)

- ・ボランティアも全力でやるのはもちろんのこと、自分もクリスマス雑貨市を全力で楽しみたいと思います。
- ・新しい出店団体さんが多いので楽しみです。休憩タイムにぜひ行ってみたいと思います。
- ・出店側としてフェアトレード商品の魅力や発展途上国のために私たちができることをたくさんの人々に知って

もらいたいです。

7) 年代 (人)

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
2	1	0	0	0	0	1	0

8) 住まい (人)

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
1	1	0	0	0	2	0

(2) 雑貨市ボランティア前日準備 (18件回収/22人参加)

1) 年代 (人)

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
16	0	0	0	0	1	1	0

2) 住所 (人)

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
4	1	0	1	0	11	0

3) 雑貨市ボランティアへの参加経験 (人)

初めての参加	参加したことがある
15	3

○参加回数

- ・参加4回目 (1人)
- ・参加2回目 (2人)

4) ボランティア活動経験 (人)

活動したことがある	活動したことがない
13	5

○活動内容 (抜粋)

- ・閑上復興まつりでの活動
- ・センサリールーム、アートインクルージョン
- ・子ども園での行事のお手伝い、中学校でも学習支援ボランティア、スポーツフェスティバルのボランティア

5) 雑貨市の趣旨理解度 (5段階評価) (人)

5 (分かった)	4	3	2	1 (分からなかった)
16	2	0	0	0

○「5」を選んだ理由 (抜粋)

- ・最初のスライドによる説明でクリスマス雑貨市について知ることができた。

- ・準備を通して市民活動の一環として地域のつながりや活性化ができとてもよいイベントだと感じたため。
- ・みんなで協力してかざりつけや絵をかいたから。

6) 市民活動への思いに良い変化はあったか (5 段階評価) (人)

5 (あった)	4	3	2	1 (なかった)
11	6	0	0	1

○「1」を選んだ理由

- ・今もいっぱいやっているため

7) 今後初めてみたい活動や興味のあるテーマ (抜粋)

- ・今回のようなイベント設営
- ・社会的弱者に関すること。
- ・地域の人々とつながることができる活動。

8) 講座で学んだことや雑貨市への意気込み (抜粋)

- ・私とは違う世代の人と意見を提案し合ったり、協力したりと普段できないことが今日体験できました。明日も来たお客さまが楽しめるように活動していきたいです。
- ・今回で一緒にチームになった方との交流など、参加したからこそことがあって、いい経験になったと思いました。明日の本番も全力で頑張りたいです！
- ・私は今回 2 回目の参加だったけれど、どちらも楽しかったため、明日もっと楽しみたいです。

(3) 雑貨市ボランティア当日 (18 件回収/20 人参加)

1) 年代 (人)

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
14	1	0	1	0	0	2

2) 住まい (人)

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
9	1	0	1	0	7	0

3) 活動全体の満足度 (5 段階評価) (人)

5 (満足)	4	3	2	1 (不満)
17	1	0	0	0

○「5」を選んだ理由 (抜粋)

- ・色々な年代の方と関わったり、障害のある方と触れ合うことでまた新たな経験をすることができました。
- ・今まで参加したボランティアとは違った活動をできたから。
- ・楽しかったです！お世話になった参加団体さんと仲良くなれてよかったです。

4) 参加団体との交流 (人)

できた	できなかった
17	1

○できなかった理由

- ・余裕がない

5) 市民活動への思いに良い変化はあったか(5段階評価)(人)

5 (あった)	4	3	2	1 (なかった)
13	3	1	0	0

6) 今後もボランティア活動へ参加したと思うか(人)

思う	思わない
18	0

7) わかったことや感想、要望など(抜粋)

- ・一緒にボランティアした子たちがとてもやさしいなと感じました。これから出店団体の人達とそれぞれに関わっていかれたらと感じました。買い物楽しかったです。
- ・今まで参加したボランティアはこの仕事をやってほしいというどんどん任せられてやる感じでしたが、今回の多賀城のボランティアは地域の人や物を活かし自由に積極的に行う良さを感じることができました。また、スタッフやボランティアに参加している方がとても優しくボランティアを行っていてとても楽しかったです。今日一日ありがとうございました。
- ・手伝わせていただいた団体の方から「手話」に関する話をたくさん聞くことができ「手話」に興味がもてました。このボランティアに参加しなかったら関わるができなかったため、たがさぼさんにはとても感謝しています。また、今回は初めてボランティア活動に参加したのですが、関わる人皆が温かく、楽しく活動することができました。これからもボランティアに参加してみようと思える体験でした。

(3) 新たな地域の担い手発掘・育成事業 2) 市民参画促進事業

目 的	○市民活動に参加する人口をより多く示し、活動に関わる人を増やす。 ○関わってみたら楽しく、まちがもっと好きになるような多様な取り組みを既活動団体と一緒に増やしていく。
背 景	○市民活動やボランティア活動は、無関心層にとって関わることや触れる機会が少なく、一部の特別な人が行っていると考えられがちである。知る機会や実際に活動に参加する場を提供し市民活動や課題を身近に感じてもらう機会を提供していく。 ○小中学生が自分の住む地域をよりよいものにするために市民活動、ボランティアについての理解を深め、新たな地域の担い手として育成していく。 ○開催から 10 年以上経過した雑貨市は、リピーターも多くなってきた。一昨年からは障がい者や親子連れでも楽しめるインクルーシブな雑貨市を意識し、参加型ワークショップなども取り入れ、視点・対象などを工夫している。今年度は「T S C 運営への市民参画機会創出事業」と連携し、市民がより関わる雑貨市や必要としている役割を考える場をもち、より市民が主体的に関われる雑貨市を目指していく。 ○市民活動や多賀城で活躍する人材を知る機会を創出し、より無関心層が市民活動や地域課題により興味を持つように進めていく。
対 象	○市民活動や地域課題にあまり触れたことのない無関心層（雑貨市・LUNCH トーク） ○小学生と保護者（きっずボランティア講座・雑貨市） ○中学生、高校生以上のボランティアしたい人（雑貨市）
成果目標	○はじめて講座や雑貨市に参加する人が 3 割以上 ○市民活動を知り、次のステップ（講座参加や団体へのアプローチ[ボランティアや寄付などの支援]）へ進む市民が生まれる。（3 件以上）
成 果	○3 年目を迎えたきっずボランティア講座の参加者 17 人のうち 58.8%（10 人）が初参加、クリスマス雑貨市の来場者アンケートでは 179 件中 35%が初来館と回答。どちらも目標の 3 割を達成。 ○前年度までのきっずボランティア講座参加者が中学生になり、中学生サポーターとして参加したり、小学生のリピート参加が増えて、小中学生の地域活動への関心が広がっている。 ○LUNCH トークを通じて市民活動や社会課題を知り、活動に参加する人が 3 人いた。 ○雑貨市集会では、団体や活動者の枠を超えて、「地域のために何かしたい」と考える人同士のつながりが生まれた。
次年度に 向けた課題	○きっずボランティア講座に参加した小学生やボランティアに参加した中学生・高校生が継続して市民活動に参加する機会を創出していく。 ○次世代チームと連携し、参加者が次のステップへ向けて地域で活動する人材・担い手となるように情報提供をしていく。

実施概況（3）新たな地域の担い手発掘・育成事業 2）市民参画促進事業

1. たがさぼきっず広場

（1）たがさぼきっず広場

日 時：令和6年5月6日（月・祝）10:00～14:00

会 場：T S C 芝生広場、1階ロビー

対 象：文化センター主催のかえっこバザール来場者

出 店：5団体（船長小屋/サーラ文庫/ともだち・カワン・コミュニティ/マジシャン hinata/ Plyer 4）

内 容：文化センター「かえっこバザール」、市立図書「Book Swap」と連携し実施。海の漂着物で物語をつくるワークショップや読み聞かせ、マジックショーなども同時開催。参加者へはかえっこバザールで使えるポイントを付与するなどの連携を行った。

参 加：来場者 111 人/ワークショップ参加者 187 人

成 果：文化センターや市立図書館と協力し、参加者が地域の活動とつながる機会を提供できた。また、ワークショップを通して参加者が環境や震災後の漂着物について考えるきっかけになった。

（2）船長小屋展示

日 時：令和6年9月5日（木）～令和6年11月16日（土）

会 場：T S C 2階ギャラリー

内 容：たがさぼきっず広場で実施した船長小屋のワークショップで子どもたちが描いた作品と海の漂着物コレクションの展示を実施。

2. きっずボランティア講座/中学生サポーター

日 時：令和6年9月～12月の期間中に4回開催

対 象：市民活動に触れる機会が少ない小学生とその保護者

内 容：活動者の話や活動体験を通して市民活動やボランティアについて知り、雑貨市ボランティアやその後の活動・生活につなげるための4回連続講座。

参 加：18 人

中学生サポーター：7 人

※中学生は小学生の活動のサポーターとして活動した



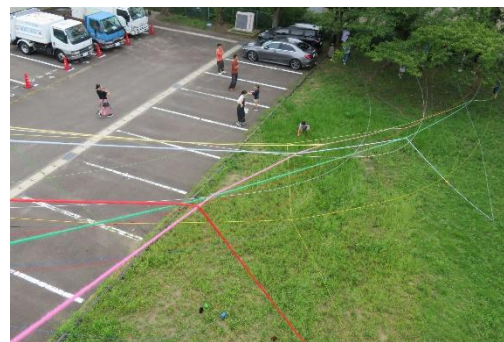
1. (1)震災後の漂着物を手に取ってスケッチした



1. (2)たがさぼきっず広場で撮影した写真も一緒に展示した



2. (1)団体の話を聞く子どもたち



2. (1)毛糸ワークショップではアートを身近に体験することができた

(1) 第 1 回 アートの力は無限大！

みんなにやさしい社会をつくろう！

日 時：令和 6 年 9 月 8 日（日）10:00～11:30

会 場：T S C 大会議室

ゲスト：一般社団法人アート・インクルージョン

内 容：毛糸をつかったワークショップと団体の活動紹介、雑
貨市でやりたいことのアイデア出し

参 加：16 人

中学生サポーター：2 人

(2) 第 2 回 チガウからこそできるコト

話して広がるみんなの世界

日 時：令和 6 年 10 月 6 日（日）10:00～11:30

会 場：T S C 301、302 会議室

ゲスト：NPO 法人地球対話ラボ

内 容：インドネシアの人たちと Zoom を使った対話と
「違い」について考えるワーク

参 加：17 人

中学生サポーター：2 人

(3) 第 3 回 おばけ屋敷でまちづくり！？

こわい体験からみえるもの

日 時：令和 6 年 11 月 16 日（土）13:30～16:00

会 場：T S C 301 会議室、3 階交流サロン、第 2 和室

ゲスト：おばけ屋敷創作団体「バケラッタ」

一般社団法人アート・インクルージョン

内 容：「ツリーハウス」「おばけ屋敷」制作

参 加：14 人

中学生サポーター：6 人

※第 3 回から参加した 5 人は「雑貨市ツアー」を企画した

(4) たがさぼのクリスマス雑貨市 前日準備

日 時：令和 6 年 12 月 7 日（土）9:30～16:00

会 場：T S C 2 階ギャラリー、給湯室、第 2 和室

内 容：雑貨市に向けて子どもたちが企画したブースの設営や
運営の確認

参 加：17 人

中学生サポーター：6 人



2. (2) 「違い」をどう捉えるかで物事の見方が変わることを学んだ



2. (3) 「おばけ屋敷」を通じて恐怖を感じる時の行動や安全配慮の重要性を理解した



2. (3) アイデアが形になるのを経験した



2. (4) ツリーハウスを組み立てている様子

(5) 第4回 たがさぼのクリスマス雑貨市

おばけ屋敷ブース出店・ボランティア体験

日 時：令和6年12月8日（日）9:00～12:00

会 場：T S C 全館、史遊館広場

内 容：子どもたちが企画したおばけ屋敷ブース運営と、出店
団体でのボランティア体験

参 加：17 人

中学生サポーター：6 人

成 果：・講座を通して市民活動に楽しく関わることができ、
多様性について知るきっかけを作ることができた。
・雑貨市本番では出店団体でのボランティアを通じ、
来場者や団体と交流しながら「自分にできること」
を考えるきっかけになった。

3. たがさぼのクリスマス雑貨市 2024

(1) 雑貨市集会

日 時：令和6年11月16日（土）13:30～15:00

会 場：T S C 大会議室

司 会：飯島茂さん（NPO法人麦の会）

内 容：雑貨市に参加する団体とボランティア、多賀城のフェ
ス主催者、事業者、施設を招いての交流集会。
※手話通訳者を呼び、情報保障を行った。

参 加：22 団体

NPO法人麦の会 コッペ/ワークスペースぽぽ
ぱれった・けやき宮城野 Ciao!/クリエイティブ笑美
多賀城市地域活動センターコスモスホール
みどり工房長町/マオメオ・キャットクラブ
多賀城イングリッシュ・サポーターズ/工房すぴか
大塚耕志郎/まほうの手お出かけ隊/TobiLala
ソーシャルビレッジ/愛さんさんファーム
マイロ/NPO法人コスモスクラブすまいる作業所
子育てサロン*はぐま/おれんじ工房
宮城県多賀城高等学校・多賀城市国際交流協会
メルヴェイユ仙台/宮城県障害者差別のない共生社会
推進プロジェクト事務局/KuuU FuUU

ゲスト：7 団体

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
KuuU FuUU/たかはし土曜市/無印良品/ICHICO



2. (5)おばけ屋敷の開始前に配置を確認する子どもたち



2. (5)火の扱いはプレーパークを実施した団体に教えてもらいながら覚えていた



3. (1)団体紹介の様子



3. (1)集会後は団体やボランティアとの交流の時間を設けた

仙台市市民活動サポートセンター

BUKOWSKI（一部参加）

ボランティア：15人

成 果：だれもが活躍できる場を目指し、今年度の雑貨市では
出店団体やボランティアがより主体的に関わる方向性
を共有した。団体紹介やゲストの意見交換を通じ新た
な交流が生まれ、地域との新たなつながりが生まれる
機会になった。

（2）たがさぼのクリスマス雑貨市 2024

日 時：令和6年12月8日（日）9:30～15:00

会 場：TSC全館、史遊館広場

テーマ：みんなにやさしい雑貨市

対 象：・市民活動や地域課題にあまり触れたことのない

無関心層

・中学生、高校生以上のボランティアしたい人

内 容：・福祉施設や社会支援活動をしている団体による食品
や雑貨の販売、ワークショップ

・きッズボランティア講座参加者が企画・運営する
おばけ屋敷ブース

・ボッチャ体験

・アジアカフェ

・中学生サポーターによる雑貨市ツアー

出店団体数：37団体（協力団体3団体を含む）

ボランティア：33人（一般7人、大学生3人、小中高生23人）

きッズボランティア：17人

中学生サポーター：6人

来場者数：のべ1,056人

アンケート回収：179枚

1）出店団体 ※パンフレット掲載名で記載

①食品（12団体）

珈琲豆と手しごとのモノ kyu / NPO法人麦の会 コッペ

ワークスペースぼぼ/ぱれった・けやき宮城野 Ciao!

障害福祉サービス事業所ビッグママ・おいしいパン屋さん

メルヴェイユ仙台/芽ぶき/マイロ/ポッケの森

NPO法人コスモスクラブすまいる作業所

本格遠赤焙煎珈琲 まめ福/カレーショップ桜蔵



3. (2) ボッチャ体験は誰でも参加可能



3. (2) アジアカフェではベトナムコーヒーの淹れ方を教えていた



3. (2) プレーパークでは「棒パン」作りを体験した



3. (2) 手話による読み聞かせの様子

②雑貨（13 団体）

マオメオ・キャットクラブ/愛さんさんファーム
 アート・インクルージョンファクトリー
 NPO法人アマニ・ヤ・アフリカ/みどり工房長町
 クリエイティブ笑末/ソーシャルビレッジ/おれんじ工房
 多賀城市地域活動センターコスモスホール
 NPO法人ソキウスせんだい アトリエ・ソキウス
 宮城県多賀城高校・多賀城市国際交流協会/工房すぴか
 社会福祉法人洗心会のぞみ福祉作業所

③ワークショップ（9 団体）

KuuU FuUU/子育てサロン＊はぐま
 コトマグ “へんな桃太郎の創作バトル”
 お習字ワークショップ&販売 書道楽
 宮城県障害者差別のない共生社会推進プロジェクト事務局
 多賀城イングリッシュ・サポーターズ/マジシャンhinata
 つながるアジアカフェ in 多賀城/まほうの手お出かけ隊

④協力団体（3 団体）

地域盛り上げ隊タガレンジャー
 おばけ屋敷創作団体「バケラッタ」
 史都多賀城万葉祭り実行委員会衣装部

2) 掲載メディア

多賀城NOW 11月号、12月号/S-style 12月号
 多賀城市SNS 9月、10月、11月/情報誌ARIFT 11月号
 石巻日日新聞/2024年11月15日(金)
 宮城まるごと探訪/2024年11月19日(火)公開
 みんな vol.129
 河北新報夕刊 志民の輪ふみだす info 2024年12月2日(月)

成 果：今年度から出店団体を公募制に変更し、37 団体が出店し、そのうち 17 団体が初出店。障がいの有無や国籍、多世代が交わる場となり「みんなにやさしい雑貨市」を体現することができた。ボランティア 33 人が主体的に活動し、準備や装飾、運営サポートを担当。

4. 多賀城 LUNCH トーク

会 場：SHARE LOUNGE 多賀城

対 象：テーマに興味のある市民・行政・市民活動団体等

（1）多賀城碑マニア～その魅力を語る男～



3. (2) 万葉衣装の着付け体験は技能実習生にも人気だった



3. (2) 多世代が楽しめるワークショップも充実していた



4. (1)1 回目のゲスト。多賀城碑の書も展示

日 時：令和6年8月9日（金）12:05～12:50

ゲスト：大塚耕志郎さん（書家）

内 容：国宝となった「多賀城碑」の魅力や誇りについての話

参 加：13 人

（2）ゲバサンバ

～あなたと私とあの人と みんなでつくるごちゃまぜの祭り～

日 時：令和6年8月9日（金）12:05～12:50

ゲスト：小野寺香那恵さん（KuuU FuUU）

内 容：ゲストが企画しているゲバサンバについての話

参 加：25 人

（3）つなぐをデザインする

日 時：令和6年10月4日（金）12:05～12:50

ゲスト：青田聡一さん（BUKOWSKI）

内 容：埋もれている東北のモノ・ヒト・コトにスポットあてる取り組みについて

参 加：21 人

（4）LGBTQ ゆるやかトーク

日 時：令和6年11月8日（金）12:05～12:50

ゲスト：内田さん・佐藤さん（からり）

内 容：LGBTQ の支援について。宮城県の現状と必要な居場所について、支援と当事者の視点からの話

参 加：9 人

（5）変幻自在なスパイスカレーとつながるトーク

日 時：令和6年12月6日（金）12:05～12:50

ゲスト：加藤宏幸さん（3 FLAVOR CURRY）

内 容：地域食材など、いろいろな要素をつなぎ合わせコラボレーションできるスパイスカレーの魅力の話

参 加：25 人

（6）みんなが知らない 宮城県ココがすごい話

日 時：令和7年1月10日（金）12:05～12:50

ゲスト：J.F.モリスさん（日本史研究科ほか）

内 容：宮城県の多文化共生社会の形成の推進に関する条例について



4. (2)ゲバサンバのプレゼンに会場からアドバイスがたくさんあった



4. (3)つなぐをデザインするをテーマにインタビュー形式でのトーク



4. (4)からりの2人のかけあいでのトーク



4. (5)海外での経験やスパイスカレーの話とカレーの試食があった

参 加：23 人

(7) 不登校

1) 不登校の現状、今ここからできること

日 時：令和7年2月7日（金）12:05～12:50

ゲスト：郡司宏貴さん（ここえな）

中野柊一郎さん（一般社団法人 manaco）

福富優さん（NPO法人アスイク/

たがじょう子どもの心のケアハウス）

内 容：宮城県の不登校の現状と、多賀城で活動している3人から課題の共有からできることを考える

参 加：28 人

2) 不登校② ここからはじまる、つながる場

日 時：令和7年3月21日（金）19:00～20:30

ゲスト：郡司宏貴さん（ここえな）

中野柊一郎さん（一般社団法人 manaco）

福富優さん（NPO法人アスイク/

たがじょう子どもの心のケアハウス）

内 容：不登校のイメージを共有し、モヤモヤしていることをグループで共有。ゲストへの質問など。

参 加：26 人

(8) 震災と俳句

日 時：令和7年3月10日（月）12:05～12:50

内 容：震災後に詠んだ俳句の解説と俳句への想い

ゲスト：高野ムツオさん（俳人・「小熊座」主宰）

参 加：25 人

成 果：多賀城で活動している人や団体、課題をテーマに市民や団体、行政などが知る、つながるきっかけをつくる場となった。テーマによつての集客と広く学ぶ場として参加する人、活動者を応援したい人などが集う場がつくられ新たな人材発掘の場となったことや、社会課題を考える場に気軽に参加してもらえた。



4. (6) 多文化共生についてのトーク



4. (7) 1) 不登校の活動する団体からの3者トーク。活動する中での課題など共有した



4. (7) 2) 3月に再び開催した不登校②。交流する場や共有する時間を設けた



4. (8) 俳句経験者以外の参加も多かった

アンケート集計結果

1. きっずボランティア講座

(1) 参加者 18 人 (18 件回収/18 人参加)

1) 通学している小学校 (人)

多賀城小	多賀城東小	山王小	天真小	城南小	八幡小
1	0	2	1	8	6

2) 学年 (人)

6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年
1	6	0	5	3	3

(2) 中学生サポーター 7 人 (7 件回収/7 人参加)

1) 通学している中学校 (人)

多賀城中	高崎中	第二中	東豊中
1	5	1	0

2) 学年 (人)

3 年	2 年	1 年
5	2	0

(1) 第 1 回 アートの力は無限大！みんなにやさしい社会

参加者(11 件回収/16 人参加)、中学生サポーター(2 件回収/2 人参加)

1) 講座の理解度 (人)

	よくわかった	すこしわかった	わからなかった
参加者	8	2	1
中学生サポーター	2	0	0

2) 講座で心にのこったことや、気が付いたこと。(抜粋)

参加者	・今日の講座でアートという意味がわかった。 ・みんなで考えると楽しい。
中学生サポーター	・アートには色々な形がありそれぞれに違った良さがあることが分かりました。 ・同じ班の子と沢山話せたこと。小学生の子たちとの関わり方を学べたこと。

3) ゲストにもっと聞いてみたいことや伝えたいこと（抜粋）

参加者	・どんな思いで仕事をしているのですか？ ・どんなアートをしているの？ ・アートはどのような人がやっているんですか？
中学生サポーター	・中学校では職場体験などの学習が始まって、将来どのようにありたいかを考えることを求められることが多くなりました。その中で、門脇さんのような活動をしている大人の方がいることを知り、新しい世界の話をきけた気がしてとても面白かったです。

(2) 第2回 チガウからこそできるコト 話して広がるみんなの世界

参加者（16 件回収/17 人参加）

1) 講座の理解度（人）

	よくわかった	すこしわかった	わからなかった
参加者	14	2	0

2) 講座で心にのこったことや、気が付いたこと（抜粋）

参加者	・その国によってのちがいが。 ・みんなひとつひとつ違うことが分かった。 ・日本にすんでいない人ともしゃべるのは楽しいんだということが心にのこりました。 ・みんなでしゃべっていけんを出しあうと楽しい。
-----	--

(3) 第3回 おばけやしきでまちづくり！？こわい体験からみえるもの

参加者（14 件回収/14 人参加）、中学生サポーター（1 件回収/1 人参加）

1) 講座参加者

①講座の理解度（人）

	よくわかった	すこしわかった	わからなかった
参加者	13	1	0
中学生サポーター	1	0	0

②講座で心にのこったことや、気が付いたこと（抜粋）

参加者	・きょうりよくすればたのしくできる。 ・安全も大切だということ。
中学生サポーター	・おばけやしきを行うには安全などに気をつけて楽しく行うのが大事だと分かりました。

2) 中学生サポーターによる雑貨市ツアー（4 件回収／4 人参加）

①雑貨市のボランティアをやりたいと思った理由

- ・小学生のころも、雑貨市のボランティアに参加させてもらって、またやりたいと思ったから。
- ・人のためにつながることが好きだから。
- ・前やったときに楽しかったし、この団体の活動を伝えたいと思ったから。

②今までボランティアなどの活動をしたことがあるか？（人）

活動したことがある	活動したことがない
4	0

- ・多賀城市 J L 「エステバン」、前回の雑貨市（きつずボランティア）などで
- ・ジュニアリーダーエステバンでの活動
- ・団体の手伝い、ジュニアリーダー（エステバン）
- ・おり紙、エステバン

③雑貨市集会について

○雑貨市の趣旨についての理解度（人）

理解できた	少し理解できた	わからない
4	0	0

○雑貨市集会の感想

- ・雑貨市を通して障害のある方つながったり、さまざまな想いをを持ったボランティアの方々と関わりを持つことができる素敵なイベントだと思ったから。
- ・とても魅力的なところがあって、楽しみになりました。
- ・いろんな人がこのボランティアに参加しようと思う気持ちが伝わった。

○雑貨市で経験したいこと、意気込みなど

- ・コッペのクッキーを買う！お客さんの人たちを楽しめるように案内する。
- ・他のボランティアに参加している人とも協力して活動する！

（４）第４回 たがさぼのクリスマス雑貨市 おばけ屋敷ブース出店・ボランティア体験

１）参加者（17 件回収／17 人参加）

①活動にすすんで参加できたか（人）

よくできた	すこしできた	あまりできなかった
15	2	0

②活動でがんばったこと（抜粋）

- ・笑顔で接客すること

③心に残ったことや楽しかったこと（抜粋）

- ・お店の人とたくさん話した。
- ・おばけやしきのおばけ役で脅かすのが楽しかった。

④活動を通して勉強になったこと（抜粋）

- ・ポッチャはいろいろな人ができるんだと思いました。
- ・いろんな人がいること。

⑤今後、ボランティア活動の呼びかけがあったら参加してみたいか（人）

すぐにでも参加したい	中学生や高校生、大人になったら参加したい	参加しない	無回答
13	3	0	1

2）中学生サポーター（6件回収/6人参加）

1．クリスマス雑貨市当日について

①満足度（5段階評価）（人）

5（満足）	4	3	2	1（不満）
5	1	0	0	0

「5」を選んだ理由

- ・お客さんとの交流がたくさんできたから。
- ・活動を通していろいろなことをしれたから。
- ・いろいろな年代の人と交流できて、とても楽しかったです！
- ・ツアーでいろんな団体さんの話が聞けてよかった。

②他の参加者と交流はできたか（人）

よくできた	できなかった
6	0

③ボランティア活動を通して、市民活動への思いに良い変化はあったか（人）

5（満足）	4	3	2	1（不満）
4	0	2	0	0

④今後、また何かボランティア活動に参加したいと思うか（人）

思う	思わない
6	0

⑤今回のボランティア活動をとおして、分かったことや感想、要望など

- ・雑貨市を通して、さまざまな団体の方と関わりながら、お客さんがブースに興味を持ってもらえるように、がんばりました。少しでもお客さんをつなぐことができたなら、実りのあるボランティアになったかなと思います。
- ・今日のボランティアを通して障害者への偏見が少しでも減ればよいと思った。
- ・今回の活動でよのなかにいろいろなことがあることを知って、よかった。
- ・中学生サポーターの活動を通して、子どもたちには独創的な発想力があって面白いなと思いました。

2. たがさぼのクリスマス雑貨市 2024

(1) 来場者アンケート (179 件回収/来館者数:1,056 人)

1) 自身について

①年代 (人)

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
43	9	39	39	23	16	10

②住まい (人)

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他	無回答
129	6	0	5	1	25	7	6

③来館回数 (人)

初めて	2 回目	3 回以上	無回答
63	21	57	38

2) 雑貨市をどこで知ったか※複数回答可 (人)

口コミ	チラシ	ポスター	ウェブメディア	フリーペーパー
30	85	18	7	5
新聞	多賀城市役所	市内外の施設	①TSC の発信	②市の発信
1	2	3	21	13

①TSC の発信 (人)

HP	ブログ	X (旧 Twitter)	Instagram
10	3	3	12

②市の発信 (人)

Facebook	LINE	Instagram	広報紙
5	9	6	6

3) 満足度 (人)

5 (満足)	4	3	2	1 (不満)
109	42	24	2	1

○「5」を選んだ理由 (抜粋)

- ・普段意識しづらい敷居を高く感じてしまう社会課題を、購入することで意識できるから。
- ・商品の種類も多くて活気がありました。
- ・絵本のよみきかせ (手話) に引き込まれた。
- ・購入するだけでなく体験するところもたくさんあってよかった。

4) 出店団体について初めて知ったこと (人)

団体の活動内容や目的	購入が支援に繋がること	商品が作られた経緯	その他
88	101	31	8

5) 今後も支援につながる買い物をしたいと思うか (人)

はい	いいえ	無回答
171	5	3

6) 感想や意見、気づいたこと (抜粋)

- ・いろいろな物があって、手作りの物があってすてきだと思いました！支援になったことを初めて知って「こんなことやるんだ！」とあらためて思いました。
- ・今年も中学生・小学生ががんばっていて、参加するところからも元気をもらえます。我が子たちもボランティアができればステキだなと思いました。

(2) 出店団体アンケート

1) 雑貨市集会 (19 件回収/34 団体)

①満足度 (団体)

5 (満足)	4	3	2	1 (不満)
14	3	2	0	0

○「5」を選んだ理由

- ・事前に交流することができて良かった。深いつながりができました。
- ・初対面や各団体の紹介を見てかなり参考になりました。
- ・昨年よりも参加型になっていて良かった。
- ・他団体の活動をたくさん知ったり、小中学校のボランティアがいたりと活気ある活動だと思いました。
- ・進行がスムーズで、とても楽しく参加させていただきました。

○「4」を選んだ理由

- ・団体や地域での取り組み知ることができた。
- ・昨年とタイムテーブルが違っていました、ゲストの方が来たりいろいろな話が聞けてよかった。

②雑貨市集会で得られたこと※複数回答可 (団体)

雑貨市趣旨を理解	他団体の活動	他団体との交流	ボランティアの交流	その他
14	19	8	2	0

(3) たがさぼのクリスマス雑貨市 (25 件回収/34 団体)

1) 雑貨市の売り上げについて (団体)

無 料	10,000 円未満	10,000～30,000 円	30,000～50,000 円	50,000～70,000 円
1	4	6	10	4

2) ほかのイベントに比べて売り上げはどうだったか (団体)

よかった	いつもと同じくらい	よくなかった
15	8	1

3) 販売商品やワークショップの内容についてお客様とお話できたか※複数回答可(団体)

活動の説明ができた	商品・WSの説明	売上の用途を説明	その他 未回答
22	15	5	3

○記述内容(抜粋)

- ・フェアトレード商品の説明をすることができた。
- ・就労支援事業所の説明や支援内容をお話した。
- ・事業所の役割や利用者の声を伝えた。
- ・商品の説明 来場した方(親子)の話(日常について等)お客様(お子さん)への呼びかけ。
- ・去年もお買い上げの方もいて、再会がうれしかった。
- ・無農薬のお野菜に興味を持っていただいた一般のお客様より、こだわりをもって取り組んでいることが素晴らしいとお褒めの言葉お頂きました。
- ・福祉から社会へ出来る事について。
- ・法人の成り立ちや商品が出来上がった経緯。
- ・ゲバサンバやプレーパークの話。
- ・ベトナムの文化の話し、日々のあれこれや想いなどいろんなお話ができました。
- ・商品の感想や試作品へのコメントなどいただきました。自分たちの考えとは少し違う視点をいただくことも出来ました。

4) 他のお店団体との交流について(団体)

交流ができた	交流ができなかった	無回答
15	9	1

○記述内容(抜粋)

- ・普段の仙台市での販売会でお会いする方々の他、仙塩地区で活動されている団体の皆様にご挨拶する機会になった。
- ・読み聞かせは大変でしたが、参加してくれた子どもたちが楽しんでいる様子が見ることができてよかった。
- ・他の団体の活動を知ることができた。本団体の活動を知ってもらうこともできた。
- ・同じ地元で活動している団体と、交流を兼ねた見学会の検討の話。
- ・施設見学や、活動のミーティングへの参加などにつながりそう。
- ・他のイベント出店の情報など。
- ・ほかの出店団体の参加してきたイベント情報や、今後のイベントに関しての情報を交換できた。

5) 感想や意見、気づいたこと(抜粋)

- ・中学生の会場ツアーやボランティアの方々に、商品と団体のPRのおかげで、たくさんの交流が生まれ楽しいイベントになった。世代問わずたくさんのお客様が来場し、たくさんの人を巻き込んでいく様子にエネルギーを感じました。
- ・ボランティアの小・中・高校生が頑張って盛り上げようとしていたので、活気があったように思えた。
- ・初めて参加させて頂き、とても楽しい時間を過ごせた。子供達のボランティアもお店の案内や手伝いなど、素晴らしい活動だと感動した。ワークショップも大盛況で色々な人とお話ができ、また来年も参加したい!!と思った。
- ・来場者も多く、利用者も販売体験ができて良い社会交流の場となった。

- ・前回出店時と違いたくさんのお客様が来た様に思った。
- ・タガレンジャーの登場や時代の服装を着るイベントは多賀城らしくよかった。
- ・初参加でしたが、関わっている皆様の温かい雰囲気が販売してとても心地よかった。
- ・ボランティアの子どもたちがとても意欲的に活動していたことがとてもよかった。
- ・子どもたちが工夫しながら火おこしをしていた。薪がなくなると木の枝などを自分たちで探してきて大きな枝などはノコギリで小さくしていた。棒パンやマシュマロや焼き芋などもやったことがない、貴重な経験だという話もあった。さまざまな場面で夢中になっている姿が印象的だった。
- ・利用者の方がクリスマス雑貨市の雰囲気が好きで、自転車で1時間かけて毎年参加している。
- ・開始直後キャパオーバーでちょっとしたカオスでした。お客さまにゆっくり見ていただくどころか、会話するにも難しい状況だった。
- ・幅広い年齢層の方々がいまして、普段から多くの方が活動をされていることがよくわかった。運営の方々もボランティアの方々もみんなが楽しそうで、参加していて、元気をもらった。

3. 多賀城 LUNCH トーク

(1) 全体参加者 (79 件回収/195 人参加)

1) 多賀城市との関わり・住まい (人)

在住	通勤・通学	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	仙台市	その他
117	38	4	1	5	16	22

※重複回答あり

2) 講座をどこで知ったか (人) ※複数回答可

チラシ	T S C のHP 等	多賀城NOW	市のSNS 等	たまたま来館	口コミ	その他
54	6	4	5	7	11	5

3) 満足度 (人)

5 (満足)	4	3	2	1 (不満)
69	10	6	0	1

4) 満足度の理由や感想 (抜粋)

○内容について

- ・ゲストや参加者の方から多様なお話を聞けてよかった。
- ・知らない分野に触れることができるのがよい。
- ・知らない世界を知ることができた。新たな発見があった。
- ・普段考えていることにプラス一歩深める機会になりました。
- ・普段の生活では詳しく聞くことがなかったので、知ることができてよかった。
- ・気軽に普段はふれることがない話題について、聞いたり、考えたりする機会になるのがよい。
- ・たくさんの方々がこのテーマ (不登校) に興味関心を持っているということ。
- ・村井知事の政策がなぜ外国人に？と思っていたのですが、今回参加して少しわかりました。大学の授業並みに貴重な経験でした。もっと多くの方に聞いてもらいたかった。
- ・LUNCH トークの主旨は何か？を明確にするといいかも。

- ・LGBTQ の内容や現況を知ることができた。
- ・平日日中には参加者多くてびっくりしました。
- ・不登校の現状と関係者のお話が聞けました。よく理解できました。
- ・短い時間でしたがとても濃縮されたすばらしい時間でした。
- ・「相手をワクワクさせること」というお話がとても印象的でした。自分の仕事にもつながる大切だと思う。
- ・LGBTQ のことを理解できた。
- ・不登校の実態と傾向が理解できた。
- ・生きていくのに必要なテーマだった。
- ・不登校に対する考え方を取り組みが大変良かった。

○運営・実施形態について

- ・在宅勤務のため、ランチ時間帯のイベントは参加しやすい。お昼時間を有意義に使える。
- ・質問の時間が長くあったことで他の方の視点も知ることができて良かった。
- ・講師の方との距離が近くて良い、内容も楽しかった。
- ・きっかけが広がり、短時間の会話で良い。
- ・気軽に時間帯も参加しやすかった。内容も楽しめた。
- ・自由な雰囲気に参加しやすかった。
- ・できれば事業告知や次回告知も含めたスケジュールにしていきたいと思います！ お昼の 5 分はでかい！
- ・内容は良かった。時間がギリギリで、質問時間の終わりまでいることができなかった。
- ・お弁当を持ってきたのですが、出して食べられる雰囲気じゃなかった。
- ・来場者の質問時の声が聞き取れない。無線のマイクを使ってほしい。
- ・中々聞けないお話で嬉しかったです。土日は駐車場も混むので平日開催はありがたい。
- ・ランチの時間帯に気軽に興味深い話が聞ける、気軽に参加できる。
- ・場所、時間帯、進め方など、とても良かったですし、また参加したいと思った。

○その他

- ・いろいろな活動をされている NPO の方がいることを知り安心できました。
- ・若い人が多く参加して良かった。
- ・ゲストの方や来ている方との繋がりが持てる場だから。人とのご縁は宝です。
- ・短い時間ではありましたが、私自身も考えさせられる時間となりました。
- ・新たな視点を得ることができた。

(4) NPO支援事業 1) NPOつながり支援事業

目 的	○自団体の強み弱みを知り、団体運営力のアップを図るよう支援することで、他団体や市民とつながり、団体を理解し支援する人や連携する団体が増える。 ○ボランティア情報の収集と発信を行うことで、市民活動に関わる市民を増やす。
背 景	○昨年度の交流会をきっかけに団体同士がつながった。今年度は連携の範囲が広がるよう、生涯学習団体や企業、自治会・町内会なども参加の対象として交流会を企画した。 ○情報発信や資金調達の講座を希望する団体が多く、メンバーの意識・方向性の違いに悩む相談もあることから、組織力、会費・寄付、情報発信手段をテーマに企画した。 ○館内やブログで発信していた団体ボランティア情報は、昨年度TSCのHPに設けたボランティア情報のページから広く情報が届く仕組みに改善。引き続きボランティアしたい市民に情報提供し、団体の運営に活かす。 ○インキュベート相談会では前年度同様、自団体の運営面、活動面での強みや課題と感じていることなどを分析し、必要なアクションのサポートを継続する。団体の運営力の強化を図るとともに、地域や社会の課題解決力のアップにもつなげていく。
対 象	○事務用ブース入居団体／事務用ロッカー・レターケース利用団体 ○TSC利用団体（講座・相談会への参加、会議室利用など） ○多賀城周辺で活動する団体 ○団体を立ち上げて、地域や社会の課題解決に取り組みたいと考えている既活動者 ○生涯学習団体、企業、自治会・町内会（交流会）
成果目標	○交流会で生まれたつながりからアクションを起こす事例が3件以上生まれる。 ○市民からの協力・共感・賛同などが増えている団体が5団体出ている。 ○ボランティアの新たな情報を3つ以上掘り起こし、情報を発信する。 ○相談会・講座参加団体それぞれの運営課題のうち1つが、改善もしくは解決している。 ○ボランティア情報収集で実際にボランティアにつながる事例が3つ以上生まれる。
成 果	○交流会で生まれたつながりから音楽会の実施につながった事例が1件、活動に共感してイベントのお手伝いに参加した事例が1件あった。 ○活動に共感しイベント実施の度にお手伝いで団体へ協力している事例が1件あった。 ○新たなボランティア募集情報が2件寄せられ、情報発信を行った。 ○講座参加後、市民の共感をさらに得るため情報発信の改善を実践している団体が1団体、メンバー間の連絡方法が改善した団体が1団体、講座申込の受付や集計方法の相談から、やり方の提案など継続した対応で効率化が図れた団体が1団体あった。 ○ボランティア情報収集を見た市民が活動に共感し、実際にボランティアとして参加した事例は3件、参加しなかったが活動を見学した事例は2件あった。
次年度に 向けた課題	○講座の学びが団体運営力向上につながるようにヒアリング、フォローアップを継続し、解決に向けて伴奏していく。 ○市民がボランティアや団体の活動にアプローチできるよう、ボランティア募集や団体の情報発信のサポートを引き続き支援していく。

実施概況（４）NPO支援事業 1）NPOつながり支援事業

1. 事務用ブース入居団体インキュベート相談会

○（１）～（７）共通

対 象：入居後６ヵ月が経過した事務用ブース入居団体

内 容：団体の活動内容の整理・運営課題の分析、課題解決
の目標設定、解決に向けた検討

相談員：TSCスタッフ

参 加：7団体/11人（1団体あたりおよそ1時間）

（１）旭ヶ岡町内会

日 時：令和6年8月23日（金）10:30～11:30

会 場：TSC 201会議室

参 加：1人

（２）傾聴の会多賀城

日 時：令和6年8月23日（金）14:30～15:30

会 場：TSC 201会議室

参 加：1人

（３）多賀城イングリッシュ・サポーターズ

日 時：令和7年1月16日（木）15:00～16:00

会 場：TSC 302会議室

参 加：2人

（４）高崎こども食堂らっこ広場

日 時：令和7年1月17日（金）14:00～15:00

会 場：TSC 201会議室

参 加：1人

（５）一般社団法人Golazo

日 時：令和7年1月24日（金）16:00～16:45

会 場：TSC 101会議室

参 加：2人

（６）生涯学習100年構想実践委員会

日 時：令和7年3月7日（金）13:50～15:10

会 場：TSC 302会議室

参 加：4人

（７）宮城県学童保育連絡協議会

日 時：令和7年3月14日（金）10:00～11:00

会 場：TSC 201会議室

参 加：1人



1. (4) 団体の現状など気軽に話していただいた



1. (5) 運営体制の整理をし、業務の分担について提案を行った



1. (6) 板書を活用し、課題を整理した

2. たがさぼ交流会

日 時：令和 6 年 7 月 20 日（日）14:00～17:00

会 場：T S C 大会議室

対 象：事務用ブース入居団体、T S C 利用団体、多賀城及び
その周辺で活動する団体、活動を始めたい個人

内 容：普段関わりの少ない分野の方々と活動内容や課題を共
有しながら交流・情報交換を行う場

参 加：26 団体/29 人

成 果：異業種との交流ができたことで新たなイベントの企画
・実施、イベント実施場所の提供など、団体同士新た
なつながりができた。



2. お互いの活動を紹介し合いながら一緒に取
り組めそうなことの情報交換を行った

3. N P O ・市民活動パワーアップ講座

（1）多様なメンバーと一緒に活動していくコツ

日 時：令和 6 年 9 月 29 日（日）13:30～16:30

会 場：T S C 301 会議室

対 象：事務用ブース入居団体、T S C 利用団体、多賀城及び
その周辺で活動する団体

講 師：豊田有希さん（N P O 法人 C R ファクトリー コミュニ
ティマネジメント認定インストラクター）

内 容：メンバーの共感力を高めるために必要な非営利組織の
構造や団体理念の共有について学ぶ講座

参 加：9 団体/11 人

成 果：団体の理念を再確認し、課題改善や解決に向けて動き
出し改善につながった団体があった。



2. 地域で活動している企業、団体がそれぞれの
活動を知ること、新しいつながりが生まれた

（2）知っておきたい会費・寄付のこと

日 時：令和 6 年 10 月 27 日（日）13:30～16:30

会 場：T S C 301 会議室

対 象：事務用ブース入居団体、T S C 利用団体、多賀城及び
その周辺で活動する団体

講 師：石渡賢大さん（認定 N P O 法人日本ファンドレイジン
グ協会東北チャプター共同代表）

内 容：資金調達の基礎や会費、寄付金を中心に社会からの支
援につながる資金調達について学ぶ講座。

参 加：3 団体/4 人 ※うち個人参加 1 人

成 果：寄付、会費を集めるために大事なポイントについて学
び、自団体にとって共感を得るために必要なことが整



3. (1) 参加者からは積極的に講師に質問があが
っていた

理できた。

(3) 効果的な広報のしかた

日 時：令和6年11月24日（日）13:30～16:30

会 場：TSC 301 会議室

対 象：事務用ブース入居団体、TSC利用団体、多賀城及び
その周辺で活動する団体

講 師：伊東利光さん、千葉浩二さん（メディアデザイン）

内 容：情報発信の基本や団体に適した広報手段を学び、実際にデザインツールCanvaの基本操作に触れる。

参 加：3団体/5人 ※うち個人参加1人

成 果：情報発信と広報の違いや必要性を学び、デザインツールを活用したチラシの作成手順、広報対象などワークを通して学ぶことができた。

4. ボランティア情報収集・発信

「NPO・市民活動 求む！あなたのチカラ」

内 容：ボランティアを必要としている団体の情報を集め、ボランティアをやってみたいと思っている人につなぐ。
TSC利用団体や地域で活動している団体等にメール、電話などによる聞き取りおよび相談対応事例からニーズを拾う。TSC館内での掲示や、HP・ブログでも発信した。

対 象：ボランティアを必要としている団体

情報提供団体：13団体

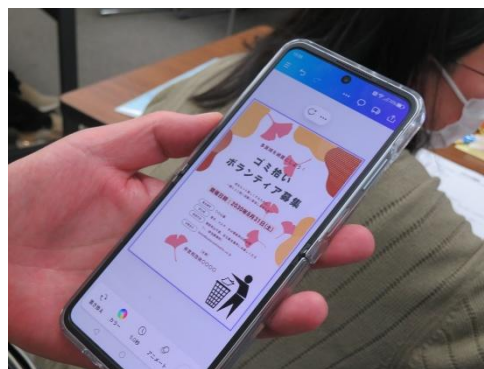
- ・NPOゲートシティ多賀城 ・NPO法人いのちのパン
- ・SenTVA(在ベトナム人協会) ・しおかぜホーム
- ・史都多賀城万葉まつり実行委員会
- ・T・A・P多賀城 ・高崎こども食堂らっこ広場
- ・多賀城市子育てサポートセンターすくっぴーひろば
- ・たがじょう子どもの心のケアハウス ・多賀城将棋ラボ
- ・地球子屋 ・ともだち・カワン・コミュニティ
- ・学び処しおがま

成 果：実際にボランティアにつながる事例が3件生まれた。

- ・NPO法人いのちのパン ・しおかぜホーム
- ・高崎こども食堂らっこ広場



3. (2) 活動に共感してもらうためにはどこに働きかけたらいいかを図を使って丁寧に説明していただいた



3. (3) 実際にツールを使ってチラシをレイアウトしてみた



4. 募集内容をリニューアルして館内やHPに掲載した

アンケート集計結果

2. たがさぼ交流会 (28 件回収/29 人参加)

①年代 (人)

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
0	4	4	8	5	3	3	1

②住まい (人)

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
11	3	2	2	0	10	0

③多賀城との関わり (人) ※複数回答可

住んでいる	職場	活動場所	その他
10	10	11	2

その他 2 人…以前住んでいた/以前働いていた、所属団体のメンバーが住んでいる

④講座をどこで知ったか (人) ※複数回答可

スタッフ	HP	知人・友人	チラシ	市の SNS	その他
17	1	2	6	2	1

⑤満足度 (5 段階評価) (人)

5 (満足)	4	3	2	1 (不満足)	無回答
17	11	0	0	0	0

⑥参加団体種別 (人)

NPO・ 市民活動団体	生涯学習団体	自治会・ 町内会	施設	企業・ 個人事業	個人
12	1	2	6	7	1

○「5」を選んだ理由 (抜粋)

- ・自分の活動する団体のアピールや、他団体様、他機関の方と新しいつながりを持てたことが大変ありがたく貴重な機会でした。多賀城をこれからも盛り上げていければ良いと思います。
- ・地域のために！多賀城のために！と思っている人がたくさんいて幸せになりました。
- ・いろいろなカテゴリーの方と交流できて、とても勉強にもなりました。団体が継続していくことでも必要な企画だと思うので、是非、今後も続けてほしい。
- ・様々な業種の方と交流することで新たなイベントやコラボのアイデアが生まれた。また、普段なかなかふれ合うことができない方と知り合うことができた。

○「4」を選んだ理由（抜粋）

- ・もっといろいろな方と話したかった（1人の話が長いときがあったのでファシリガンばってほしかった…。）
- ・参加者数も多く、他分野で活動されている方からお話を聞けました。
- ・それぞれ助け合える部分が重なると団体同士で協力をしていくことができることを知れてよかったです。
- ・みなさん受け入れる気持ちで参加されていて、様々な活動をしている方がいることを知ることができた。
- ・Eコーナーの異業種交流ですが、できれば皆さんの共通する話題から入っていけたら話が深まって行けたかも。つつい隣の方との話題で2から3人くらいのグループ話題になりがち。最後のころにどういう活動をしている方で、どういうことにかかわっているのかが分かってもっと話したかった。
- ・皆さん世のために素晴らしい情熱を持っていることが分かって、意外と身近な縁でつながりそうとも感じ、今後も参加したいです。

⑦感想・得られたこと（抜粋）

- ・交流会は定期開催することが効果的なのかなと感じました。
- ・仕事で出入りしているところの会長さんや自治会の方、いろんな方と出会えてよかったです。
- ・地区の方（町内会・自治会）の参加が少なかったようなので、次回お会いできたらと思いました。
- ・これからのつながりを考えたとき、HPやSNSは情報の量と質が混沌として「オワコン」になることがそろそろ来ると思います。そんな時にこのような対面での交流会が機能して生きてくると思います。
- ・NPOの活動を行っている方々は、地域のこと・困っている方のことをよく考え活動していることがわかりました。そして持っている課題が似ていることも知れました。一気に状態をよくすることではなく、少しずつこのような交流会を通じて協力関係を作っていくことが、楽しく地域支援をしていくことにつながると思いました。
- ・今後も活動にぜひ連携していきたい方々と会うことができました。
- ・普段はあまり会う機会の少ない様々な企業・職業との方々と交流がはかられ、多様な意見に接し、楽しい有意義な時間を過ごすことができました。
- ・町内会に対するみなさんの受けとめ方は、関心と理解のある人、あまり興味のない人との割合は半々ぐらいかなと感じました。
- ・地域に根差した町内会としての活動はまだ不足をしているのかなと。反省しつつ今後の努力が必要。
- ・皆さんが様々な活動を通して人そして地域に貢献されていることを垣間見ることができました。

⑧今後開催希望の講座・イベント

- ・NPO運営に関するイベント
- ・今回参加された方々、団体で、サポートセンターでお祭りの（文化祭的な）ものをやれたら楽しいんじゃないかと思いました。みなさん意欲的な方々が集まっていたので、協力して何かできたらステキだなと思いました。
- ・分野をしばって一緒にできることを探すのもおもしろそうだなと思いました。
- ・NPO団体さん紹介イベント（→地域の方とのマッチング？）
- ・今日と同じような機会を定期的にもうけてほしい。
- ・共通するような話題や活動団体などへの講座が欲しい。
- ・同様の異業種の皆さまとの交流イベントに期待しています。

3. NPO・市民活動パワーアップ講座

(1) 多様なメンバーと一緒に活動していくコツ (10件回収/11人参加)

①年代 (人)

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0	0	1	3	2	2	0	2

②住まい (人)

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市 宮城野区	仙台市 宮城野区 以外	その他
4	2	2	1	1	0	0	0

③講座をどこで知ったか (人) ※複数回答可

スタッフ	知人・友人	HP・ブログ・ X	チラシ	市のSNS	その他
9	0	0	1	0	1

④満足度 (5段階評価) (人)

5 (満足)	4	3	2	1 (不満足)	無回答
8	2	0	0	0	0

○「5」を選んだ理由 (抜粋)

- ・理念共有などの現状と具体策を整理できたのが良かったと思います。
- ・日頃気にしないことを意識した時間になりました。
- ・メンバーと一緒に活動してきて感じてきた想いの温度差は、本質的な部分での理解や共感の不足から来るものかもしれない、問題は自分自身にあると気づき、NPOの悩みや課題は自分の団体だけじゃないということであまり肩の荷が下りた感じがしたから。

○「4」を選んだ理由

- ・自分のタイプは自覚していて、悪いことだと思っていたけど同じ悩みをみんなが持っていて安心できました。「自分に何が足りないか」まで知れたら良かったです。

⑤ワークの感想や活動に活かそうなこと (抜粋)

- ・受動的だったが能動的になってしてもいいのかもしれないと思えました。
- ・ワークを通して、他の方とディスカッションできたのが良かったです。
- ・代表 (理事) の持ち物を減らす努力をしたいと思います。
- ・今回のワーク用紙を使わせていただきみんなで書いてざっくばらんに話す時間を持ちたいと思う。

⑥今後開催してほしい講座のテーマ

- ・これからもリーダー向け講座があれば、開催してほしいです。

- ・専門的なところだと SEO 対策や google 広告（NPO 法人は月 1 万ドル分無償で使えるので）活用について。
- ・活動の評価のしかたや振り返りのポイント、会計の勘定科目の仕分け内容について。
- ・団体の活動の幅というか、広がり、他団体とのつながりの持ち方など。

⑦その他、今回の講座で学んだことや質問、感想（抜粋）

- ・後進の育て方など、コツを聞けて勉強になりました。
- ・タイトルから「難しいのかな」とか「やたら英語表現があるとそれだけで疲れてしまうな」と不安でしたが、わかりやすい講義であつという間の 3 時間でした。スタッフに対して悶々としていた分がクリアになり、今までに一人で暗中模索、右往左往から導かれるような灯を見いだせた気がします。理念共有・浸透のポイントを意識しながらできるところから実践していきたいと思います。

(2) 知っておきたい会費・寄付のこと（4 件回収/4 人参加）

①年代（人）

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
0	0	2	0	0	2	0	0

②住まい（人）

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市 宮城野区	仙台市 宮城野区 以外	その他
2 人	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

③講座をどこで知ったか（人） ※複数回答可

スタッフ	知人・友人	HP・ブログ・ X	チラシ	市の SNS	その他
2	1	1	0	0	0

④満足度（5 段階評価）（人）

5（満足）	4	3	2	1（不満足）	無回答
4	0	0	0	0	0

○「5」を選んだ理由

- ・ただの資金集めにとどまらず、7 つのサイクルで丁寧に説明していただいたから。
- ・噛み砕いて、図付きで説明していただき、分かりやすかった。
- ・大変勉強になりました。

⑤ワークの感想や活動に活かそうなこと

- ・会社や個人で寄付する側から、していただく側の視点で概要を学べました。まずはネットワーク・パイプづくりが大切と感じました。
- ・キーワードとして「共感」が心に残りました。まずはどんな形になったとしても、事業を言語化して共感につながるように事業の解像度を上げていきたいです。

- ・特にドナーピラミッドは、自分たちの人的資源の整理や組織の運営戦略に役立てられると思いました。

⑥今後開催してほしい講座のテーマ

- ・ N P O の運営、会計、税務の講座
- ・ A I を使った課題の分析とか

(3) 効果的な広報のしかた (5 件回収/5 人参加)

①年代 (人)

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
0	0	0	2	2	1	0	0

②住まい (人)

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市 宮城野区	仙台市 宮城野区 以外	その他
2	0	2	0	0	0	1	0

③講座をどこで知ったか (人) ※複数回答可

スタッフ	知人・友人	HP・ブログ・ X	チラシ	市の SNS	その他
3	1	0	0	0	1

※その他 (仙台市市民活動サポートセンターメルマガ)

④満足度 (5 段階評価) (人)

5 (満足)	4	3	2	1 (不満足)
4	1	0	0	0

○「5」を選んだ理由

- ・ 広報の効果的、戦略的なノウハウを学べてとても参考になった。

⑤日頃の活動に活かそうなこと

- ・ Canva をこれからどんどん使っていこうと思いました。
- ・ チラシづくり
- ・ 広報のあるべき方向性が学べて自信ができました。
- ・ チラシ作成、Word でむずかしいテクニックが Canva で簡単にできる!!すごい♡

⑥今後開催してほしい講座のテーマ

- ・ 実際に市民活動している人に仲間の作り方など聞いてみたい。
- ・ Canva、インスタ講座
- ・ 情報発信の具体的な方法

⑦今回の講座で学んだことや質問、感想など

- ・講師の方々もとても気さくで親切丁寧に教えてくださり、楽しく学ぶことができました！
- ・今後は防災や手作り講座があったら参加してみたい。
- ・単発で終わらずシリーズ化していただけるとありがたいです。
- ・座学はつらい。PPTの資料文字が小さかった。

(5) 情報発信事業 1) フリーペーパー「tag」発行／情報発信事業

目 的	○市民活動や連携に関する発信を行うことで、市民が市民活動に触れる機会を増やす。 ○地域の活動を価値づけし、発信する。
背 景	○平成 25 年 1 月に創刊した「tag」は、地域づくりに関するフリーペーパーとして定着を図りつつ、地域づくりを取り巻く状況の変化に応じて N P O に限らない情報を発信することで、地域の魅力アップや課題解決に向けて働きかけてきた。令和 4 年度からは発行頻度を 2 ヶ月に 1 回に変更し、時節に合った内容を発信することに注力した。 しかし、記事を見てアクションを起こした市民・団体の数はまだまだ少ないという状況にあり、その反省を踏まえ、市民が手にとりやすく、親しみやすい紙面、わかりやすい内容を心がけた。また、「多賀城をもっとよいまちにしていきたい」という想いを持った人・団体・取り組みを取り上げ、それらの活動が促進されるような記事、市民の参画が促進されるような記事、社会・地域の課題解決に向けた取り組みなどを掲載し、地域づくりに関わる人材・資源を増やすことを目標とした。 ○YouTube チャンネルやホームページ、SNS などで団体にとって必要な情報や市民に興味を持ってもらえる情報を引き続き積極的に発信することで、市民活動が身近に感じられる状況をつくり、市民活動の活性化につなげることを目標とした。
対 象	○潜在的活動者（何か活動をはじめたいと考えているが、きっかけがつかめない市民） ○活動者（市民活動や地域活動に関して情報を探している方）
成果目標	○発信した情報をきっかけに市民活動に対する意識が変化し、市民・団体によるアクションが 12 件以上起きる。 ○YouTube の動画コンテンツに関心を示し、定期的に情報を得るためのアクションとして、13 人以上が新たに YouTube チャンネル登録を行う。 ○ブログ「たがさぼ Press」の訪問者数が月平均 3,800 件以上になる。
成 果	○tag をきっかけに、ボランティアを始めた人（1 件）、団体の活動に参加した人（1 件）、取り組みを知り行動につなげている人（1 件）、掲載団体とつながって活動の幅を広げた人（2 件）、活動に共感しメディアでの拡散に協力した人（1 件）が生まれた。 ○取材団体から、tag を告知や活動のアピールに使用している例、取材をきっかけに T S C とつながって事業に参加した例などがある。 ○読者から、掲載内容について関心を持ったという声があった。市民活動に触れる機会、興味を持つ機会となった。 ○YouTube の動画コンテンツに関心を示し、定期的に情報を得るためのアクションとして、11 人（目標比 84.6%）が新たに YouTube チャンネルに登録した。 ○ブログ「たがさぼ Press」の訪問者数が月平均 5,079 件になった（目標比 133.7%）。
次年度に 向けた課題	○アンケートなどで読者の反応を把握する。モニターの導入を検討。 ○WEB 媒体（SNS）を有効活用することで、次世代の無関心層を巻き込む。 ○発信した情報をもとにアクションを起こした市民・団体、掲載後の取材団体の状況を把握することで、さらなる発信のありかたを検討する。 ○「多賀城 LUNCH トーク」と連携し、リアルな場で無関心層が市民活動に関心を持つ機会を創出する。

実施概況（５）情報発信事業 １）フリーペーパー「tag」発行／情報発信事業

１．フリーペーパー「tag」発行

（１）発行形態

- 発行月：令和 6 年 4 月、6 月、8 月、10 月、12 月、令和 7 年 2 月（2 ヶ月に 1 回）
- 様式：A4 裏表 全 2 ページ 両面カラー
- 発行部数：2,000 部
- 誌面デザイン：デザイナー鈴木拓真さんに外注
- 印刷：ラクスル株式会社に外注

（２）内容

- 表ページ
 - ・多賀城の地域資源（人・団体・できごと・もの）を紹介
 - 裏ページ
 - ・特集 1「みんなで考える多賀城のこと」…地域の課題を提示し、解決に取り組む団体を紹介
 - ・特集 2「市民活動はじまりのはじまり」…市民活動に携わる人の活動をはじめたきっかけや想いを紹介
 - ・特集 3「I Love Tagajo」…地域の魅力を伝えるために活動している人を紹介
- いずれかを掲載

（３）配架先（号別部数及び配架箇所数は別項を参照）

- 多賀城市内及び周辺市町公共施設
- 多賀城市内民間施設・店舗（病院、福祉施設、郵便局等）
- 県内外 N P O 支援センター
- マスコミ
- 学校
- 行政機関

(4) 各号の掲載内容

1) 109 号 (4 月発行)

○表ページ

- 「みんなでつくる自由な遊び場！プレイパーク」
- ・内容：冒険あそび場ネット・プレーワーカーズ共同事業体が開設している「加瀬沼公園プレイパーク」について
- ・概要：子どもたちが自分で遊びを見つけ、創り出すことができる遊び場、常駐のスタッフが遊びを見つけるきっかけや環境づくりをしている姿を紹介。
- ・掲載団体：冒険あそび場ネット・プレーワーカーズ共同事業体（NPO法人冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク、一般社団法人プレイワーカーズ）

○裏ページ

- みんなで考える多賀城のこと
- 「必要としている人へ橋渡しするポスト」
- ・内容：学生服リユース Shop さくらやの取り組み「制服回収ポスト」について
 - ・概要：県内に 24 ヲ所設置されている制服回収ポストに込められた想いを紹介。
 - ・掲載団体：学生服リユース Shop さくらや



109 号 表ページ



109 号 裏ページ

4) 112号 (10月発行)

○表ページ

- 「音楽でまちを元気に！地域と奏でるメロディ」
- ・内容：多賀城吹奏楽団の活動について
- ・概要：創設以来、市内を拠点に活動している団体の、地域に根ざした活動をするようになったきっかけや想いを紹介。
- ・掲載団体：多賀城吹奏楽団

○裏ページ

●I Love Tagajo

- 「多賀城碑マニアが伝えるその魅力」
- ・内容：書家の大塚耕志郎さんが語る多賀城碑の魅力について
- ・概要：ランチ時間に話をする、聴く、交流することを目的に開催している「多賀城 LUNCH トーク」の第1回の様子（多賀城碑マニア～その魅力を語る男～）を紹介。
- ・掲載団体：大塚耕志郎さん（書家）

1961年の創設以来、地域を根ざし、市民を元気づける多賀城吹奏楽団。活動が数十年前からスタート。学生時代の多賀城からブラスの仲間を招き、楽団を再開した人など、20代から70代まで20人ほどのメンバーで構成。およそ1回の定期演奏会をはじめ、福祉施設や公民館、ショッピングセンターなどの音楽活動を行っています。

団長の黒崎さんが入団したのは2011年1月。その団長に引継ぎられた大塚さんが、先任団長や当時のメンバーから指導を受け、音楽の楽しさを伝える活動を行っています。7月に開催した多賀城の歴史をテーマにしたコンサートで、大塚さんが指揮を務めました。黒崎さんに音楽が好きでメンバーが集まって、和気あいあいと活動しています。自分たちも楽しんでいる。音楽でまちを元気にしたいと話す黒崎さん。「牛の音楽に合わせたお祭りがあって、音楽がまちを元気づけている。音楽がまちを元気づけている。音楽がまちを元気づけている。」

1961年創設以来、地域を根ざし、市民を元気づける多賀城吹奏楽団。活動が数十年前からスタート。学生時代の多賀城からブラスの仲間を招き、楽団を再開した人など、20代から70代まで20人ほどのメンバーで構成。およそ1回の定期演奏会をはじめ、福祉施設や公民館、ショッピングセンターなどの音楽活動を行っています。

団長の黒崎さんが入団したのは2011年1月。その団長に引継ぎられた大塚さんが、先任団長や当時のメンバーから指導を受け、音楽の楽しさを伝える活動を行っています。7月に開催した多賀城の歴史をテーマにしたコンサートで、大塚さんが指揮を務めました。黒崎さんに音楽が好きでメンバーが集まって、和気あいあいと活動しています。自分たちも楽しんでいる。音楽でまちを元気にしたいと話す黒崎さん。「牛の音楽に合わせたお祭りがあって、音楽がまちを元気づけている。音楽がまちを元気づけている。音楽がまちを元気づけている。」

112号 表ページ

「I Love TAGAJO」多賀城の魅力を伝えるために活動している人をご紹介します。

多賀城碑マニアが伝えるその魅力

毎月1回、多賀城の歴史をテーマにした「多賀城 LUNCH トーク」を開催しています。第1回は、書家の大塚耕志郎さんが多賀城碑について語りました。

多賀城碑マニアが伝えるその魅力

書家としての大塚さんは、多賀城の歴史をテーマにした「多賀城 LUNCH トーク」を開催しています。第1回は、書家の大塚耕志郎さんが多賀城碑について語りました。

多賀城 LUNCH トーク

多賀城の歴史をテーマにした「多賀城 LUNCH トーク」を開催しています。第1回は、書家の大塚耕志郎さんが多賀城碑について語りました。

112号 裏ページ

6) 114号 (2月発行)

○表ページ

●「先生は市民活動団体!!」

- ・内容：多賀城市立高崎中学校、宮城県貞山高等学校、宮城県多賀城高校で行われた市民活動団体による
- ・概要：市内の中学校や高校で取り組まれている探究学習の一環として行われた市民活動団体の授業の様子を紹介。
- ・掲載団体：多賀城視覚障害者福祉協議会、セブンビーチプロジェクト、高崎子ども食堂らっこ広場、NPO法人筋強直性ジストロフィー患者会、一般社団法人Golazo、ともち・カワン・コミュニティ/多賀城市立高崎中学校、宮城県貞山高等学校、宮城県多賀城高校

○裏ページ

●みんなで考える多賀城のこと

「自分らしくいられる場所を」

- ・内容：LGBTQ+の支援団体からりの活動について
- ・概要：多様なセクシュアリティを持つ人たちの居場所づくりや相談の輪を広げることを目指して活動している団体を紹介。
- ・掲載団体：からり



114号 表ページ



114号 裏ペー

(5) 配架

1) 配架箇所数

号数	公共 施設	民間 施設	支援セ ンター	マス コミ	学校	行政	その他	配架箇所 数合計
109 号 (4 月)	71	53	50	20	21	8	21	244
110 号 (6 月)	72	59	49	20	20	8	19	247
111 号 (8 月)	72	59	48	20	20	8	19	246
112 号 (10 月)	71	59	48	20	20	8	19	245
113 号 (12 月)	71	61	49	20	20	8	19	248
114 号 (2 月)	71	61	49	20	20	8	19	248

2) 配架箇所数 前年度末比

号数	公共 施設	民間 施設	支援セ ンター	マス コミ	学校	行政	その他	配架箇所数 合計
令和 6 年度末 (114 号) 配架箇所数	71	61	49	20	20	8	19	248
令和 5 年度末 (108 号) 配架箇所数	71	57	50	20	21	8	21	248
配架箇所数増減	±0	+4	-1	±0	-1	±0	-2	±0

(6) 成果

- ・防災ゲームに関心を持ち団体の活動に取り入れたいと考えた方と掲載団体をつないだ事例が 2 件生まれた（ともに 110 号）。
- ・取材をきっかけに掲載団体が T S C とつながり、T S C の事業に参加して活動に活かしている事例が 1 件生まれた（111 号）。
- ・掲載団体が記事を告知に使用し、活動促進につなげている事例が 2 件生まれた（111 号・112 号）。
- ・記事で紹介した団体の想いに感銘を受けた方が、団体の活動に新たに参加した事例が 1 件生まれた（112 号）。
- ・記事に興味を持った方からのオファーで、取材団体のラジオ出演が決定した事例が 1 件生まれた（112 号）。
- ・ヘッドネーションを初めて知った方が、今後の行動につなげようとしている事例が 1 件生まれた（113 号）。
- ・バックナンバーを読んで団体の活動に興味を持った方が、ボランティアを始めた事例が 1 件生まれた（80 号）。

2. 動画

(1) YouTube「たがさぼチャンネル」

○チャンネル登録者：58 人（令和 7 年 3 月末時点）

※令和 6 年度中に 11 人増加

○動画数：1 本（令和 6 年度新規アップロード）

○投稿動画

1) 事業紹介

- ・タイトル：多賀城みんなの地域学 旭ヶ岡の今は昔
～海軍工廠・米軍ハウス・東北電力学園・東北学院大学～
- ・投稿日：令和 7 年 3 月 31 日（月）
- ・内容：昔の旭ヶ岡を知っている 5 人のインタビュー、
昔の旭ヶ岡について調べている人のインタビュー、T S C 事業「みんなの地域学」の様子。

(2) Instagram リール投稿動画

○動画数：36 本

○投稿動画：「たがさぼのクリスマス雑貨市 2024」出店団体紹介



2. (1) 1) オープニング



2. (1) 1) 米倉さんの紹介場面



2. (2) Instagram リール投稿動画出店団体紹介

(3) その他

○動画数：2本

1) たがさぼのクリスマス雑貨市 紹介動画

- ・内容：雑貨市のコンセプトや今年のテーマ、これまでのイベントの様子。
- ・用途：令和6年11月16日（土）に開催された集会にて上映、令和6年11月26日（火）～12月7日（土）1階ロビーにて上映。

2) 多賀城みんなの地域学 旭ヶ岡の今は昔～海軍工廠・米軍ハウス・東北電力学園・東北学院大学～ インタビュー動画

- ・内容：昔の旭ヶ岡を知っている5人のインタビュー。
- ・用途：令和7年2月11日（火・祝）に開催された事業内で上映。

(4) 成果

- ・雑貨市の出店団体の紹介や、雑貨市のコンセプト、テーマこれまでのイベントの様子を短い動画で簡潔に伝えることで、雑貨市の集客につなげることができた。
- ・旭ヶ岡の歴史を知っている人のインタビューを、ポイントを押さえた編集を施し、地域学のイベントの来場者に伝えることができた。



2. (3) 1) 昨年の雑貨市の様子



2. (3) 2) 米倉末吉さんのインタビューの様子

3. ブログ「たがさぼ Press」

○発信頻度：週 3 回（月・木・土）以上

○記事数：213 本（月平均 17 本）

○訪問者数：60,950 件（月平均 5,079 件）

○カテゴリー別発信内容

カテゴリー名	内容	本数
イベント情報	市内外で行われるイベント情報	26 本
事業のご案内	T S C 主催事業の告知	39 本
施設利用ご案内	T S C の施設についての情報	14 本
資金調達	助成金情報	18 本
事業レポート	T S C 主催事業のレポート	40 本
団体紹介	市内外の団体の取り組みを紹介	14 本
自治会・町内会レポート	市内の自治会・町内会の取り組みを紹介	5 本
市民活動お役立ち情報	市民活動や地域活動に役立つ情報	6 本
スペシャル・レポート	市内外で行われたイベントのレポート	12 本
N P O 法人の数	全国、県内、市内の N P O 法人数、推移	13 本
たがさぼ日記	T S C の日常の様子を紹介	5 本
ニューズレター	フリーペーパー「tag」の情報、取材のこぼれ話	7 本
ボランティア募集情報	ボランティアの募集情報	2 本
スタッフブックレビュー	スタッフによるたがさぼ文庫の所蔵書籍のブックレビュー	6 本
災害関連	災害支援情報	4 本
イノベーション・プロジェクト	新たな切り口の市民参加のプロジェクトを紹介	0 本
3.11 大震災	追悼行事を紹介	2 本
その他	上記カテゴリーに分類できないもの	0 本
計		213 本



3. ブログのトップページ

4. その他の T S C のウェブ媒体による情報発信

○概要

以下に挙げる様々なウェブ媒体を使用し情報発信に取り組み、T S C の情報に触れる機会を増やし、より多くの人に情報が届くように努めた。

(1) ホームページ

- ・ T S C の機能や施設の紹介、T S C 主催の講座・イベントのお知らせ、市民活動団体情報の発信、各種発行物のアーカイブなどを行った。
- ・ 発信頻度：随時（T S C 事業告知時が中心）
- ・ 訪問者数：20,923 件（月平均 1,744 件）

(2) X（旧 Twitter）

- ・ ブログ更新のお知らせ、T S C や利用団体主催の講座・イベントのお知らせ、T S C の様子の紹介などを行った。
- ・ フォロワー数：2,091 名（令和 7 年 3 月末現在）

※令和 6 年度は 5 名増加

- ・ 発信頻度：週 3 回以上
- ・ 投稿数：220 回
- ・ インプレッション（表示）数：50,764 回
- ・ エンゲージング（反応）数：3,373 回
- ・ 「いいね！」数：906 件

(3) Instagram

- ・ T S C 主催の講座・イベントのお知らせ、雑貨市の出展団体紹介などを行った。
- ・ フォロワー数：256 人（令和 7 年 3 月末現在）

※令和 6 年度は 14 名増加

- ・ 投稿数：59 件
- ・ ビュー（表示）数：19,587 回
- ・ リーチ（閲覧）数：13,157 回
- ・ 「いいね！」数：694 件



4. (1) ホームページのトップページ



4. (2) X（旧 Twitter）のプロフィール欄



4. (3) インスタグラムのトップページ

I -4 事業実施状況

Ⅱ

令和 7 年度事業計画

1 令和5～7年度ロードマップ【修正版】

令和6年度の取り組み実績をふまえ、令和7年度の計画立案時に一部修正をおこなった。

2025/3/17修正

		内容	主な対象	R5(2023)事業	R6(2024)事業	R7(2025)事業	めざす姿	地域コミュニティ課 資料との合致
(1)まちをともに創る人を増やす事業	1)TSC運営への市民参画機会創出事業	市民と一緒に地域の状況を共有し、課題を設定し、めざすまちの姿を描き、解決に向けて必要なアイデアを出し合い、TSCの事業案に落としていく場づくりに取り組み始める。	市民活動団体、自治会・町内会、事業者、学校等の地域のさまざまな主体	1)話し合いの場づくり(課題はTSCが設定) 2)TSCの取り組みに活かす	1)話し合いの場づくり(課題はTSCが設定) 2)取り組み実践	1)話し合いの場づくり 2)取り組み実践・仕組み化	・TSCが地域のことを考えるフラットな場として機能するような関係性が育まれている。	【地域の担い手育成】 【連携による課題解決】 【情報発信】 ・地域課題の把握に努める
	2)多賀城のまちの未来を描くフューチャーセッション事業	市民が主体となり、多賀城のまちについて考え、課題を設定し、実現可能な対応策を考える場(＝フューチャーセッション)を重ね、市民提案として市と話す場をつくる。	市民活動団体、自治会・町内会、事業者、学校等の地域のさまざまな主体	1)フューチャーセッション	2)実践に向けた伴走	3)提案の場	・市民の提案力が向上している。 ・行政との協働による地域づくりが進んでいる。 ・既活動者が他の活動者を支える側になっていく。	【連携による課題解決】 ・市民が主体となり、多賀城のまちについて考え、課題を設定し、実現可能な対応策を考える場(＝フューチャーセッション) 【地域の担い手育成】
(2)関わりしるを増やす支援事業	自治会・町内会等の関わりしるを増やす支援事業	コロナ禍から活動を再開する自治会・町内会の支援をきっかけに、既存の取り組みの棚卸の支援、既存の活動の見直しや新たな取り組み開始の支援を行う。	自治会・町内会＋潜在的活動者 市民活動団体	1)既存の取り組みの棚卸の支援、既存の活動の見直しや新たな取り組み開始の支援 2)テーマ型自治会・町内会情報交換会 3)地域学：市民が自分の住む地域のことを知り、発信することをサポート 4)自治会・町内会の取り組みヒアリング・発信事業		1)地域に新たな人材や世代が関わるための支援、新たな取り組みの支援・情報交換 2)地域の多様なセクターが連携し、ネットワークづくりや取り組みを生む支援	・地域での自主的な取り組みが増えている。 ・既存の取り組みを変化させたり、連携の視点を持つことで、持続可能な地域運営につながっている。	【自治会町内会】 ・町内会同士の情報交換の機会の提供 ・町内会等に対するアウトリーチ支援の実施 【連携による課題解決】
(3)新たな地域の担い手発掘・育成事業	R5年度 1)次世代活躍事業 R6年度 1)新しい人材活動支援事業	小中高生などの世代が地域に関わる機会を創出し、情報提供やコーディネートを行うことで、新たな地域の担い手育成を進めていく。	小中高生など未来を担う世代	1)きつず講座(雑貨市と連携) 2)中学校・高校のボランティアコーディネート支援の模索(町内会支援と連携) 3)中高への市民活動に関する授業提案 4)Tagajo Future Labo部(中学生版TF L)	1)NPOいちから塾(テーマ型含む) 2)中学校・高校のボランティア活動支援(個別相談対応) 3)地域との関わりしるを増やす仕掛け 4)スタートアップ支援・継続支援		・NPOやボランティアについて知り、地域・社会の課題解決に目を向ける小中高生が増えている。 ・身の回りの困りごと、課題を自らの手で解決しようとする中高生が増えている。	【地域の担い手育成】 ・高校生が活躍する場づくりの実施
	2)市民参画促進事業	関わってみたい楽しく、まちがもっと好きになるような多様な取り組みを既活動団体と一緒に増やしていく。	無関心層 潜在的活動者	1)雑貨市 2)NPOいちから塾 3)ボランティア講座(NPO支援と連携) 4)気軽に活動に参加できる仕掛けづくり(多賀城市内のイベントへの出演等)	1)多様な主体で取り組む雑貨市 2)きつず講座等 3)市民活動を知る機会の創出(多賀城LUNCHトーク)		・地域の活動に参加し得る新たな人材が発掘されている。 ・地域活動への関わり方を知り、自分のできるかたちで関わる市民が増えている。	【地域の担い手育成】
(4)NPO支援事業	NPOつながり事業	自団体の弱み強みを知り、団体運営力のアップを図るよう支援することで、他の団体やセクターとつながり、団体を理解し支援する人や連携する団体を増やす。また、ボランティア情報の収集・発信を通して市民活動に関わる市民を増やす。	NPO 市民活動団体	1)インキュベーター伴走支援 2)運営力、発信力アップ講座 3)NPO等交流会 4)団体とボランティアをしたい市民のコーディネート		2)他セクターとの連携のためのカブ付け講座 3)他セクター・市民への発信のための交流会 4)人材受入れのための団体のカブ付け	・各団体が、自らの活動を見通すことで運営力がアップしている。 ・他の団体や市民と連携して、地域・社会の課題が解決できるようになっている。 ・ボランティアなど地域人材を活用できるようになっている。	【連携による課題解決】 【地域の担い手育成】
(5)情報発信事業	フリーペーパー「tag」発行/情報発信事業	市民活動や連携に関する発信を行うことで、市民が市民活動に触れる機会を増やす。	市民(受益者含む) NPO 市民活動団体	1)フリーペーパー「tag」発行(隔月A4両面) 2)各種ウェブ媒体の活用・連結		3)多賀城LUNCHトーク(多様なセクターがタグを組める場の創出)	・市民が市民活動の情報に触れる機会が増えている。 ・得た情報をもとに、地域での活動や課題の解決に向けたアクションを起こす市民が増えている。	【情報発信】